

ヒラメ属 *Paralichthys olivaceus* (Temminck & Schlegel, 1846)**ヒラメ** 珍しさ★★■ ヒラメ *Paralichthys olivaceus* KAUM-I. 74768, 159.2 mm SL

【解説】体は著しく側扁し、口は大きい。体は前後方向に長い楕円形に近い形状を呈する。仔魚は水深 25 m 付近に多く、動物プランクトンをおもな餌とする。着底後、全長 110 mm 以下の個体ではアミ類を、その後 140 mm 未滿にかけてはアミ類に加えカタクチイワシなどの小型魚類を餌とするようになり、その後はさらに魚食性が強くなることが知られている（石田ほか、1977；桑原・鈴木、1982；山田ほか、1998）。天然魚の漁獲は北海道や青森県において盛んであるが、養殖個体に関しては、鹿児島県は大分県と並ぶ日本でも有数の生産県である。内之浦湾においては釣りなどによって漁獲され、活魚として市場にだされることが多い。いわずとした高級魚で、生食でも火を通して美味。（畑 晴陵）



■ ヒラメの大型個体（2006年2月8日撮影）

ガンゾウビラメ属 *Pseudorhombus duplificioellatus* Regan, 1905

メガレイ 珍しさ ★★★★★



■ メガレイ *Pseudorhombus duplificioellatus* KAUM-I. 82784, 37.9 mm SL

【解説】有眼側の体側に、2個の褐色斑が1つになった眼状斑が複数ある（写真の個体では3つ）。鰓耙は他の多くの同属他種と異なり櫛状ではなく、掌状。その独特の色彩から、同属他種とは容易に識別される。国内では静岡県から鹿児島県にかけての太平洋沿岸と、山口県から鹿児島県にかけての日本海・東シナ海沿岸から報告されている。内之浦湾においては非常に稀な種と思われ、本調査でも写真の個体のみが確認された。（畑 晴陵）

ガンゾウビラメ属 *Pseudorhombus levisquamis* (Oshima, 1927)

台湾ガンゾウビラメ

珍しさ ★★★★★



■ 台湾ガンゾウビラメ *Pseudorhombus levisquamis* KAUM-I. 98088, 309.5 mm SL

【解説】有眼側の側線屈曲部に白色に縁取られた黒色斑がある。有眼側の体側鱗のほとんどは円鱗であるが、体背縁と体腹縁の付近のもののみ弱い楕鱗。無眼側の体側鱗は一様に円鱗。有眼側の体側に1眼状斑を有することで本種に酷似するガンゾウビラメ（本書未掲載）は、有眼側の体側鱗が一様に楕鱗であることにより本種と識別される。水深30 m以浅に生息し、日本国外では台湾、中国南部から記録がある。日本国内においては内之浦湾のほか、これまで相模湾、和歌山県と高知県、鹿児島県志布志湾から記録があるのみ（大橋・本村、2011；尼岡、2016）。内之浦湾においては稀な種であり、上記個体が確認されたのみ。本種を含めて、ガンゾウビラメ属各種は内之浦において、「かり」と称され、大型個体は食用に供され、活魚として流通することが多い。（畑 晴陵）

ガンゾウビラメ属 *Pseudorhombus pentophthalmus* Günther, 1862

タマガンゾウビラメ 珍しさ ★★★



■ タマガンゾウビラメ *Pseudorhombus pentophthalmus* KAUM-I. 14724, 93.6 mm SL

【解説】有眼側の体側の側線上方に3個、下方に2個の黒色斑があるが、斑紋が不明瞭な個体や欠如した個体など様々なタイプが認められている（尼岡、2016）。よく似たヘラガンゾウビラメ（本書未掲載）の有眼側の体側には眼状斑や輪状斑が多数散在することにより識別される。北海道から九州南岸にかけての太平洋沿岸、日本海・東シナ海沿岸、および瀬戸内海に分布する。国外では朝鮮半島、台湾、中国、インドネシアのジャワ島・スマトラ島に分布する。内之浦湾では稀に定置網により漁獲されるが、最大でも体長15 cm程度の小型種であり、食用となることはない。（畑 晴陵）



■ タマガンゾウビラメの頭部
(KAUM-I. 14724, 93.6 mm SL)

アラメガレイ属 *Tarphops oligolepis* (Bleeker, 1858)**アラメガレイ** 珍しさ ★★★

■ アラメガレイ *Tarphops oligolepis* KAUM-I. 55506, 40.0 mm SL

【解説】有眼側の体側には淡褐色斑が散在し、体側鱗は剥がれにくい。同属のユメアラメガレイ（本書未掲載）は体側が一様に茶褐色を呈し、体側鱗が剥がれやすいことなどにより、アラメガレイと識別される。口は小さく、上顎後端は眼の中央に達しない。国内における分布は広く、茨城県以南の太平洋沿岸、北海道から九州南岸にかけての日本海・東シナ海沿岸、および瀬戸内海に分布する。内之浦湾では定置網により散発的に得られるが、最大でも体長6 cm程度の小型種であり、食用となることはあまりない。岡山県では10個体ほど並べて1枚の干物にし、この製品を「ツンコガレイ」と呼び、炙って食すという（尼岡、2016）。（畑 晴陵）

ホシダルマガレイ属 *Bothus myriaster* (Temminck & Schlegel, 1846)

ホシダルマガレイ

珍しさ ★★★★★



■ ホシダルマガレイ *Bothus myriaster* KAUM-I. 98030, 58.9 mm SL, メス

【解説】体側有眼側は淡い黄土色を呈し、側線直走部に暗色斑がある。両眼は大きく離れ、大型個体ほど顕著。有眼側の体側鱗は縁辺部のものを除いて円鱗。胸鰭は著しく伸長する。オスは無眼側の体側に非常に細かい暗色帯が多数はいる。最大で体長 27 cm に達し（尼岡、2016）、幼魚や若魚の体は円形に近いが、成長に伴い楕円形となる。若魚は水深 30 m ほどの浅所に多く生息するが、成魚では 150 m 以深にも現れる（尼岡、1997）。日本国外では韓国、台湾、ベトナム、フィリピン、インドネシアのスマトラ島、オーストラリアのロードハウ島、およびアフリカ東岸から知られる。国内においては島根県沖、山口県日本海沿岸、相模湾から宮崎県にかけての太平洋沿岸、および屋久島南東沖から報告されており、本報告が鹿児島県本土における本種の初めての記録となる。（畑 晴陵）

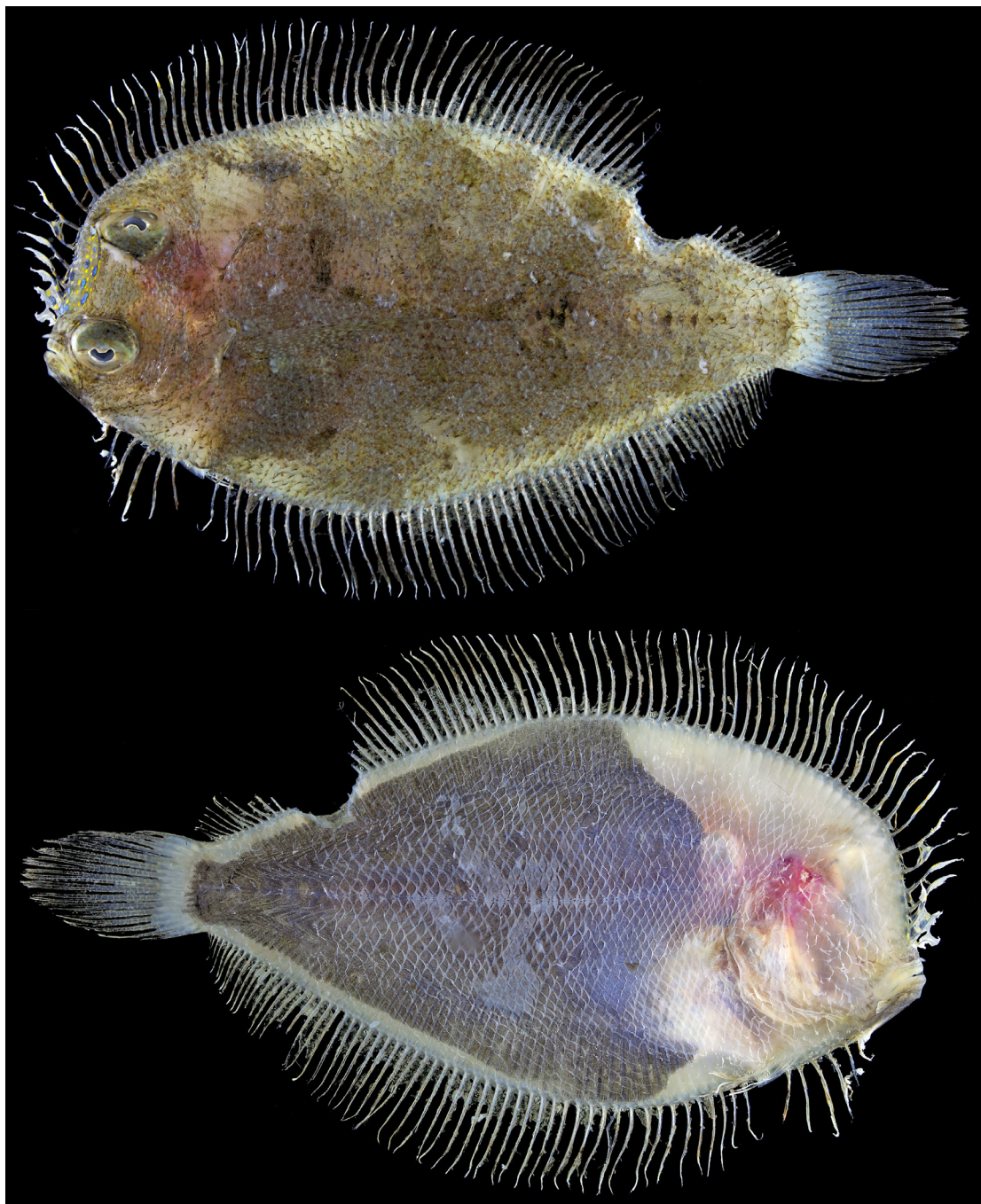


■ ホシダルマガレイの無眼側（KAUM-I. 98030, メス）

コウベダルマガレイ属 *Crossorhombus kobensis* (Jordan & Starks, 1906)

コウベダルマガレイ

珍しさ ★★★★★



■ コウベダルマガレイ *Crossorhombus kobensis* KAUM-I. 74767, 55.6 mm SL, オス

【解説】有眼側の体側は暗褐色。胸鰭最上部の軟条は糸状に伸長する。オスの眼隔域には小青色斑が散在する。オスの無眼側には濃紫色斑がある。この濃紫色斑の大きさ・形状は種によって異なり、本種では鰓蓋よりも後方全ての無眼側体側を覆うが、カネコダルマガレイ（本書未掲載）では小さく、無眼側の一部のみを覆う。また、カチドキダルマガレイ（本書未掲載）においては、濃紫色斑がV字状を呈する。房総半島以南の太平洋沿岸、新潟県以南の日本海沿岸・東シナ海沿岸、大隅諸島、伊豆諸島、八丈島から記録がある。なお、コウベダルマガレイは内之浦湾においては極めて稀な種とみられ、本研究においても写真の1個体のみが得られた。（畑 晴陵）

ダルマガレイ属 *Engyprosopon grandisquama* (Temminck & Schlegel, 1846)

ダルマガレイ 珍しさ★★

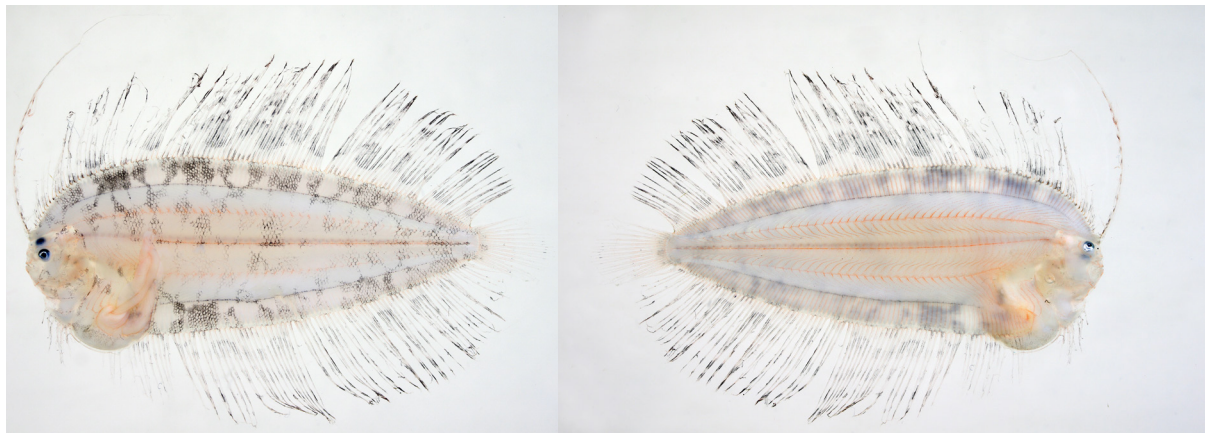


■ ダルマガレイ *Engyprosopon grandisquama* KAUM-I. 44854, 63.1 mm SL, メス

【解説】尾鰭に1対の黒色斑がある。有眼側は淡褐色を呈し、鱗は剥がれやすい。両眼間隔域は平坦で、広い（オスがより広い）。体高が高く、体長の50%を越え、体形は丸みを帯びる。よく似たチカメダルマガレイ（本書未掲載）は体高が低く、体高が体長の50%未満であるほか、両眼間隔が狭いことなどにより識別される。国内では兵庫県香住以南の日本海・東シナ海沿岸と、相模湾以南の太平洋沿岸に分布する。水深30 m以浅の砂泥底に生息し、内之浦湾においても頻繁に定置網に入る。最大でも体長11 cm程度の小型種であり、練り物の原料や、乾物とされる程度（尼岡、2016）。（畑 晴陵）

ヤリガレイ属 *Laeops kitaharae* (Smith & Pope, 1906)**ヤリガレイ** 珍しさ★★■ ヤリガレイ *Laeops kitaharae* KAUM-I. 89498, 74.3 mm SL

【解説】成魚の体は前後方向に細長い楕円形を呈し、有眼側の体色は一様に茶褐色。両顎歯は無眼側にのみそなえる。側線鱗数は93～105。前鰓蓋骨は後方に膨出せず、直角に近い角度で屈曲する。ホシヤリガレイ（本書未掲載）は体側に小黑斑が散在すること、前鰓蓋骨下縁が膨出することなどにより識別される。仔魚の体は白色半透明で、不規則な黒色斑が散在する。背鰭と臀鰭の軟条が成魚と比較して著しく長い。内之浦湾においては幼魚が定置網に数多く得られているが、成魚は確認されていない。成魚は水深70 m以深に多く生息することから、成長に伴い志布志湾やさらに沖合などの深場へと移動しているものと思われる。内之浦における利用はない。得られた7.5 cmの個体では無眼側から有眼側へと眼が移動していたが、6.9 cmの個体（写真は次ページ）では移動していなかった（畑 晴陵）



■ ヤリガレイ *Laeops kitaharae* KAUM-I. 86542, 69.4 mm SL

イイジマダルマガレイ属 *Psettina iijimae* (Jordan & Starks, 1904)

イイジマダルマガレイ 珍しさ ★★★★★



■ イイジマダルマガレイ *Psettina iijimae* KAUM-I. 60806, 53.5 mm SL

【解説】有眼側の体側は淡褐色を呈し、輪郭の不明瞭な白色斑と黒色斑が散在する。体背縁と体腹縁の黒色斑は背鰭と臀鰭に及ぶ。尾鰭に暗色横帯がある。その特徴的な色彩から、近縁種との識別は容易。国外では韓国、台湾、中国の広東省・海南島、およびインドネシアから記録がある。これまで国内からは駿河湾以南の太平洋沿岸、新潟県から長崎県橋湾までの日本海・東シナ海沿岸、鹿児島湾からの記録がある。内之浦湾においては稀な種と思われる、本調査でも写真の個体のみが確認された。(畑 晴陵)



■ イイジマダルマガレイの頭部 (KAUM-I. 60806)

メイタガレイ属 *Pleuronichthys cornutus* (Temminck & Schlegel, 1846)

ナガレメイタガレイ 珍しさ★★

■ ナガレメイタガレイ *Pleuronichthys cornutus* KAUM-I. 98019, 119.2 mm SL

【解説】体は一様に茶褐色を呈し、焦げ茶色の小斑点が散在する。メイタガレイ *Pleuronichthys lighti* Wu, 1929（本書未掲載）とは形態的に非常によく似ており、識別が困難であるが、体側中央に並ぶ縦列鱗数と側線下方横列鱗数がメイタガレイではそれぞれ 88 以上と 59 以上であるのに対し、ナガレメイタガレイではそれぞれ 87 以下と 57 以下であること、有眼側の小黑斑がメイタガレイでは不定形であるのに対し、ナガレメイタガレイでは小円形を呈するものが多いことなどによって識別される（Suzuki et al., 2009; Yokogawa et al., 2014; 尼岡, 2016）。メイタガレイとナガレメイタガレイに適用すべき学名は長らく不明であったが、Suzuki et al. (2009) はメイタガレイに対しては *P. cornutus* を適用する一方で、ナガレメイタガレイは適用すべき学名のない未記載種であり、*P. japonicus* Suzuki, Kawashima & Nakabo, 2009 として新種記載をおこなった。しかしその後、Yokogawa et al. (2014) によって、*P. cornutus* はナガレメイタガレイに適用すべき学名であり、メイタガレイには Suzuki et al. (2009) において *P. cornutus* の新参異名とされた *P. lighti* を適用すべきことが明らかにされた。内之浦湾においては定置網により普通に得られるものの、最大でも体長 20 cm 程の小型種で肉量に乏しいことから、内之浦では食用となることはほとんどない。（畑 晴陵）

ツノウシノシタ属 *Aesopia cornuta* Kaup, 1858

ツノウシノシタ 珍しさ ★★★



■ ツノウシノシタ *Aesopia cornuta* KAUM-I. 74758, 149.5 mm SL

【解説】有眼側の体側には黒色横帯が多数はいる。背鰭第1軟条は太く、伸長する。また、両眼間隔域は隆起し、無鱗。背鰭と尾鰭、臀鰭と尾鰭はどちらも連続する。インド・西太平洋に広く分布し、国内では千葉県以南の太平洋沿岸と、山口県以南の日本海・東シナ海沿岸から記録がある。一般的に水深100 m前後の砂泥底に多く生息するとされるが、内之浦湾では水深30～40 mに設置された定置網に頻繁に得られる。最大でも体長20 cm程度の小型種であることから、食用にされることはほとんどないと思われる。(畑 晴陵)



■ ツノウシノシタの無眼側 (KAUM-I. 73962)



■ ツノウシノシタ *Aesopia cornuta* KAUM-I. 73962, 118.1 mm SL

トビササウシノシタ属 *Aseraggodes kobensis* (Steindachner, 1896)

トビササウシノシタ

珍しさ ★★★★★



■ トビササウシノシタ *Aseraggodes kobensis* (2007年2月15日撮影)

【解説】有眼側は一様に茶色を呈し、不明瞭な濃褐色斑が散在する。有眼側の前鼻管は短く、下眼の前縁に達しない。無眼側は一様に乳白色。体形などはモヨウウシノシタ(本書未掲載)に類似するが、有眼側に網目状の斑紋がない(モヨウウシノシタでは有眼側体側縁辺部に網目模様がある)ことで識別できる。水深 100 m 近くの砂泥底に多く生息し、水深の浅い内之浦湾において漁獲されることは極めて稀。最大でも体長 10 cm 程度の小型種であり、食用となることはないものと思われる。(畑 晴陵)

ササウシノシタ属 *Heteromycteris japonica* (Temminck & Schlegel, 1846)

ササウシノシタ 珍しさ ★★★



■ ササウシノシタ *Heteromycteris japonica* KAUM-I. 74755, 63.9 mm SL

【解説】口が鉤状に著しく湾曲し、有眼側の体側には黒色と白色の小斑点が散在する。本種と同様に口が著しく湾曲するモンツキウシノシタ（本書未掲載）は有眼側体側に馬蹄状の暗色斑が3対あることで、本種と識別される。青森県から九州南岸にかけての太平洋・日本海・東シナ海沿岸、および瀬戸内海に広く分布する。国外では韓国、中国の広西省、および海南島から記録がある。内之浦湾においては定置網によって時折得られるものの、最大でも体長 15 cm 程度の小型種であることから、食用魚として扱われることはほとんどないものと思われる。（畑 晴陵）



■ ササウシノシタ *Heteromycteris japonica* KAUM-I. 83539, 61.9 mm SL

セトウシノシタ属 *Pseudaesopia japonica* (Bleeker, 1860)

セトウシノシタ

珍しさ ★★★★★



■ セトウシノシタ *Pseudaesopia japonica* (2013年7月23日撮影)

【解説】有眼側の体側の地色は淡褐色で焦げ茶色の横帯が多数ある。各横帯の中央部の色は淡い褐色。尾鰭後縁は黒色。尾鰭は背鰭・臀鰭と基底部付近でのみ連続する。有眼側の前鼻管は長く、下眼の前縁よりも後方に達する。日本のほか朝鮮半島南岸、および台湾に分布する。国内では北海道から九州南岸にかけての日本・東シナ海・太平洋沿岸、瀬戸内海、および東シナ海大陸棚域に広く分布する。水深 100 m 前後の砂泥底におもに生息し、水深の浅い内之浦湾において漁獲されることは極めて稀。体長 15 cm 程度の小型種であり、市場に並ぶことはないものと思われる。(畑 晴陵)

シマウシノシタ属 *Zebrias zebrinus* (Temminck & Schlegel, 1846)

シマウシノシタ 珍しさ★★



■ シマウシノシタ *Zebrias zebrinus* KAUM-I. 83536, 143.7 mm SL

【解説】有眼側の体側には黒色横帯が多数はいる。背鰭軟条数は68～82、臀鰭軟条数は56～70。青森県から九州南岸にかけての日本海・東シナ海・太平洋沿岸、および瀬戸内海に広く分布する。内之浦湾においても定置網により頻りに漁獲されるものの、ツノウシノシタと同様、最大でも体長20 cm程度の小型種であることから、食用にされることはなく、もっぱら養殖餌料となる。(畑 晴陵)

イヌノシタ属 *Cynoglossus bilineatus* (Lacepède, 1802)**オオシタビラメ** 珍しさ ★★★■ オオシタビラメ *Cynoglossus bilineatus* KAUM-I. 24326, 354.5 mm SL

【解説】有眼側は黒みを帯びた茶褐色。口は著しく湾曲し、口唇に皮弁を欠き、無眼側にも有孔側線を有することにより、日本産同科他種と容易に識別される。オーストラリア北東岸とソロモン諸島を東限としてインド・西太平洋に広く分布し、日本国内においては神奈川県から九州南岸にかけての太平洋沿岸、広島県尾道、福岡県津屋崎、および東シナ海から記録がある。体長 40 cm に達し、本科魚類としては比較的大型の部類であるため、内之浦漁港では単独で市場に並んでいた。(畑 晴陵)

■ 市場に並ぶオオシタビラメ *Cynoglossus bilineatus* (2014年6月19日撮影)

イヌノシタ属 *Cynoglossus ochiaii* Yokogawa, Endo & Sakaji, 2008

オキゲンコ 珍しさ ★★★



■ オキゲンコ *Cynoglossus ochiaii* KAUM-I. 89433, 92.6 mm SL

【解説】有眼側の体側に3本の側線を有し、胸鰭を除く各鰭の鰭条に褐色斑がはいる。よく似たゲンコ（本書未掲載）は側線が2本しかないことで識別できる。オキゲンコは長らくゲンコの種内変異として扱われてきたが、Yokogawa et al. (2008a) のアイソザイム分析の結果によりこれら2種が別種であることが明らかにされ、Yokogawa et al. (2008b) によりオキゲンコが新種として記載された。内之浦湾において水揚げされることは稀であるが、鹿児島湾や志布志湾においては底曳網により多く漁獲されることから、内之浦湾にも一定の個体数があるものと思われる。

(畑 晴陵)



■ 鰭立て前のオキゲンコ *Cynoglossus ochiaii* (KAUM-I. 89433, 92.6 mm SL)

台湾シタビラメ属 *Paraplagusia japonica* (Temminck & Schlegel, 1846)

クロウシノシタ

珍しさ★★

■ クロウシノシタ *Paraplagusia japonica* KAUM-I. 62295, 309.8 mm SL

【解説】体は有眼側では各鰭を含めて一様に緑がかった茶褐色を呈するが、無眼側の背鰭と臀鰭は黒色を呈し、外縁は白色に縁取られる。口は著しく湾曲し、唇に髭状の細かい皮弁をそなえる。有眼側の側線は3本。北海道から九州南岸にかけての日本海・東シナ海・太平洋沿岸、および瀬戸内海に広く分布する。国外では朝鮮半島、台湾、および中国東シナ海。南シナ海沿岸に分布する。内之浦湾においては定置網で頻繁に漁獲される。体長 30 cm 以上に成長する中型種であり、食用魚として取引される。(畑 晴陵)

■ クロウシノシタ
KAUM-I. 56725, 261.8 mm SL

モンガラカワハギ属 *Balistoides viridescens* (Bloch & Schneider, 1801)

ゴマモンガラ 珍しさ★★★★

■ ゴマモンガラ *Balistoides viridescens* (2015年11月12日撮影)

【解説】モンガラカワハギ科は腹鰭がなく、腰骨後端に痕跡的な1棘がある。背鰭棘は3棘で、体には鱗が瓦のように並び体表は硬い。本種は体が明瞭な鱗模様の墨色で、頬部と各鰭が黄色い。幼魚はキヘリモンガラ（本書未掲載）の幼魚に似るが、眼から胸鰭基部へと向かう暗色帯がある（キヘリモンガラではない）、背鰭起部から臀鰭基部後端へと繋がる暗色帯をもつ（繋がらない）ことで識別される。ゴマモンガラの成魚はサンゴ礁域に生息し、大きい個体は単独で見られる。小型個体は砂底・砂泥底域に点在するサンゴの近くで見られ、危険を感じるとサンゴの隙間に逃げ込み、背鰭をたてて入った穴に体を固定する。大型個体は夜になると狭いサンゴの隙間に入り込んで眠る。産卵床に卵を産み、オスが守るため、卵を守るオスは気性が荒く、近くを通るダイバーに対して歯をカチカチと鳴らして威嚇をしたり、時には攻撃することもあるというものの、国内においては産卵床をみることは稀である。ただし、顎の力は非常に強いいため、生体の取り扱いには注意が必要。国内では神奈川県三浦半島以南の太平洋沿岸に分布するが、琉球列島や小笠原諸島でより多い。とりわけ、成魚は南日本太平洋沿岸域において稀。内之浦では成魚1個体と幼魚2個体のみが得られており、やはり稀である。食用としては利用されていないものと思われる。皮が非常に厚く、強固であるため捌くのに苦労するが、沖縄・奄美地方では食用とされている。身は意外にも赤い。喜界島で肝臓を炙ったものを醤油で解いたタレを付けて刺身を食したが、こりこりとした食感で美味であった。（小枝圭太）

■ ゴマモンガラの幼魚
(KAUM-I. 43913, 27.2 mm SL)

メガネハギ属 *Sufflamen fraenatum* (Latreille, 1804)**メガネハギ** 珍しさ ★★★★★■ メガネハギ *Sufflamen fraenatum* KAUM-I. 96493, 236.7 mm SL, オス

【解説】体は暗褐色で、下顎下部は黄色。性的二型（オスとメスで体色や形態が異なる）があり、オスは下顎部から胸鰭基部にむかって細い白色斜帯が伸びる。水深 50 m 以浅のサンゴ礁域に単独で生息する。危険を感じるとサンゴや岩の隙間に逃げ込み、太くて強固な背鰭棘を使って穴の中で突っ張る。モンガラカワハギ科魚類は、この特徴的な背鰭棘を銃の引き金に例えて英名では「トリガーフィッシュ」と呼ばれる。強力な顎でウニ類、カニ類、貝類の他に小さな無脊椎動物を食べ、サンゴ礁域で餌釣りをすると同じモンガラカワハギ科であるツマジロモンガラやクマドリ（いずれも本書未掲載）とともに貪欲に食いついてくる。釣り上げると「グブグブ」と音を鳴らす。国内では小笠原諸島や琉球列島に多い。千葉県館山以南の太平洋沿岸や山口県日本海沿岸にも分布するが、多くは幼魚であり稀である。内之浦漁港では写真の成魚 1 個体のみ得られており、極めて稀。モンガラカワハギ科の魚は意外にも身が赤味がかっている。食感がしっかりとしていて、それなりに美味だがカワハギ科が食用魚として重宝されているの比べると、その価値は総じて低い。（小枝圭太）



■ メガネハギをはじめとするモンガラカワハギ科魚類の背鰭棘はとても太い（KAUM-I. 96493）

ウスバハギ属 *Aluterus monoceros* (Linnaeus, 1758)

ウスバハギ 珍しさ ★



■ ウスバハギ *Aluterus monoceros* KAUM-I. 96816, 477.5 mm SL

【解説】カワハギ科はモンガラカワハギ科と同様に腹鰭がない。背鰭棘は2棘で、微小な鱗で体表が被われるためやや皮膚は軟らかい。体は卵型で、体高が高く、著しく側扁する。本種は体が灰白色で明瞭な模様がなく、尾鰭が截形。浅海に生活し、群れを作る。小型個体は港内の流れのない場所の水面付近に浮かんでいる姿がみられる。国内では北海道から九州南岸の太平洋・日本海・東シナ海沿岸に多く分布する。瀬戸内海や琉球列島、小笠原諸島でもみられるがその数は少ない。美味な魚で、体長50 cm以上の個体が定置網で数多く漁獲される。鹿児島県本土においては本種のことを「カワハギ」や「ウマヅラハギ」と呼称する。内之浦漁港では漁師と市場で呼び名が異なる稀有な種で、漁業者たちは「ジャンボ」と呼び、市場では「ハゲ」と呼ばれる。2009年には体長数cmの幼魚が生きたまま得られており、しばらくのあいだ、いおワールドかごしま水族館で飼育されていた。(小枝圭太)



■ 市場に並ぶウスバハギ *Aluterus monoceros* (2017年1月11日撮影)



■ 活魚とされるウスバハギ *Aluterus monoceros* (2017年1月11日撮影)



■ 飼育されたウスバハギの幼魚 (2009年6月18日撮影)

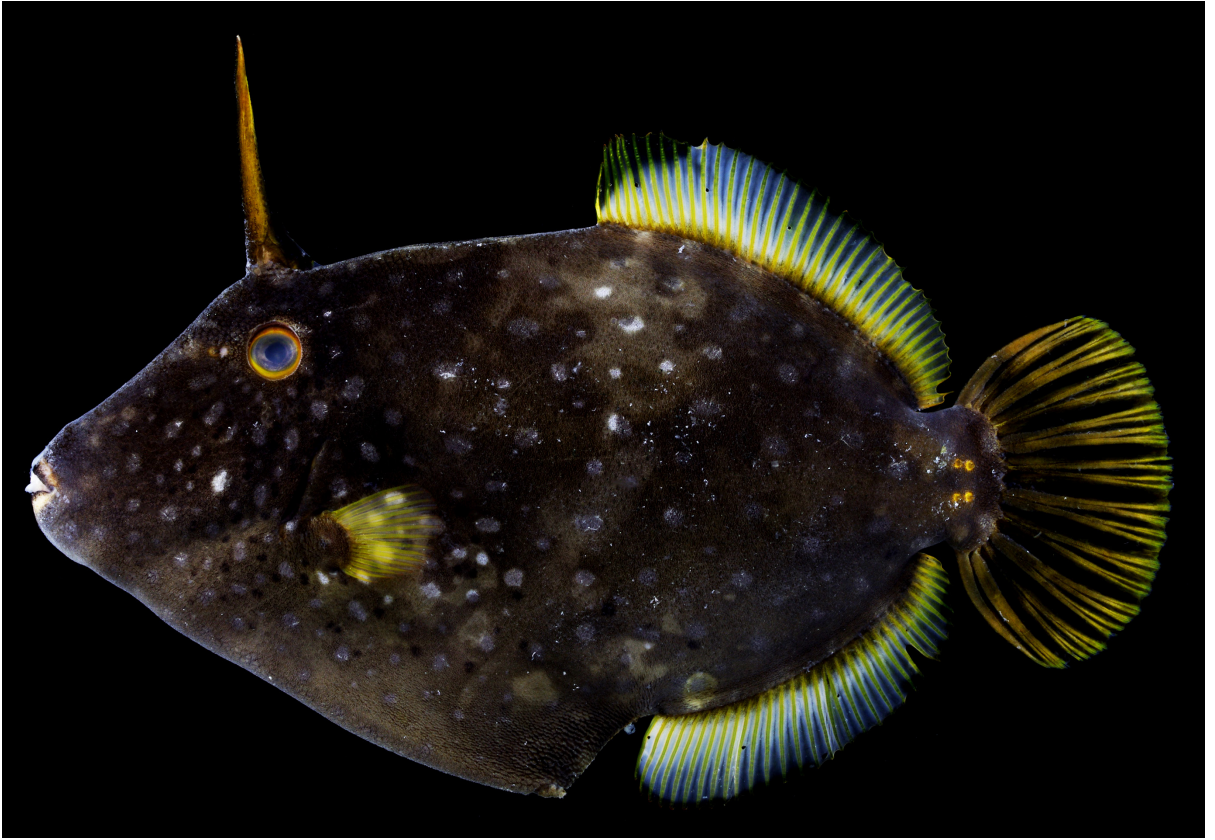
ウスバハギ属 *Aluterus scriptus* (Osbeck, 1765)**ソウシハギ** 珍しさ ★★★★★■ 飼育されたソウシハギ *Aluterus scriptus* (2008年5月12日撮影)

【解説】体形はウスバハギに似るが、尾鰭が長く、体が緑色で体側に青色の虫食い模様があることで容易に識別される。全世界の熱帯域に分布し、おもにサンゴ礁域で悠々と泳ぐ姿が単独で見られる。夜間でもゆっくりと泳いでいるが、反応がさらに鈍い。国内では北海道から九州南岸では散発的にみられ、琉球列島や小笠原諸島で多い。それなりに美味しい魚だが、個体によっては腸にバリトキシンという猛毒をもつことがあるため、食べる際は内臓を傷つけないよう細心の注意が必要（そもそも食べないことが強く推奨されている）。琉球列島では、毒をもつ危険な魚としてある程度は認識されているものの、南日本沿岸では出現が稀なためかその認識が薄い。とりわけ、近年は出現例が増加している傾向があり、実際に本種を食べたことによる被害もでている。尾鰭を含めると1 m 近くまで成長するため、肉の量はそれなりに多いが、食感がやや柔らかく、味が薄いため、カワハギやウマヅラハギなどと比べて食用としての評価ははるかに低い。内之浦漁港では2008年5月に漁獲され、しばらくのあいだ、いおワールドかごしま水族館で飼育されていた。(小枝圭太)

センウマヅラハギ属 *Cantherhines dumerilii* (Hollard, 1854)

ハクセイハギ

珍しさ ★★★★★

■ ハクセイハギ *Cantherhines dumerilii* KAUM-I. 89404, 170.0 mm SL

【解説】体は著しく側扁し、菱形。尾柄部に上下2対の鈍い棘があることが特徴。サンゴ礁性のカワハギ科魚類のなかでも大型で、体長30 cmほどの個体が単独かペアで普通にみられる。夜間は動きが鈍くなり、岩やサンゴの上で静止していることが多い。国内では北海道から沖縄までほぼ全域で見られるが、南ほど多く、北では少ないと考えられる。内之浦漁港では、体長17 cmの個体（KAUM-I. 89404）が1個体得られたのみ。まとまった数が漁獲されないため、食用となることも少ない。（小枝圭太）

■ 冷凍前のハクセイハギ
(KAUM-I. 89404, 170.0 mm SL)

センウマヅラハギ属 *Cantherhines pardalis* (Rüppell, 1837)

アミメウマヅラハギ

珍しさ ★★★★★



■ アミメウマヅラハギ *Cantherhines pardalis* KAUM-I. 89405, 65.9 mm SL

【解説】体は茶褐色を呈し多数の褐色斑がはいり、網目模様を形成することが特徴。サンゴ礁外縁を単独で泳いでいることが多い。危険を感じるとサンゴや岩の穴に逃げ込む。小型甲殻類やゴカイ類、貝類などを食べる。国内では茨城県以南の太平洋沿岸、琉球列島、小笠原諸島に分布する。沖縄県では食用にもなるが、最大でも約 15 cm と小型で、まとまった数も水揚げされない。内之浦漁港では体長 6 ~ 7 cm の小型個体が 3 個体得られているのみ。(小枝圭太)



■ アミメウマヅラハギ KAUM-I. 38832, 70.4 mm SL

ヒゲハギ属 *Chaetodermis penicilligera* (Cuvier, 1816)**ヒゲハギ** 珍しさ ★★★★★■ ヒゲハギ *Chaetodermis penicilligera* KAUM-I. 73178, 179.5 mm SL

【解説】体や背鰭棘に多数の皮弁があることが非常に特徴的。体は褐色で、体側に多数の黒色縦帯がはしる。また、胸鰭を除く各鰭には暗色斑が散在する。幼魚は地色がより淡色や白色だが、体側にはしる縦帯や多数の皮弁は成魚とほぼ同様。特徴的な姿からダイバーや観賞魚としての人気が高い。水深 200 m 以浅の沿岸の砂泥底や岩礁域に生息する。小型甲殻類やゴカイ類、貝類などを食べる。国内では千葉県鴨川以南の太平洋沿岸、新潟県以南の日本海・東シナ海沿岸、鹿児島湾、東シナ海北部から散発的に記録されている。食用にできると思われるが、稀種であるため、味は不明。

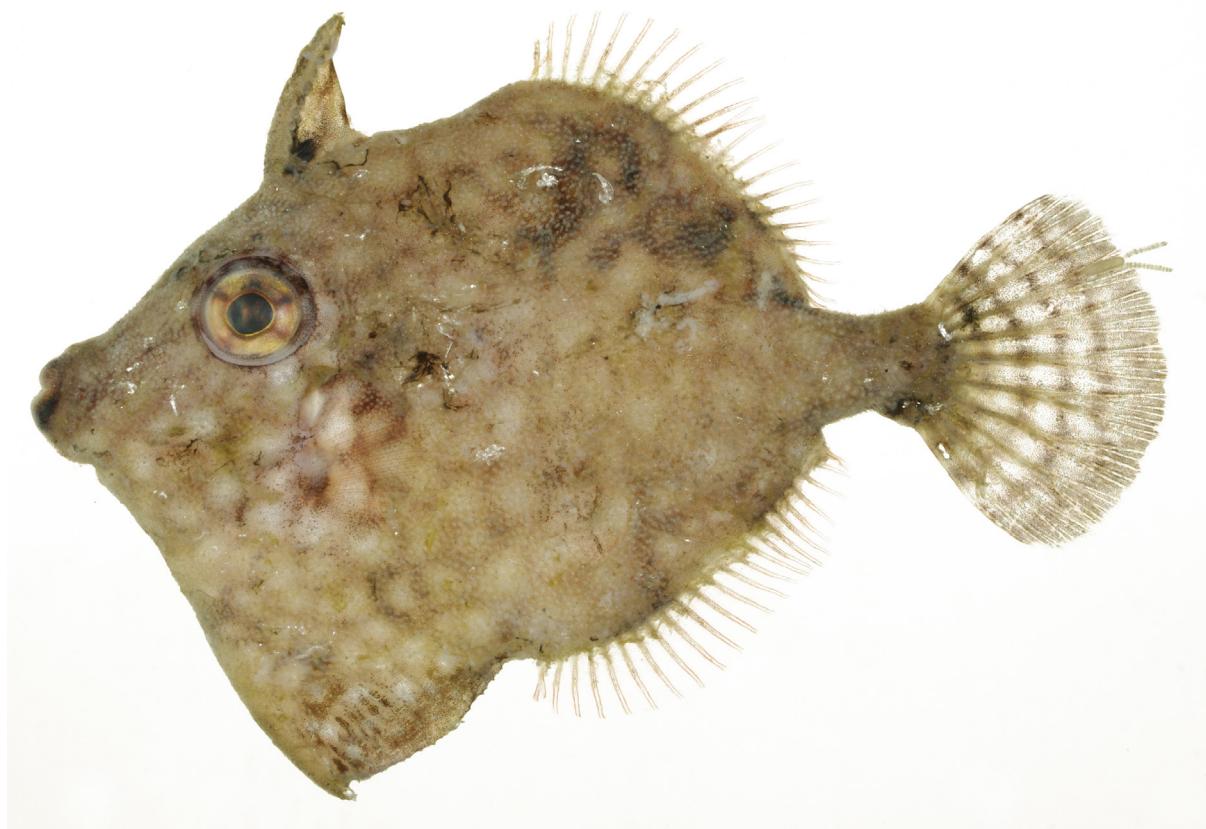
(小枝圭太)



■ ヒゲハギの頭部 (KAUM-I. 73178, 179.5 mm SL)

アミメハギ属 *Rudarius ercodes* Jordan & Fowler, 1902

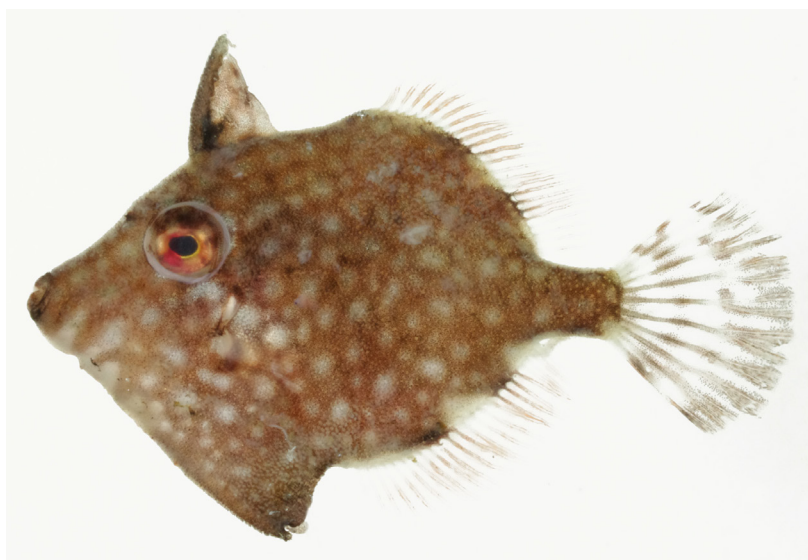
アミメハギ 珍しさ★★



■ アミメハギ *Rudarius ercodes* KAUM-I. 86552, 40.8 mm SL

【解説】体は茶色で、白色斑が密にはいり網目模様を形成する。腰骨後端の鞘状鱗が2節に分かれて不動性、鰓孔下端が胸鰭基部より上方にある、オスの尾柄には剛毛があることなどが特徴。水深20 m以浅の岩礁域の藻場、内湾のアマモ場に生息する。国内では北海道の日本海・オホーツク海沿岸と琉球列島、小笠原諸島を除くほぼ全域に分布する。最大でも6 cm程度と小型であるため、食用には適さない。内之浦漁港では体長3 cm以下の小型個体がよく混獲される。

(小枝圭太)



■ アミメハギ *Rudarius ercodes* KAUM-I. 35939, 26.9 mm SL

カワハギ属 *Stephanolepis cirrhifer* (Temminck & Schlegel, 1850)**カワハギ** 珍しさ ★■ カワハギ *Stephanolepis cirrhifer* KAUM-I. 94333, 109.0 mm SL

【解説】体は菱形で、強く側扁する。体は灰白色で、暗色のまだら模様が体側中央にある。模様は個体の状態により変化する。オスは背鰭前部の軟条が糸状に伸長し、尾柄側面中央に小さな剛毛帯がある。水深 100 m 以浅の砂泥域や岩礁域で普通にみられ、小型甲殻類、ゴカイ類、貝類などを食べる。国内では青森県から九州の日本海・東シナ海・太平洋沿岸に分布する。非常に美味しい魚で、薄く切った刺身と肝臓を青ネギと共にポン酢で食すと絶品。本種はおもに底生生物を食べるため、以前は落ちた餌の掃除役とカワハギの養殖を兼ねてマダイ（底に落ちた餌を食べない）などの養殖水槽に混養されていた。現在は、養殖個体は肝臓が肥大して高値が付くことからカワハギ単独での養殖（単養）が主流である。体皮がクルリと剥げることが「カワハギ」の名の由来となった。内之浦では大きいものは「マルハゲ」や「つのご」と称されて市場に並ぶが、小型のものは食用にはされない。（小枝圭太）



■ 市場に並ぶカワハギ
(2013年10月10日撮影)

ウマツラハギ属 *Thamnaconus modestus* (Günther, 1877)

ウマツラハギ 珍しさ ★★★



■ ウマツラハギ *Thamnaconus modestus* KAUM-I. 24325, 155.4 mm SL

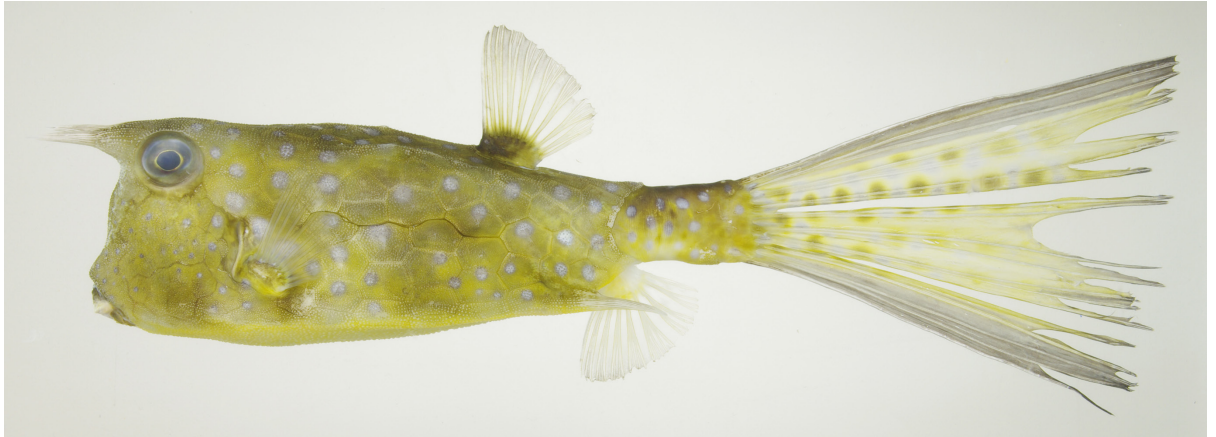
【解説】本種はカワハギ科としてはやや体高が低い。体色は灰色で、個体によっては体側に不規則な雲状斑がある。背鰭、臀鰭、尾鰭は青色。水深 100 m 以浅の砂泥底や岩礁域に多く生息し、小型の甲殻類や底生動物を食べる。国内では琉球列島と小笠原諸島を除くほぼ全域に分布する。カワハギと並びとても美味しい魚で、もともとはカワハギの代用魚であったが、現在ではほぼ同価値で扱われる。内之浦ではカワハギと比較して、漁獲されることは少ない。1 個体のみ幼魚も得られているが、この個体の鰭は青色ではなく淡色であった。(小枝圭太)



■ ウマツラハギの幼魚 *Thamnaconus modestus* (KAUM-I. 30260, 36.5 mm SL)

コンゴウフグ属 *Lactoria cornuta* (Linnaeus, 1758)

コンゴウフグ 珍しさ★★★★



■ コンゴウフグ *Lactoria cornuta* KAUM-I. 82764, 172.1 mm SL



■ コンゴウフグ *Lactoria cornuta* KAUM-I. 12744, 144.5 mm SL

【解説】ハコフグ科は硬い体甲に被われ、和名のとおり箱に鱗がついたような姿の魚である。コンゴウフグの体の横断面は四角形で、眼上部と背部中央、臀鰭基部にそれぞれ巨大な棘があることが特徴。また、成魚の尾鰭は著しく長い。体長数 cm の幼魚は、眼上棘が著しく長く、背部中央の棘が鈍く、臀鰭基部の棘が長い。さらに小型の 1 cm 程度の個体では棘が小さい。棘の長い幼魚は、その特徴的で可愛い体形とひょうきんな顔、小さな胸鰭をパタパタとしながら泳ぐ仕草から観賞魚としての人気が高い。水深 50 m 以内の浅場に生息し、群れは作らない。国内では青森県以南の太平洋沿岸、新潟県以南の日本海・東シナ海沿岸、琉球列島に分布し、紀伊半島以北では幼魚のみがみられる。内之浦で見られるハコフグ科魚類としては、かなり稀な種で、体長とほぼ同程度になるほど巨大な尾鰭をもつ大型個体が得られている。(小枝圭太)



■ コンゴウフグの頭部 (KAUM-I. 82764)

コンゴウフグ属 *Lactoria diaphana* (Bloch & Schneider, 1801)

ウミスズメ 珍しさ ★★★

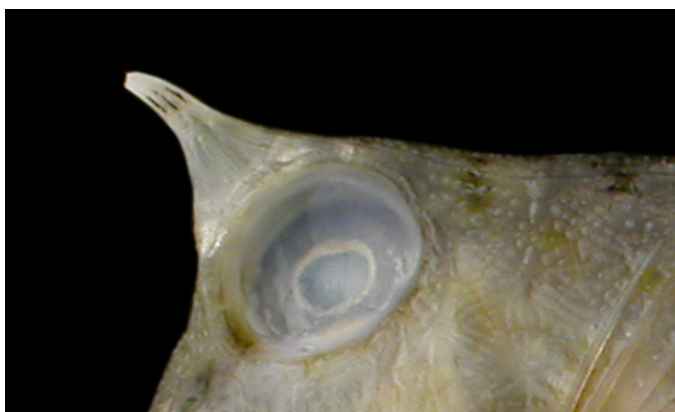


■ ウミスズメ *Lactoria diaphana* KAUM-I. 94348, 169.0 mm SL



■ ウミスズメ *Lactoria diaphana* KAUM-I. 276, 89.9 mm SL

【解説】体の横断面は四角形で、眼上部と、背部中央、臀鰭基部に棘がある。小型個体ほど腹部は丸く、半透明。稚魚期には棘がとても大きい。成魚は体が茶色で、やや長く、腹面はほぼ平坦。サンゴ礁や岩礁域に生息し、単独あるいはペアでみられる。夏の日没後にペアで産卵する。国内では青森県以南の太平洋沿岸、新潟県以南の日本海・東シナ海沿岸、琉球列島に分布する。皮膚に粘液毒をもつ、筋肉や内臓の毒の有無には個体差があり、食用としない方が良くであろう。内之浦漁港では体長9～16 cmの幅広い成長段階の個体が採集された。(小枝圭太)

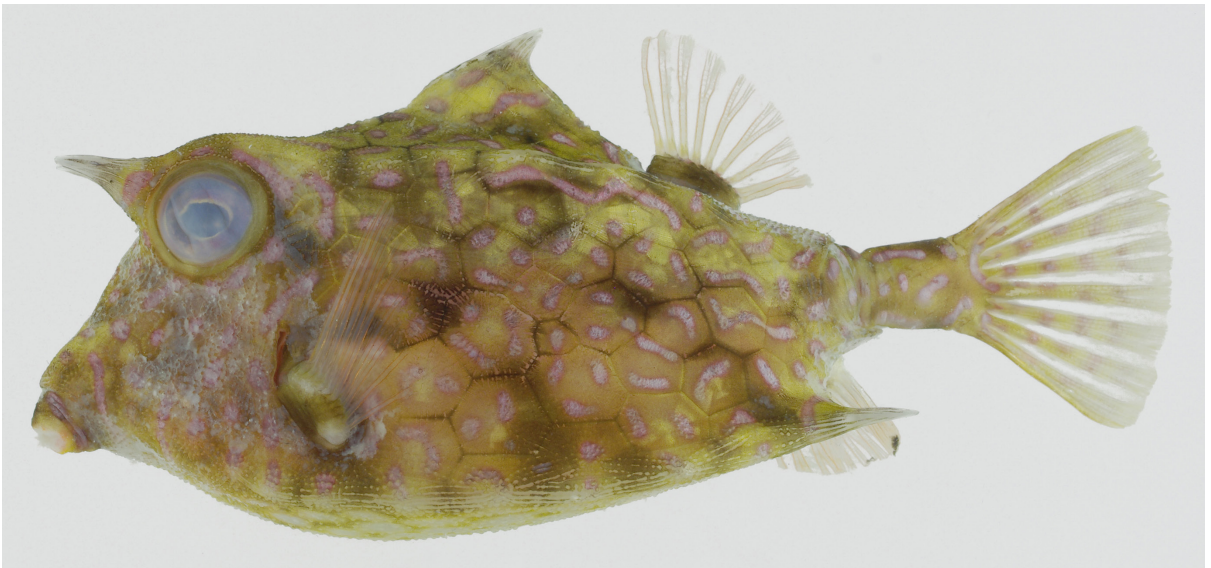


■ ウミスズメの眼上棘 (KAUM-I. 276, 89.9 mm SL)

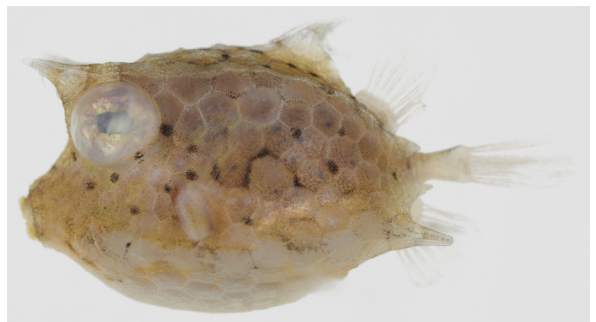
コンゴウフグ属 *Lactoria fornasini* (Bianconi, 1846)

シマウミスズメ

珍しさ ★★

■ シマウミスズメ *Lactoria fornasini* KAUM-I. 68412, 76.4 mm SL■ シマウミスズメ *Lactoria fornasini* KAUM-I. 71452, 76.9 mm SL

【解説】ウミスズメに似るが、背部中央の棘が高く、体に青色の虫食い模様をもつことが特徴。沿岸のサンゴ礁・岩礁域に生息し、単独あるいはペアで行動する。夏の日没後にペアで産卵する。水中では岩陰などで尾部を丸めて、静止していることが多い。国内では千葉県館山以南の太平洋沿岸、長崎県以南の東シナ海沿岸、琉球列島、伊豆諸島から小笠原諸島に分布する。身の毒の有無には個体差があり、食用としない方が良くあろう。体長は最大で19 cmに達するが、内之浦漁港では体長10 cm以下の小型個体が混獲されることが多く、選別して投棄されている。(小枝圭太)



■ シマウミスズメの幼魚 (KAUM-I. 55515, 13.1 mm SL)

ハコフグ属 *Ostracion immaculatus* Temminck & Schlegel, 1850

ハコフグ 珍しさ ★



■ ハコフグ *Ostracion immaculatus* KAUM-I. 94347, 137.7 mm SL, オス



■ ハコフグ *Ostracion immaculatus* KAUM-I. 94355, 128.9 mm SL, メス

【解説】体の横断面は四角形で眼の上と腹部に目立った棘がない。オスは体が黄色で背部が青色、メスは全体に黄色から褐色で、淡色斑が散在することが特徴。浅海のあまり潮の流れない場所に単独かペアでいることが多く、敵に追われると穴の中へと逃げ込むが、泳ぎは遅いため素手で捕まえることができる。似たミナミハコフグ（本書未掲載）が熱帯性であるのに対し、本種は温帯性。国内では北海道から大隅諸島までは普通に分布するが、琉球列島や小笠原諸島では極めて稀に記録される程度。大隅諸島のなかでは種子島ではハコフグが多く、屋久島・口永良部島ではミナミハコフグが多い傾向がみられる。硬い体を器としてそのまま焼いて食べる手法が広く知られていたが、2011年に本種の肝臓によるパリトキシン中毒症状が報告されて以降、無免許で本種の肝臓や皮を食用として取り扱うことが禁止されている。内之浦漁港でみられるハコフグのほとんどは横断面が四角いものの、稀に体全体が膨張し、円形に近い個体が混じる（KAUM-I. 82614）。2017年には本種と思われる幼魚が得られているが、本種の幼魚とミナミハコフグの幼魚は形態や色彩が極めて類似しており、標本も残されていなかったため、識別が困難であった。内之浦では今のところミナミハコフグが得られていないことから、本書ではこれを暫定的にハコフグの幼魚として扱った。内之浦漁港では漁獲物の選別の過程で投棄されている。甲羅が硬いため鳥も食べられずにいるが、フォークリフトなどに踏みつぶされることで殻が割れたものは食べられている。（小枝圭太）



■ ハコフグ *Ostracion immaculatus* KAUM-I. 82614, 160.0 mm SL, メス



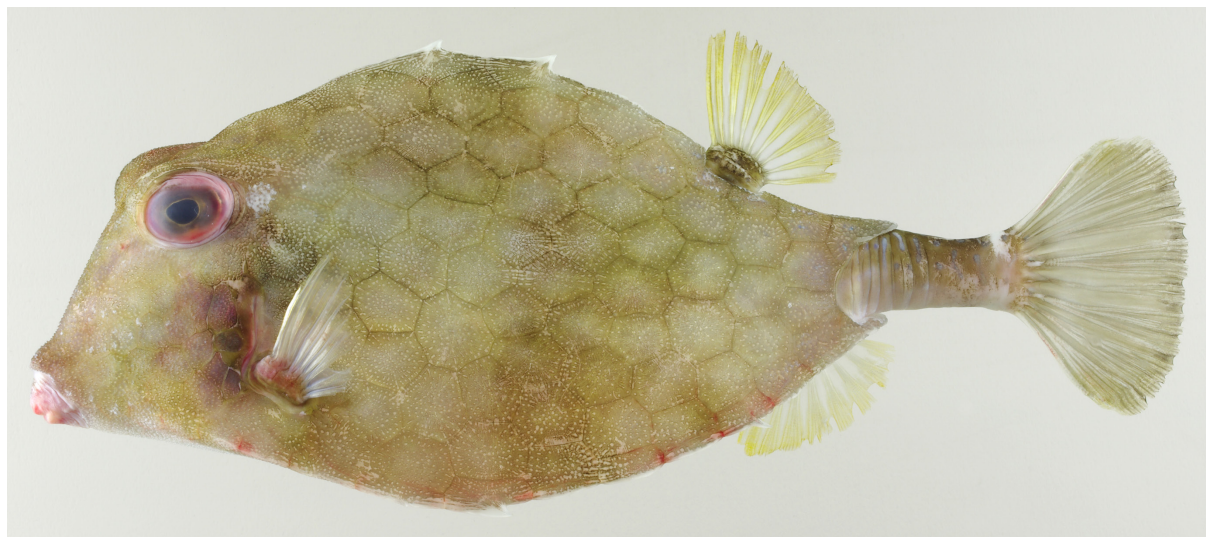
■ ハコフグと思われる幼魚 *Ostracion immaculatus* (2017年撮影)



■ 水揚げされたオスのハコフグ。水揚げ直後は背部の青紫色が鮮やか（2004年11月18日撮影）

ラクダハコフグ属 *Tetrosomus reipublicae* (Whitley, 1930)

ハマフグ 珍しさ★★★★



■ ハマフグ *Tetrosomus reipublicae* KAUM-I. 82763, 180.4 mm SL

【解説】体の横断面はほぼ正三角形に近く、背隆起の中央に2棘と眼の上に2棘があることが特徴。幼魚は棘がより大きく、金平糖のような姿をしている。水深50 m以浅の沿岸域の砂泥底に生息する。国内では北海道釧路以南の太平洋沿岸、山口県以南の日本海・東シナ海沿岸、鹿児島湾、沖縄舟状海盆に分布する。食用にされることはほとんどないが、皮膚には毒がある。内之浦漁港では他のハコフグ科魚類と同様に利用されず、投棄されている。内之浦漁港ではかなり稀で、2個体が得られたのみ。(小枝圭太)



■ ハマフグ *Tetrosomus reipublicae* (2007年2月15日撮影)

モヨウフグ属 *Arothron firmamentum* (Temminck & Schlegel, 1850)

ホシフグ 珍しさ ★★★



■ ホシフグ *Arothron firmamentum* KAUM-I. 40470, 277.2 mm SL (上), KAUM-I. 96823, 159.2 mm SL (下)

【解説】体は青みがかった黒色を呈し、体腹面は白色。体側には多数の小白色斑が散在する。毒性に関しては長らく不明であったが、卵巣が有毒であることが報告されている（淵ほか、1991；照屋ほか、2006）。生態に関しては不明な点が多いが、外洋を大きな群れで遊泳しているものと思われ、時折大量に定置網に入った、海岸に漂着したりすることが知られている（松原、1955；松浦、1984、1997a；久保田ほか、2012）。鹿児島



■ ホシフグ (KAUM-I. 98038, 223.1 mm SL)

県内においては笠沙や屋久島において大量に出現した例が報告されているほか、トカラ列島臥蛇島近海において数百個体が海面付近に集まり、一斉に産卵・放精をおこなう様子が観察されている（福井・本村、2017）。内之浦湾における出現は稀であるものの、一度だけ大量に入網したことがある。全長 30 cm 以上に達するが、毒性に関して不明な点が多いため、漁獲個体は利用されていない。（畑 晴陵）

モヨウフグ属 *Arothron hispidus* (Linnaeus, 1758)

サザナミフグ 珍しさ ★★★★★



■ サザナミフグ *Arothron hispidus* KAUM-I. 6493, 204.7 mm SL

【解説】体は茶褐色。体背面から体側上部にかけては小白色斑が散在し、体腹面には細い白色帯が胸鰭基底を中心に渦を巻くように並ぶ。筋肉、肝臓、生殖巣が有毒であることが報告されているが、毒性の有無や強弱は個体差が大きい（照屋ほか、2006；山田・柳下、2013b）。日本国内においては、青森県以南の太平洋沿岸、福岡県以南の東シナ海沿岸に広く分布する。内之浦湾においては比較的多く漁獲されるモヨウフグ属魚類と思われ、全長40 cm 程の成魚が時折定置網に入るが、その毒性から利用されることはない。（畑 晴陵）

モヨウフグ属 *Arothron immaculatus* (Bloch & Schneider, 1801)

カスミフグ 珍しさ ★★★★★



■ カスミフグ *Arothron immaculatus* KAUM-I. 110109, 168.6 mm SL

【解説】種小名が「斑紋のない」を意味する通り、体は一様に褐色を呈し、目立った模様がなない。尾鰭は黄色を呈し、後縁が黒色に縁取られる。この色彩により、同属他種と容易に識別される。アフリカ東岸からフィリピン、日本にかけてのインド・西太平洋に広く分布する。琉球列島においては比較的多く観察されるが、鹿児島県本土より北においては、高知県黒潮町、静岡県浜名湖から記録があるのみ（伊佐ほか、2007；山田・柳下、2013b；下村、2013）。内之浦湾においては非常に稀な種であり、Matsuura (2016) によって報告された写真の1個体（KAUM-I. 43918）を含めて2個体が得られたのみ。（畑 晴陵）



■ カスミフグ *Arothron immaculatus* KAUM-I. 43918, 163.0 mm SL

モヨウフグ属 *Arothron manilensis* (Marion de Procé, 1822)

スジモヨウフグ 珍しさ ★★★★★



■ スジモヨウフグ *Arothron manilensis* KAUM-I. 65995, 233.1 mm SL

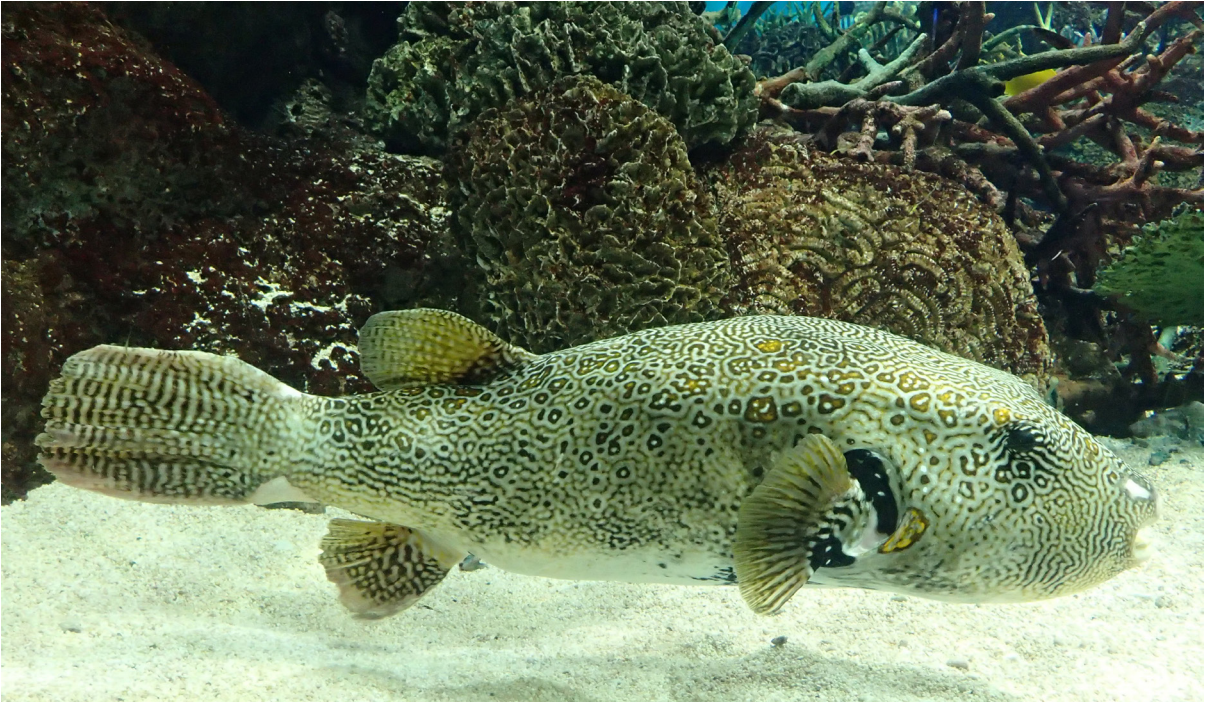
【解説】体背面と体側面には多数の暗色縦帯がはいるが、尾鰭には模様がない。汽水域にも頻繁に進入する。スジモヨウフグの学名と和名の関係には混乱がみられ、スジモヨウフグの和名が、現在カスミフグに対して与えられている *Arothron immaculatus* に与えられることがあった（例えば Kamohara and Yamakawa, 1967；益田ほか、1975）。学名と和名の対応関係の混乱に関しては、松浦（1984）が *A. immaculatus* に対し和名カスミフグを、*A. manilensis* に対して和名スジモヨウフグを与えることにより解消され、その後、両種の識別法が Randall（1985）によって明示された。国内においてはこれまで琉球列島からのみ報告されており、内之浦湾は分布の北限となる。筋肉、肝臓、および卵巣に毒性が確認されており（照屋ほか、2006）、漁獲されても利用されることはない。（畑 晴陵）



■ スジモヨウフグ KAUM-I. 68404, 144.7 mm SL

モヨウフグ属 *Arothron mappa* (Lesson, 1831)**ケショウフグ** 珍しさ ★★★★★■ ケショウフグ *Arothron mappa* KAUM-I. 97605, 616.0 mm SL

【解説】体は黄色がかった白または灰褐色を呈し、各鰭を含めて黒色から茶褐色の複雑な模様が密にはいる。模様は個体により変異に富むが、眼の周囲に放射状の斑紋がはいることが特徴。インド・西太平洋に広く分布する。ダイビングで目立つ魚のため、沖縄県においては珍しい魚ではないが、それ以外の国内地域では稀な種であり、これまで八丈島、相模湾および和歌山県からのみ記録されていた。内之浦湾においても極めて稀であり、写真の個体が得られているのみ。写真の個体は内之浦湾で漁獲され、いおワールドかごしま水族館において飼育されたのち、標本（KAUM-I. 97605）として収蔵された。本標本は鹿児島県における本種の初めての記録となる。毒性に関しては個体差・地域差が大きいと思われ、詳細は分かっていない。ただし、卵巣の有毒性が報告されている（照屋ほか、2006）。（畑 晴陵）



■ 水族館の水槽で飼育されるケショウフグ（KAUM-I. 97605, 616.0 mm SL; 2016年3月22日撮影）

モヨウフグ属 *Arothron stellatus* (Anonymous, 1798)**モヨウフグ** 珍しさ ★★★★★■ モヨウフグ *Arothron stellatus* KAUM-I. 65996, 265.5 mm SL

【解説】体は灰色を呈し、小黒色斑が密在する。幼魚の体はオレンジ色で、体側下部に多数の斜帯がはいる。ケショウフグによく似るが、眼の周囲の黒斑が放射状に並ばないことで識別できる。肝臓や卵巣の有毒性が報告されており（照屋ほか、2006）、沖縄県においては本種を食べたことによる食中毒も報告されている（大城ほか、2003）。サンゴ礁に生息し、貝類、ウニ類、甲殻類などのほか、サンゴ類や海藻類も餌とする。内之浦湾においては定置網により大型個体が稀に漁獲されるが、利用されることはない。（畑 晴陵）

■ モヨウフグ *Arothron stellatus* (2005年2月17日撮影)

キタマクラ属 *Canthigaster axiologa* Whitley, 1931

ハナキンチャクフグ 珍しさ ★★★



■ ハナキンチャクフグ *Canthigaster axiologa* KAUM-I. 63692, 70.4 mm SL

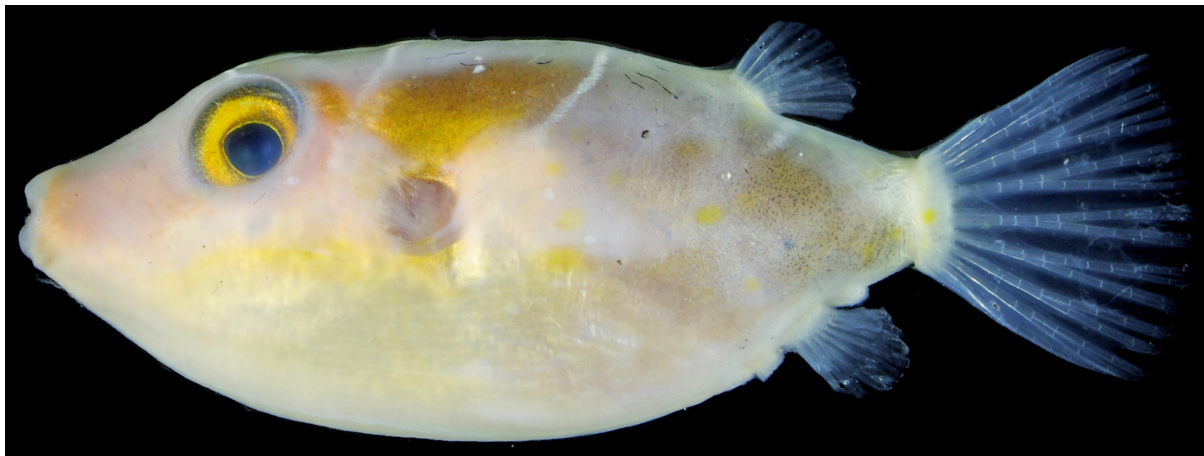


■ ハナキンチャクフグ *Canthigaster axiologa* KAUM-I. 62287, 91.6 mm SL

【解説】体は白色。体背面には複数の黒色鞍状斑があり、それらは橙色に縁取られる。幼魚は一様に金色で目立った斑紋がない。日本国内では千葉県以南の太平洋沿岸に広く分布する。内之浦湾においても幼魚から成魚まで定置網に得られるが、有毒のため、利用されことなく投棄される。本種をはじめとするキタマクラ属のフグ類は色彩に富んだ種が多く、観賞魚として人気がある。しかし、フグ科魚類全般に関して言えることであるが、気性が荒く、鋭い歯で他の魚の鰭をかじることが多いので、混泳させる際には注意を要する。(畑 晴陵)



■ ハナキンチャクフグの幼魚 (KAUM-I. 71430, 20.4 mm SL)



■ ハナキンチャクフグの幼魚 *Canthigaster axiologa* (KAUM-I. 71441, 22.9 mm SL)

キタマクラ属 *Canthigaster rivulata* (Temminck & Schlegel, 1850)

キタマクラ 珍しさ ★



■ キタマクラ *Canthigaster rivulata* KAUM-I. 63890, 104.6 mm SL, オス

【解説】体背部は茶褐色を呈し、体側下部は白色。体側中央に2本の焦げ茶色の縦帯がある。成熟したオスでは眼の周囲から吻部にかけて多数の黄色帯と黄色斑点があり、腹部に青色小斑が多数散在し、背中線と腹中線の皮褶が著しく隆起する。産卵は雌雄が一对でおこない、卵の保護はおこなわないことが知られている（新井・藤田、1988）。内之浦湾においては定置網によって幼魚から成魚まで、頻りに漁獲される。有毒のため、養殖餌料にも利用されず、選別され投棄されている。

(畑 晴陵)



■ キタマクラ KAUM-I. 83754, 77.8 mm SL, メス

サバフグ属 *Lagocephalus cheesemanii* (Clarke, 1897)

クロサバフグ 珍しさ★



■ クロサバフグ *Lagocephalus cheesemanii* KAUM-I. 94102, 288.9 mm SL

【解説】 シロサバフグ、ドクサバフグ（本書未掲載）と類似するが、尾鰭が二重湾入型で、上下両葉後端が白色を呈することにより識別される。本種の学名は長らく *Lagocephalus gloveri* Abe & Tabeta, 1983 とされてきたが（例えば松浦、1997b；山田・柳下、2013b）、Matsuura and Sato (2016) により *L. gloveri* は *L. cheesmani* (Clarke, 1897) の新参異名であり、クロサバフグに適用すべき学名は後者であることが明らかとされた。食用フグ類としては日本で最大の漁獲量を誇る（宮木・道津、1988）。内之浦湾においては夏から秋にかけて多く漁獲され、シロサバフグと区別されず扱われ、食用に供される。一時的に限られた海域に、大量出現をすることで好漁場が形成されることが報告されており、過去には屋久島近海や九州北部、長崎県小値賀島、および五島列島などにおける大量出現が報告されている（宮木・道津、1988）。しかし、漁獲の対象となる一方で、強靱な歯で延縄漁具などを破損するなどの事例も多く、紀伊水道や八重山諸島においては、本種の大量発生に伴う漁業被害も報告されている（山田ほか、2007；上田、2015）。内之浦ではシロサバフグとともに普通に水揚げがあり、まとめて市場に並ぶ。（畑 晴陵）



■ シロサバフグ（上）とクロサバフグ（下）はよく似るが尾鰭の様相が異なる（2011年5月21日撮影）

サバフグ属 *Lagocephalus inermis* (Temminck & Schlegel, 1850)**カナフグ** 珍しさ ★★★★★■ カナフグ *Lagocephalus inermis* KAUM-I. 45420, 249.4 mm SL

【解説】体はあまり側扁せず、丸みを帯びる。尾鰭は截形を呈し、ほとんど湾入しない。体背面は黒色、体側は黄色がかった褐色。体腹面は白色。鰓孔は黒色。最大で体長 70 cm に達する大型種。毒性に関する研究は少ないものの、肝臓、精巣の毒性が報告されている（照屋ほか、2006）。南シナ海産の本種に関しては、筋肉の毒性も報告されている（山田・柳下、2013b）。インド・西太平洋に広く分布し、日本国内においては東北地方以南から報告がある。内之浦湾においては稀に定置網により漁獲されるが、大型個体はみられない。（畑 晴陵）

サバフグ属 *Lagocephalus sceleratus* (Gmelin, 1789)**センニンフグ** 珍しさ ★★★★★■ センニンフグ *Lagocephalus sceleratus* (2011年1月27日撮影)

【解説】体は円筒形で伸長する。カイユウセンニンフグに類似するが、センニンフグは体背面に小黒色斑のみが散在するのに対し、カイユウセンニンフグでは茶褐色の虫食い状斑が密在することで識別できる。また、センニンフグが最大で体長 1 m に達する大型種である一方、カイユウセンニンフグは最大でも体長 18 cm 程度にしかならない。本種の毒性は長らく不明であったが、近年、筋肉を含む各部位の有毒性が明らかにされており、特に卵巣は猛毒であることが判明した（照屋ほか、2006; Nader et al., 2012; 山田・柳下、2013b）。水中では警戒心が強く、なかなか近づくことができない。北海道以南の日本各地に広く分布するが、内之浦湾においては稀。（畑 晴陵）

サバフグ属 *Lagocephalus spadiceus* (Richardson, 1845)

シロサバフグ 珍しさ ★



■ シロサバフグ *Lagocephalus spadiceus* KAUM-I. 56767, 100.8 mm SL

【解説】体は光沢のある黄緑色を呈し、体腹面は白色。本種の学名は長らく *Lagocephalus wheeleri* Abe, Tabeta & Kitahara, 1984 とされてきたが（例えば松浦、1997c）、Matsuura (2010)により *L. wheeleri* はこれまでモトサバフグと呼ばれてきた *L. spadiceus* の新参異名であることが明らかとなり、シロサバフグに適用すべき学名は後者であるとされた。内之浦湾においては定置網により大量に漁獲され、食用に供される。本種に類似したドクサバフグ（本書未掲載）はその名の通り有毒であり、注意が必要であるが、ドクサバフグでは体背面に密生する小棘域が背鰭起部にまで達する（シロサバフグでは胸鰭後端直上に達しない程度）ことにより、識別される。シロサバフグは福岡県玄界灘においては沿岸では夏から秋にかけて全長 16 cm 未満の小型個体が漁獲され、冬季にはほとんど漁獲されない一方で、沖合では通年漁獲され、冬季も大型個体が得られることが報告されている。成長に伴い、冬季を前に沖合に移動しているものと考えられている（福岡県水産海洋技術センター研究部漁業資源課、2012）。内之浦湾においても夏から秋にかけて多く漁獲されることから、玄界灘におけるものと同様の移動をおこなっている可能性が高い。（畑 晴陵）



■ 他の雑魚と市場に並ぶシロサバフグ *Lagocephalus spadiceus* (2013年10月10日撮影)

サバフグ属 *Lagocephalus suezensis* Clark & Gohar, 1953

カイユウセンニンフグ

珍しさ ★★★★★

■ カイユウセンニンフグ *Lagocephalus suezensis* KAUM-I. 96840, 107.7 mm SL■ カイユウセンニンフグ *Lagocephalus suezensis* KAUM-I. 73991, 43.5 mm SL

【解説】体背面は緑がかった茶色を呈し、茶褐色の虫食い状斑が密にはいる。台湾、中国、タイ、マレーシア、インドネシア、オーストラリア、紅海から記録されており、紅海からスエズ運河を通じて地中海にも移入している。国内では高知県、宮崎県、鹿児島県本土、および沖縄島から報告されている。大阪海遊館、高知大学、京都大学の共同調査の過程で日本における分布が確認された（中坊、2001）。生態や毒性など、不明な点が少なくないが、飼育下の観察では、昼夜を問わず潜砂行動をとることが報告されている（岩坪ほか、2009）。内之浦湾では稀に定置網に入るが、毒性不明であることと、最大でも20 cmと小型であることから、利用されることはない。（畑 晴陵）

■ 生きて採集されたカイユウセンニンフグ
(2014年9月30日撮影)

トラフグ属 *Takifugu alboplumbeus* (Richardson, 1845)

クサフグ 珍しさ ★★★



■ クサフグ *Takifugu niphobles* KAUM-I. 99007, 115.4 mm SL

【解説】体側上半部は緑色を呈し、白色斑が散在する。体側下半部は白色。胸鰭付近に黒色斑がある。本種には長らく学名 *Takifugu niphobles* (Jordan & Snyder, 1901) が適用されてきたが、Matsuura (2017) によって *T. alboplumbeus* を適用すべきであることが明らかにされた。夏季に大群で波打ち際に押し寄せ、産卵をおこなうことが知られる。体長 10 cm 程度の小型種であるが毒性は極めて強く、特に卵巣、肝臓、および腸は猛毒（谷、1945）。山口県周防灘において、体背面が明るい淡黄色を示すクサフグと思われる個体が報告されており、フグ科では唯一となるアルビノ個体とみられている（重田ほか、2012）。しかし、彼らの報告した個体は瞳孔に黒色素がみられることからアルビノ（黒色素を全くもたない）ではなく、体の一部が部分的に白い色彩変異（パイボールド）のひとつであると考えられる。クサフグの鹿児島県本土各地における個体数は多く、内之浦湾においても多く生息するものと思われるが、おもな生息環境が岸近くの岩礁であり、定置網の設置海域と異なるためか、漁獲されることは少ない。（畑 晴陵・小枝圭太）



■ クサフグ *Takifugu niphobles* (2006年3月23日撮影)

トラフグ属 *Takifugu flavipterus* Matsuura, 2017**コモフグ** 珍しさ★■ コモフグ *Takifugu flavipterus* KAUM-I. 73200, 144.3 mm SL■ コモフグ *Takifugu flavipterus* KAUM-I. 99010, 149.5 mm SL

【解説】体背面は茶褐色を呈し、小白色斑点が密在する。体側中央に細い黄色縦帯がはいり、体腹面は白色。体表面には小棘が密生し、ざらざらしている。各鰭は黄色。コモフグの学名は長らく *Takifugu poecilonotus* (Temminck & Schlegel, 1850) とされてきたが、それはクサフグ *T. alboplumbeus* (Richardson, 1845) の新参異名であることが判明し、同時にコモフグに適用すべき学名がないことが明らかとなり、Matsuura (2017) によって新種として記載された。コモフグに酷似するものの、体表面の小棘を欠くナシフグ（本書未掲載）との交雑事例が報告されている。交雑個体の体表には極めて微小な棘が認められ、2種の中間的な形態を有することが知られる（横川・浦山、2000）。コモフグの鹿児島県本土近海における個体数は非常に多く、内之浦湾においても定置網により頻繁に漁獲される。（畑 晴陵）

■ コモフグ *Takifugu flavipterus*, 約 15 cm SL (2007 年 2 月 15 日撮影)

トラフグ属 *Takifugu pardalis* (Temminck & Schlegel, 1850)**ヒガンフグ** 珍しさ ★★★★★■ ヒガンフグ *Takifugu pardalis* KAUM-I. 71795, 238.1 mm SL

【解説】体側上部は茶褐色を呈し、焦げ茶色の小斑点が密在する。体腹面は白色。体表面にはイボ状突起が密在する。体長 40 mm 未満の小型個体ではココエビなどの小型甲殻類をおもな餌とするが、成長により歯が形成されてくると固いものを餌とするようになり、体長 121 mm 以上では餌の 90% 以上を貝類に依存するようになる (Horinouchi et al., 1996)。アマモ場に多く生息するが、汽水域にも頻繁に進入する (Horinouchi et al., 1996 ; 北九州市立水環境館、2015)。内之浦湾では非常に稀で、1 標本が残っているのみ。肝臓と卵巣が猛毒であることが報告されているほか、毒性に個体差が大きいことが知られている (谷、1945 ; 淵ほか、1999)。

フグ類の毒はテトロドトキシンという成分から成り、これは海洋細菌が生産し、それを食べた貝類などをフグが捕食することにより、食物連鎖を通じて低次消費者から高次消費者であるフグに蓄積すると考えられてきた。しかし、この説ではフグのもつ多量のテトロドトキシンを海洋細菌の生産量では賅いきれないとの指摘もあった。近年、ヒガンフグが産んだ卵 (猛毒) を同属のクサフグが積極的に餌としていることが報告されたことで、フグ毒をフグ類間で融通し、高濃度なテトロドトキシンを維持している可能性が指摘されている (Itoi et al., 2015)。(畑 晴陵)

■ 冷凍前のヒガンフグ *Takifugu pardalis* KAUM-I. 71795, 238.1 mm SL

トラフグ属 *Takifugu rubripes* (Temminck & Schlegel, 1850)**トラフグ** 珍しさ ★★★■ トラフグ *Takifugu rubripes* KAUM-I. 98174, 240.0 mm SL

【解説】体背面から体側上部にかけては薄墨色を呈し、胸鰭の後方に複数の黒色斑が散在する。体腹面は白色。よく似たカラス（本書未掲載）とは、臀鰭が白色であること（カラスでは黒色）、体背面後部に黒色斑が散在すること（黒色斑がなく、一様に黒色）により識別される。卵巣、肝臓、および腸に有毒性が確認されている（谷、1945）。フグ類の中でも最高級品とされ、特に1 kg以上の大型個体はきわめて高価に取引される。「てっさ」と称される薄造りや、「てっちり」と呼ばれる鍋物のほか、皮の刺身、鰭酒など、その食用法は多岐にわたる。かねてより下関産の個体が最高級とされてきたが、近年では各産地で独自のブランド化を推進する動きがある。内之浦湾における漁獲は少なく、採れても小型のものがほとんどである。（畑 晴陵）



■ 市場に並ぶトラフグ（2006年5月25日撮影）



■ 市場に並ぶトラフグ（2011年4月19日撮影）

トラフグ属 *Takifugu snyderi* (Abe, 1988)

ショウサイフグ 珍しさ ★★★



■ ショウサイフグ *Takifugu snyderi* KAUM-I. 74780, 186.6 mm SL



■ ショウサイフグ *Takifugu snyderi* KAUM-I. 86391, 99.4 mm SL

【解説】体背面には小褐色斑が密在し、体表は滑らか。卵巣と肝臓は猛毒であり、東京湾産のものは北九州産のものよりも毒性が強く、さらに肝臓の毒性に関しては、フグ類としては珍しく、オスの方がメスよりも強いことが知られている（谷、1945；加納ほか、1985）。また、一般にフグ類は産卵期である春に毒性が強くなり、夏から秋にかけて減少する傾向が知られているが（谷、1945）、本種では秋季にも強い毒性を保ったままであることが報告されている（加納ほか、1985）。生後1年で全長132 mm、2年で194 mmに成長する（松井ほか、1987b）。福岡県玄界灘においては5～7月にかけて多く出現することが知られており（松井ほか、1987a）、内之浦湾においても定置網によって春から夏にかけて体長20 cm未満の個体が時折漁獲される。（畑 晴陵）

トラフグ属 *Takifugu xanthopterus* (Temminck & Schlegel, 1850)

シマフグ

珍しさ ★★★★★

■ シマフグ *Takifugu xanthopterus* KAUM-I. 71427, 368.9 mm SL

【解説】体は暗い灰色を呈し、黒色斜帯が多数はいる。各鰭は鮮やかな黄色を呈し、種小名もラテン語で xantho（黄色い）+ pterus（鰭）を意味する。卵巣、肝臓、および腸における毒性が確認されている（谷、1945；山田・柳下、2013b）。トラフグ属魚類は多くの種で自然交雑をおこなうことが知られ、シマフグに関してもナシフグ（本書未掲載；Masuda et al., 1991）やトラフグ（山田ほか、2007；高谷ほか、2016）などとの自然交雑個体が報告されている。属内で核型が互いによく類似し、遺伝的にも非常に近縁な関係にあることが知られており、このことが本属魚類の自然交雑が頻繁に発生する一因とみられている（Miyaki et al., 1995）。交雑個体は外見のみならず、毒の強度や毒性の分布が両親種の間中間的な性質を示すことが知られている（Masuda et al., 1991；高谷ほか、2016）。シマフグは瀬戸内海や有明海には多いものの、内之浦湾における漁獲は極めて少なく、1個体が得られたのみ。ほとんど利用されていないものと思われる。（畑 晴陵）



■ シマフグの頭部（KAUM-I. 71427, 368.9 mm SL）

シッポウフグ属 *Torquigener brevipinnis* (Regan, 1902)

シッポウフグ 珍しさ ★★★



■ シッポウフグ *Torquigener brevipinnis* KAUM-I. 68436, 92.1 mm SL



■ シッポウフグ *Torquigener brevipinnis* KAUM-I. 24607, 48.1 mm SL

【解説】体は白色を呈し、体背面には茶褐色の複雑な模様が入る。体側面には黄色縦帯が（不連続なこともある）、頭部側面には5本の黄褐色の横帯がそれぞれ入る。同属のナミダフグ（本書未掲載）とは色彩のほか、胸鰭軟条数が14～17であること（ナミダフグでは13～15）により識別される。南日本からパプアニューギニアにかけての西太平洋に広く分布する。日本国内においては、これまで八丈島、相模湾から土佐湾にかけての太平洋沿岸、鹿児島県笠沙、鹿児島湾から記録されており、内之浦湾から得られた標本は九州太平洋沿岸からの初記録である。なお、原口（2007）により鹿児島県笠沙からナミダフグの分布の北限記録として報告された標本はシッポウフグである（松浦、2016）。内之浦湾では稀に定置網により漁獲される。毒性に関しては不明な点が多く、内之浦においても利用されていない。奄美大島からのみ報告されている同属種アマミホシゾラフグ（本書未掲載）はオスが海底に放射状に並んだ砂山（通称ミステリーサークル）を作り、メスの産卵床とすることが報告されており、その際には本属に特徴的な下顎の突出部をシャベルの様に利用することが知られているが（Matsuura, 2015）。ただし、その他のシッポウフグの産卵生態に関しては不明な点が多い。（畑 晴陵）

イシガキフグ属 *Chilomycterus reticulatus* (Linnaeus, 1758)

イシガキフグ 珍しさ★★

■ イシガキフグ *Chilomycterus reticulatus* KAUM-I. 82780, 287.3 mm SL■ イシガキフグ *Chilomycterus reticulatus* KAUM-I. 73993, 296.3 mm SL

【解説】ハリセンボン科魚類は体が棘で被われることが特徴だが、本種の棘はやや鈍く、不動性である。また、全ての鰭に小黑斑をもつことも本種の特徴。体に黒色斑が散在する個体とない個体がいる。無毒。最大で55 cmに達する大型種で、体長40 cmを越える大型個体が多く、むしろ20 cm以下の小型個体をみることはほとんどない。棘はするどくはないが、40 cmを越える大型個体ともなると非常に重いため、抱えようと腕や手に喰い込んで痛い。水深40 m以浅のサンゴ礁・岩礁域



■ 水揚げされたイシガキフグの約50 cm SLの大型個体（2006年5月25日撮影）

に生息し、悠々と泳いでいるか岩やテーブルサンゴの下でじっとしていることが多く、目があっても逃げようとしなことから、大型個体はその大きさゆえ自然下においてほとんど天敵がいなことが推察される。全世界の暖海域に分布し、国内でもほぼ全域に分布する。皮が厚く、そのほとんどが硬い棘の基部で被われているため、調理に多大な手間がかかるうえ、体のわりに身が極めて小さく、可食部が少ないことから、全国的にも内之浦漁港においても食用とされることはほとんどないであろう。（小枝圭太）

メイタイシガキフグ属 *Cylichthys orbicularis* (Bloch, 1785)

メイタイシガキフグ

珍しさ ★★★★★



■ 水揚げされたメイタイシガキフグ *Cylichthys orbicularis* (2014年7月21日撮影)

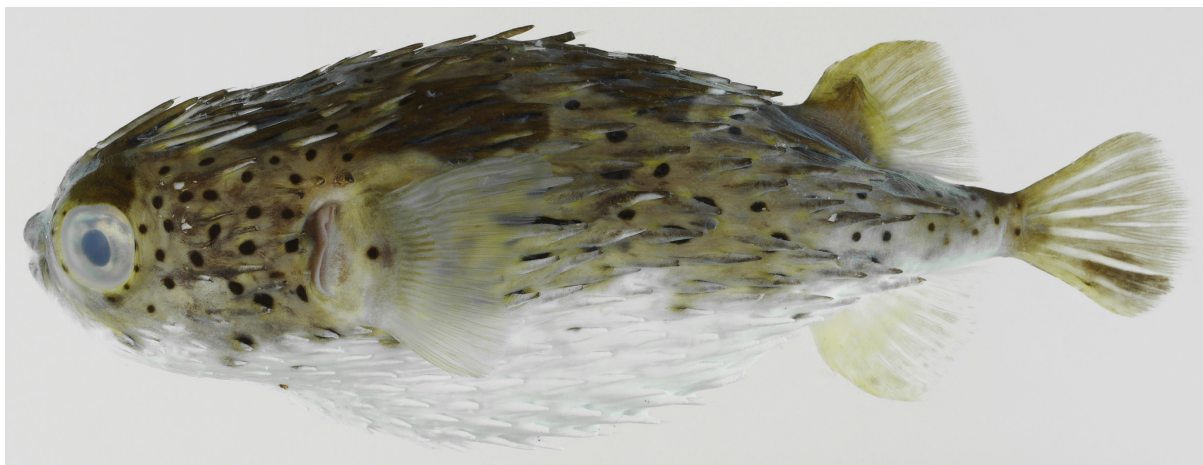
【解説】ハリセンボン科のなかでも体の棘が動かないグループで、尾柄部背面に棘がない、体の背面と側面に多数の暗褐色斑をもつが、腹面にはないことなどが特徴。あまり大きくなならない種で、最大でも体長は15 cmほど。1993年に Matsuura et al. (1993)により日本から初めて記録された。水深5～30 m 沿岸の砂礫底に生息する(松浦、2016)。インド・西太平洋の熱帯～温帯域に分布する。国内では佐渡島、能登半島、兵庫県浜坂、山口県日本海沿岸、伊豆半島、紀伊半島、高知県以布利・柏島、沖縄本島から散発的に記録されている。内之浦では2014年に写真の体長10～15 cm程度の個体が写真により確認されており、これは九州沿岸からの初めての記録といえる。ただし、標本は残っていない。(小枝圭太)



■ 正面からみたメイタイシガキフグ (2014年7月21日撮影)

■ 大量に入網したハリセンボン *Diodon holocanthus* (2003年6月11日撮影)



ハリセンボン属 *Diodon holocanthus* Linnaeus, 1758**ハリセンボン** 珍しさ ★■ ハリセンボン *Diodon holocanthus* KAUM-I. 71428, 134.6 mm SL

【解説】全身を被う棘は可動性で、危険を感じると胃に大量の水や空気を吸い込んで体を膨らませ、棘を立てることができる。この状態になるとよほどの大型魚でない限りは本種を捕食することは困難と思われる。鰓孔の前方に黒色斑がなく、体の黒色斑に白い縁どりがなくてヒトヅラハリセンボン（本書未掲載）と識別できる。棘の本数は257～354本で和名である「針千本」には遠く及ばない（松浦、2016）。浅海のサンゴ礁や岩礁域で単独あるいは数個体の小群で行動するが、数年に1度、個体数が劇的に増加することがあり、この際は数百、数千個体という大群がみられる。内之浦においても2003年に大量発生し、網にかかったり、棘で他の魚に傷がつき値崩れを起こすなど甚大な被害がでた。港の壁沿いを泳ぐ姿もよくみられる。国内のほぼ全域に分布する。沖縄では汁物（アバサー汁）で食するため、冬場には高値で取引される。唐揚げなど揚げ料理も美味であり、弾力と旨味が強い身は上質の鶏肉のようであるが、体に対して可食部がかなり小さい。内之浦では利用されずに、選別して投棄されている。（小枝圭太）



■ 大量に入網したハリセンボンを取り除く作業（2003年6月11日撮影）

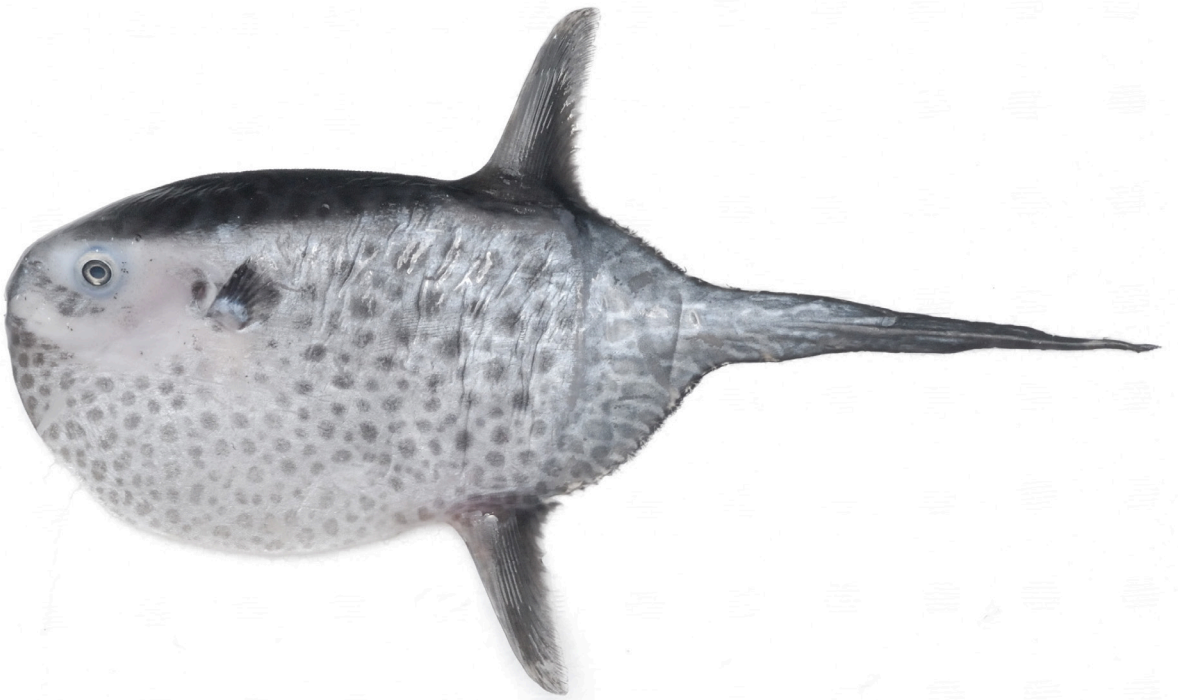
ヤリマンボウ属 *Masturus lanceolatus* (Liénard, 1840)

ヤリマンボウ 珍しさ ★★★★★

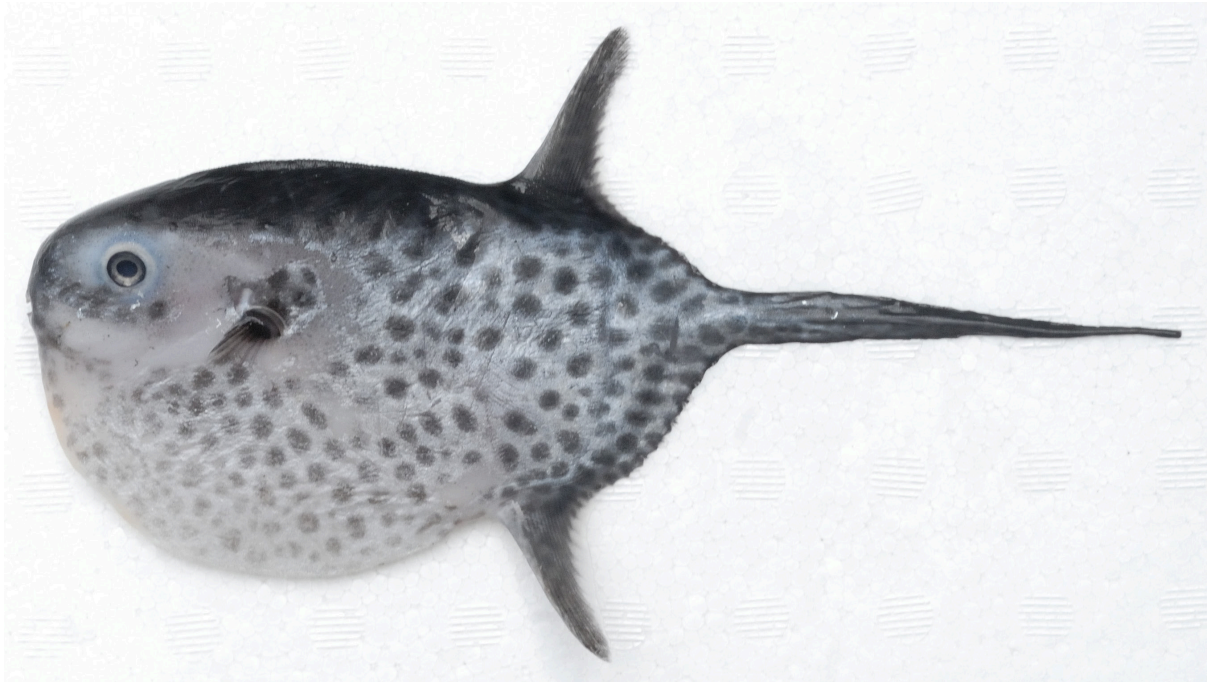


■ ヤリマンボウ *Masturus lanceolatus* KAUM-I. 98257, 362.1 mm SL

【解説】マンボウ科は尾鰭がなく、尾部には舵鰭をもつ。体は著しく側扁し、体の後端を切り落としたような姿をしている。本種は舵鰭の後縁中央が突出することが特徴で、とりわけ小型個体の舵鰭は非常に長く、体長の同程度にもなる。台湾東部における研究で、本種が最高で23歳まで生きることが確認されている (Liu et al., 2009)。国内では宮城県以南の太平洋沿岸域、秋田県以南の日本海・東シナ海沿岸、琉球列島から散発的に記録されており、2016年には奄美大島からも報告された(小枝ほか、2016)。内之浦漁港では体長40 cm程度の小型個体(KAUM-I. 98257)の標本が得られており、10～15 cmのさらに小型の2個体も記録されている。これらの2個体の小型標本は澤井・山田(2017)により鹿児島県本土沿岸からの初めての記録として報告された。(小枝圭太)



■ ヤリマンボウ *Masturus lanceolatus*, 約 20 cm SL (2016 年 5 月 14 日撮影)



■ ヤリマンボウ *Masturus lanceolatus*, 約 12 cm SL (2016 年 5 月 14 日撮影)

マンボウ属 *Mola mola* (Linnaeus, 1758)

マンボウ 珍しさ★★★★



■ 水揚げされたマンボウ *Mola mola* (2011年2月22日撮影)

【解説】本種は舵鰭がまるく、舵鰭軟条数が10～13、全長2m以上の個体では舵鰭の後縁が波型になることが特徴。非常に大型の種で、体高も高い。マンボウ属魚類には分類学的な混乱がみられ、学名や和名の問題など数多くの問題が散見されたが、Sawai et al. (2017)によりマンボウには *Mola mora* が、ウシマンボウ（本書未掲載）には *Mola alexandrini* (Ranzani, 1839) の学名がそれぞれ対応することが明らかにされた。マンボウは躯幹部の鱗が真上から見ると点状で、その先端が細かく分枝することによりウシマンボウと識別される（ウシマンボウでは真上から見ると線状で、先端は分枝しない）。また大型個体では、マンボウは頭部の背縁と腹縁が顕著に膨らまないことや（顕著に膨らむ）、舵鰭後縁が波打つ（波打たない）ことなどによっても識別できる。本種は外洋性でおもに表層を遊泳するが、水深844mからの記録もあり、その生態のほとんどはまだ謎に包まれている。国内のほぼ全域に分布するが、琉球列島での報告例は少ない。特徴的な形、ゆったりとした動き、覚えやすい名前により水族館の人気者である。食用にもなり、身と肝臓を酢味噌に和えて食する。漁獲量は年により異なり、安定した漁獲はない。（小枝圭太）



■ 複数で入網したマンボウ (2016年4月15日撮影)



引用文献

- 藍澤正宏・土居内 龍. 2013. サヨリ科. Pp.651-654, 1927-1928. 中坊徹次(編). 日本産魚類検索 全種の同定, 第三版. 東海大学出版会, 秦野.
- 赤崎正人. 1962. タイ型魚類の研究 形態・系統・分類および生態. 京大みさき臨海研究所特別報告, 1: 1-368.
- 赤崎正人. 1984. シナムイトヨリ *Nemipterus tolu* (Valenciennes). P. 170, pl. 165-A. 益田 一・尼岡邦夫・荒賀忠一・上野輝彌・吉野哲夫(編). 日本産魚類大図鑑. 東海大学出版会, 東京.
- 秋山誠二・本村大地・下村友季子・内田圭一・黒木洋明・片山知史. 2015. 東京湾におけるクロアナゴとダイナンアナゴの食性. 日本水産学会誌, 81 (1): 130-132.
- Albins, M. A. and Lyons, R. J. 2012. Invasive red lionfish *Pterois volitans* blow directed jets of water at prey fish. *Marine Ecology Progress Series*, 448: 1-5.
- 尼岡邦夫. 2016. 日本産ヒラメ・カレイ類. 東海大学出版部, 平塚. x + 229 pp.
- 尼岡邦夫. 1997. ホシダルマガレイ *Bothus myriaster*. Pp. 668-669. 岡村 収・尼岡邦夫(編). 山溪カラー名鑑 日本の海水魚. 山と溪谷社, 東京.
- Andamari, R., Milton, D. and Zubaidi, T. 2002. Reproductive biology of five species of anchovies (Engraulidae) from Bima Bay, Sumatra, Nusa Tenggara. *Indonesian Journal of Agricultural Science*, 3 (2): 37-42.
- 青沼佳方・柳下直己. 2013. ニシン科. Pp. 297-301, 1811-1812. 中坊徹次(編). 日本産魚類検索 全種の同定 第三版. 東海大学出版会, 秦野.
- 青山恒雄. 1955. レンコダイ *T. tumifrons* にみられた両性生殖巣. 魚類学雑誌, 4 (4, 5, 6): 119-129.
- 青山恒雄・北島忠弘・水江一弘. 1963. イネゴチ *Cociella crocodile* (Tilesius) の性転換. 西海区水産研究所研究報告, 29: 11-33.
- Apsangikar, D. K. 1953. The systematic position of *Stromateus niger*. *Journal of University of Bombay*, 21 (5): 41-50.
- 荒賀忠一. 1997. ミナミイソズミ *Kyphosus* sp. Pp. 416-417. 岡村 収・尼岡邦夫(編). 山溪カラー名鑑 日本の海水魚. 山と溪谷社, 東京.
- 荒井 寛・藤田矢郎. 1988. キタマクラの水槽内産卵と卵発生・仔魚. 魚類学雑誌, 35 (2): 194-202.
- Artüz, M. L. and Kubang, N. 2014. First record of shrimp scad *Alepes djedaba* (Calangidae) from the Sea of Marmara, Turkey. *Cybius*, 38 (4): 319-320.
- 厚地 進. 2003. かごしま夏の旬のさかな! きびなご. うしお, 297: 3-4.
- Baldwin, W. J. 1977. A review on the use of live baitfishes to capture skipjack tuna, *Katsuwonus pelamis*, in the tropical Pacific Ocean with emphasis on their behavior, survival and availability. NOAA Technical Report, NMFS Circular, 408: 8-35.
- 萬代あゆみ・松沼瑞樹・本村浩之. 2017. 日本初記録の日本初記録のヤマトシビレイ科魚類ツキミシビレイ(新称) *Tetronarce formosa* と本種の標徴に関する新知見. および近縁種との形態比較. 魚類学雑誌, 64 (2): 157-170.
- Blaber, S. J. M. and Cyrus, D. P. 1983. The biology of Carangidae (Teleostei) in Natal estuaries. *Journal of Fish Biology*, 22: 173-188.
- Cayetano, B. J. 2000. A review of the biology of the family Carangidae, with emphasis on species found in Hawaiian waters. DAR Technical Report 20-01, Division of Aquatic Resources, Honolulu. 37 pp.
- Chapman, D. D., Firchau, B. and Shivji, M. S. 2008. Parthenogenesis in a large-bodied requiem shark, the blacktip *Carcharhinus limbatus*. *Journal of Fish Biology*, 73: 1473-1477.
- Collette, B. B. 1999. Belonidae, needlefishes. Pp. 215-216 in Carpenter, K. E. and Niem, V. H., eds. FAO species identification guide for fishery purposes. The living marine resources of the western central Pacific. Vol. 5. Bony fishes part 2 (Mugilidae to Carangidae). FAO, Rome.
- Collette, B. B. 2001. Scombridae. Pp. 3721-3756 in Carpenter, K. E. and Niem, V. H., eds. FAO species identification guide for fishery purposes. The living marine resources of the western central Pacific, vol. 6, no. 4. FAO, Rome.
- Collette, B. B. and Nauen, C. E. 1983. FAO species catalogue. Vol. 2. Scombrids of the world. An annotated and illustrated catalogue of tunas, mackerels, bonitos and related species known to date. FAO Fisheries Synopsis, 2 (125): 1-137.
- Collette, B. B. and Parin, N. V. 1978. Five new species of halfbeaks (Hemiramphidae) from the Indo-west Pacific. *Proceedings of the Biological Society of Washington*, 91 (3): 731-747.
- Collette, B. B. and Su, J. 1986. The halfbeaks (Pisces, Beloniformes, Hemiramphidae) of Far East. *Proceedings of the Academy of Natural Sciences of Philadelphia*, 138 (1): 250-301.
- Craig, M. T. and Hastings, P. A. 2007. A molecular phylogeny of the groupers of the subfamily Epinephelinae (Serranidae) with a revised classification of the Epinephelini. *Ichthyological Research*, 54 (1): 1-17.
- 出口吉昭. 1969. 小笠原沿岸の魚類. 東京獣医学畜産学雑誌, 17: 25-27.
- 土居内 龍. 2001. イブリカマス(新称). P. 254. 中坊徹次・町田吉彦・山岡耕作・西田清徳(編). 以布利 黒潮の魚. 海遊館, 大阪.
- Doiuchi, R., Bogorodsky, S. and Nakabo, T. 2011. An underwater photograph of *Sphyaena iburiensis* (Perciformes: Sphyaenidae) from the Red Sea: first record outside Japanese waters. *Ichthyological Research*, 58: 99-100.
- Doiuchi, R. and Nakabo, T. 2005. The *Sphyaena obtusata* group (Perciformes: Sphyaenidae) with a description of a new species from southern Japan. *Ichthyological Research*, 52: 132-151.
- 榮川省造. 1982. 新釈 魚名考. 青銅企画出版, 箕面. 606 pp.
- 江口慶輔・本村浩之. 2016. 琉球列島におけるイトウダ科魚類相. *Nature of Kagoshima*, 42: 57-112.
- 遠藤広光. 2012. 黒潮と高知県の浅海魚類相. Pp. 47-62. 松浦啓一(編). 黒潮の魚たち. 東海大学出版会, 秦野.
- Eschmeyer, W. N., Rama-Rao, K. V. and Hallacher, L. E. 1979. Fishes of the scorpionfish family Choriactylinae from the western Pacific and the Indian Ocean. *Proceedings of the California Academy of Sciences, Fourth Series*, 41 (21): 475-500.
- 淵 祐一・帆足喜久雄・赤枝 宏・牧野芳大・野口玉雄. 1999. 大分県国東沿岸産ヒガンフグ及びコモンフグの毒性. *食品衛生学雑誌*, 40 (1): 80-89.
- 淵 祐一・成松浩志・仲摩 聡・寿 久文・平川英敏・鳥島嘉明・野口玉雄・大友信也. 1991. ホシフグの部位別毒性. *食品衛生学雑誌*, 32 (6): 520-524.
- 藤井武人. 1970. コチ科魚類における雌雄同体性と性転換現象-I. アネサゴチの性転換. *魚類学雑誌*, 17 (1): 14-21.
- 藤木哲夫・道津喜衛. 1963. 日本産ボラ科魚類の研究-I 長崎県野母崎町樺島および五島列島富江で獲れた成熟ボラ群の生態. 長崎大学水産学部研究報告, 14: 1-13.
- 藤田矢郎・中原官太郎. 1955. オニオコゼの卵発生と仔魚前期. *学藝雑誌*, 15 (2): 223-228.
- 藤原恭司・畑 晴陵・本村浩之. 2014. 標本に基づく鹿児島県のイトヨリダイ科魚類相. *Nature of Kagoshima*, 40: 59-67.
- 藤原恭司・伊東正英・岩坪洗樹・本村浩之. 2017. トビウオ科魚類シロフチトビウオとチャハネトビウオの鹿児島県本土からの初記録. *Nature of Kagoshima*, 43: 81-87.

- 藤原恭司・本村浩之. 2016. 標本に基づく鹿児島県のヒイラギ科魚類相. *Nature of Kagoshima*, 42: 187-202.
- 藤山萬太. 2004. 私本 奄美の釣り魚. 藤山萬太, 奄美. 179 pp.
- 福井美乃・本村浩之. 2017. トカラ列島臥蛇島沖で観察されたホシフグの繁殖行動. *Nature of Kagoshima*, 43: 243-247.
- 福岡県水産海洋技術センター研究部漁業資源課. 2012. 筑前海におけるシロサバフグの成長と移動. *なみなみ通信*, 51: 4.
- 古川あさひ・古満啓介・伊藤毅史・柳下直己・山口敦子. 2014. 日本産スミツギザメの学名の検討. *板鯰類研究会報*, 50: 27-31.
- 古満啓介・山口敦子. 2010. 日本産アカエイ属魚類 1 新種に対する新和名の提唱. *長崎大学水産学部研究報告*, 91: 61-63.
- Furumitsu, K., Zhang, J. and Yamaguchi, A. 2010. Redescription of a poorly known stingray, *Dasyatis laevigata* (Chondrichthyes: Dasyatidae), with notes on some biological aspects in Ariake Sea, Japan. *Species Diversity*, 15: 139-154.
- 不破 茂. 1976. 志布志湾の小型底びき網漁業について漁場及び漁獲物. *鹿児島大学水産学部紀要*, 25 (1): 125-135.
- Golani, D., Appelbaum-Golani, B. and Peristeraki, P. 2013. Westward range extension of the Lessepsian migrant the shrimp scud *Alepes djedaba* (Forsskal, 1775) in the Mediterranean. *Annales, Series Historia Naturalis*, 23 (2): 115-118.
- Griffiths, S. P., Fry, G. C., Manson, F. J., Lou, M. D. 2011. Age and growth of longtail tuna (*Thunnus tonggol*) in tropical and temperate waters of the central Indo-Pacific. *ICES Journal of Marine Science*, 67 (1): 125-134.
- Gunn, J. S. 1990. A revision of selected genera of the family Carangidae (Pisces) from Australian waters. *Record of the Australian Museum Supplement*, 12: 1-77.
- Gushiiken, S. 1983. Revision of the carangid fishes of Japan. *Galaxea*, 2: 135-264.
- 具志堅宗弘. 1984. ミナミギンガメアジ. P. 151, pl. 139-D, E. 益田 一・尼岡邦夫・荒賀忠一・上野輝彌・吉野哲夫 (編). *日本産魚類大図鑑*. 東海大学出版会, 東京.
- 荻本啓介・河合俊郎・松原 創・久原悠生・長田隆一・桑原尚司・片倉靖次. 2014. オホーツク海から初めて記録されたナガコバン *Remora remora*. *日本生物地理学会会報*, 69: 197-201.
- 浜田豊市・徳田真孝. 1997. マゴチの雌雄の出現と成長 (予報). *福岡県水産海洋技術センター研究報告*, 7: 15-18.
- 浜口哲一. 1991. *動物資料目録 I*. 平塚市博物館資料, (38): 106-140.
- 原口百合子. 2007. ナミダフグ. *鹿児島大学総合研究博物館 News letter*, 16: 14.
- 畑 晴陵. 2014. ミズン *Herklotsichthys quadrimaculatus* (Rüppell, 1837). P. 46. 本村浩之・松浦啓一 (編). *奄美群島最南端の島 与論島の魚類*. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島・国立科学博物館, つくば.
- 畑 晴陵. 2017. ハタ科. Pp. 116-125. 岩坪洗樹・本村浩之 (編). *火山を望む甕海 鹿児島湾の魚類*. 鹿児島水圏生物博物館, 鹿児島・鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島.
- 畑 晴陵・藤原恭司・高山真由美・本村浩之. 2014b. 鹿児島県から得られたイサキ科エリアカコショウダイ *Plectorhynchus schotaf* の記録. *Nature of Kagoshima*, 40: 53-57.
- 畑 晴陵・原口百合子・本村浩之. 2012b. 標本に基づく鹿児島県のイサキ科とシマイサキ科魚類相. *Nature of Kagoshima*, 38: 19-38.
- 畑 晴陵・伊東正英・錦木紘一・本村浩之. 2015. 鹿児島県北部から得られたサバ科魚類グルクマ *Rastrelliger kanagurta* の記録. *Nature of Kagoshima*, 41: 161-166.
- 畑 晴陵・伊東正英・原口百合子・本村浩之. 2016b. クサジ科魚類ヒメクサアジの鹿児島県からの初記録および成長に伴う形態変化の記載. *Nature of Kagoshima*, 42: 39-43.
- 畑 晴陵・伊東正英・本村浩之. 2014a. 鹿児島県から得られたクロサギ科ホソイトヒキサギ *Gerres macracanthus* の記録. *Nature of Kagoshima*, 40: 47-52.
- 畑 晴陵・伊東正英・本村浩之. 2017c. カタクチイワシ科魚類シロガネアイノコイワシ *Encrasicholina heteroloba* の国内における分布状況. *日本生物地理学会会報*, 71: 281-288.
- 畑 晴陵・伊東正英・本村浩之. 2017g. 鹿児島県から得られたイサキ科魚類 2 種: オシヤレコショウダイおよびエリアカコショウダイ. *Nature of Kagoshima*, 43: 141-148.
- Hata, H., Iwatsubo, H., Yamada, M., Maekawa, T. and Motomura, H. 2017. *Sphyraena iburiensis* (Perciformes: Sphyraenidae) from the Amami Islands and southern Kyushu, Japan. *Biogeography*, 19: 10-16.
- 畑 晴陵・錦木紘一・本村浩之. 2016a. 鹿児島県から得られたニンシ科オグロイワシ *Sardinella melanura* の大隅諸島からの初めての記録. *Nature of Kagoshima*, 42: 27-32.
- 畑 晴陵・錦木紘一・本村浩之. 2016d. クロサギ科魚類ホソイトヒキサギの日本沿岸からの 6 番目の記録. *Nature of Kagoshima*, 42: 231-235.
- 畑 晴陵・小枝圭太・錦木紘一・高山真由美・本村浩之. 2016c. 鹿児島県から得られたハタ科魚類 3 種: サラサハタ, アカマダラハタ, およびオオスジハタ. *Nature of Kagoshima*, 42: 147-156.
- 畑 晴陵・小枝圭太・本村浩之. 2017a. 鹿児島県内之浦から得られたハモ科魚類ハシナガアナゴ. *Nature of Kagoshima*, 43: 27-30.
- 畑 晴陵・前川隆則・中江雅典・本村浩之. 2017e. 奄美大島から得られたアジ科魚類 3 種: ミナミギンガメアジ, オニアジ, およびホソヒラアジ. *Nature of Kagoshima*, 44: 27-35.
- 畑 晴陵・本村浩之. 2011. 標本に基づく鹿児島県のニンシ目魚類相. *Nature of Kagoshima*, 37: 49-62.
- 畑 晴陵・本村浩之. 2014. 鹿児島県本土から得られたトビウオ科チャバネトビウオ *Cypselurus spilonopterus* の記録. *Nature of Kagoshima*, 40: 25-28.
- 畑 晴陵・本村浩之. 2016a. トカラ列島から得られたゴマサバの胃内容物からみつかったマルバラシマガツオ (シマガツオ科). *Nature of Kagoshima*, 42: 203-206.
- 畑 晴陵・本村浩之. 2016b. 鹿児島県内之浦湾から得られたイサキ科魚類セトダイ *Hapalogenys analis*. *Nature of Kagoshima*, 42: 243-248.
- 畑 晴陵・本村浩之. 2016c. 鹿児島県北部から得られたサバ科魚類グルクマ. *Nature of Kagoshima*, 42: 327-332.
- Hata, H. and Motomura, H. 2016b. Two new species of the genus *Encrasicholina* (Clupeiformes: Engraulidae): *E. intermedia* from the western Indian Ocean and *E. gloria* from the Persian Gulf, Red Sea and Mediterranean. *Raffles Bulletin of Zoology*, 64: 79-88.
- Hata, H. and Motomura, H. 2016a. Validity of *Encrasicholina pseudoheteroloba* (Hardenberg 1933) and redescription of *Encrasicholina heteroloba* (Rüppell 1837), a senior synonym of *Encrasicholina devisi* (Whitley 1940) (Clupeiformes: Engraulidae). *Ichthyological Research*, 64 (1): 18-28.
- 畑 晴陵・本村浩之. 2017a. 高知県から得られたニンシ科魚類カタバシイワシ *Sardinella lemuru* の記録および本種の日本における出現状況. *四国自然史科学研究*, 10: 41-45.

引用文献

- 畑 晴陵・本村浩之. 2017b. 内之浦湾から得られたサクラアジ *Decapterus smithvanizi*. Nature of Kagoshima, 43: 123–126.
- 畑 晴陵・本村浩之. 2017c. 鹿児島湾から得られたアジ科魚類マルコパンの記録. Nature of Kagoshima, 43: 127–130.
- 畑 晴陵・本村浩之. 2017d. 内之浦湾から得られたミナミギンガメアジ *Caranx tille* の記録. Nature of Kagoshima, 43: 131–136.
- 畑 晴陵・本村浩之・石森博雄. 2012a. 鹿児島県から採集された日本初記録のカタクチイワシ科魚類シロガネアイノイワシ (新称). *Encrasicholina devisi* および近縁種との比較. 魚類学雑誌, 59: 125–134.
- 畑 晴陵・中江雅典・本村浩之. 2016g. 奄美大島から得られたイトヨリダイ科魚類タマガシラ *Parascolopsis inermis*. Nature of Kagoshima, 42: 249–254.
- Hata, H., Takayama, M. and Motomura, H. 2015. Distributional range extension of *Herklotsichthys quadrimaculatus* (Clupeiformes: Clupeidae) in southern Japan. South Pacific Studies, 36: 39–48.
- 畑 晴陵・高山真由美・本村浩之. 2017e. 種子島から得られたイサキ科魚類ヒゲダイ. Nature of Kagoshima, 43: 149–153.
- 畑 晴陵・山田守彦・本村浩之. 2016h. 奄美大島から得られたイトヨリダイ科魚類ヤクシマキツネウオ *Pentapodus aureofasciatus*. Nature of Kagoshima, 42: 255–258.
- 畑 晴陵・山田守彦・本村浩之. 2016d. 鹿児島県から得られたイトヨリダイ科魚類シャムイトヨリ *Nemipterus peronii*. 南紀生物, 58 (2): 215–218.
- 畑 晴陵・山田守彦・本村浩之. 2017b. 内之浦から得られたニシン科魚類ミズン. Nature of Kagoshima, 43: 31–36.
- 畑 晴陵・山田守彦・本村浩之. 2017d. 内之浦湾から得られたオグロエソ. Nature of Kagoshima, 43: 49–52.
- 畑 晴陵・山田守彦・前川隆則・本村浩之. 2016e. 鹿児島県大隅半島東岸と奄美大島から得られたイサキ科魚類エリアカコシウダイ *Plectorhinchus unicolor*. Nature of Kagoshima, 42: 237–241.
- 波戸岡清峰. 2013a. ウツボ科. Pp. 244–261, 1786–1792. 中坊徹次 (編). 日本産 魚類検索 全種の同定 第三版. 東海大学出版会, 秦野.
- 波戸岡清峰. 2013b. ウミヘビ科. Pp. 266–277, 1794–1802. 中坊徹次 (編). 日本産 魚類検索 全種の同定 第三版. 東海大学出版会, 秦野.
- 波戸岡清峰. 2013c. アナゴ科. Pp. 275–287, 1802–1806. 中坊徹次 (編). 日本産 魚類検索 全種の同定 第三版. 東海大学出版会, 秦野.
- 波戸岡清峰. 2013d. クズアナゴ科. Pp. 292–293, 1809–1810. 中坊徹次 (編). 日本産 魚類検索 全種の同定 第三版. 東海大学出版会, 秦野.
- 波戸岡清峰・甲斐嘉晃. 2013. シマガツオ科. Pp. 905–909, 1998–1999. 中坊徹次 (編). 日本産魚類検索 全種の同定, 第三版. 東海大学出版会, 秦野.
- 林 公義. 2013. テンジクダイ科. Pp. 826–864, 1979–1986. 中坊徹次 (編). 日本産魚類検索 全種の同定 第三版. 東海大学出版会, 秦野.
- 林 公義・西山喜徳郎. 1980. 西湘定置網で漁獲された魚類. 神奈川自然誌資料, 1: 15–27.
- Hayashi, S. and Tadokoro, A. 1962a. Occurrence of the Taiwan-Ainoko, *Stolephorus zollingeri* (Bleeker), in Japan. Bulletin of the Japanese Society of Scientific Fisheries, 28 (1): 26–29.
- 林 繁一・田所 瑛. 1962b. カタクチイワシ漁場におけるタイワンアイノコの漁獲量. 日本水産学会誌, 28 (1): 30–33.
- 日比野友亮. 2014. ダイナンアナゴ *Conger erebennus* (Jordan & Snyder, 1901). P. 43. 本村浩之・松浦啓一 (編). 奄美群島最南端の島 与論島の魚類. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島県・国立科学博物館, つくば.
- 日比野友亮・本村浩之・木村清志. 2013. 鹿児島県与論島から得られた日本初記録のホームトラギス (新称) *Parapercis randalli*. 魚類学雑誌, 60: 129–134.
- 平本義春. 1981. イシダイの室内水槽における飼育と満4才魚の自然産卵について. 鳥取県水産試験場報告, 23: 17–20.
- 平坂 寛. 2017. 喰ったらヤバイいきもの. 主婦と生活社. 162 pp.
- 裕仁. 1988. 相模湾産ヒドロ虫類. 皇居内生物学研究所, 東京. 179 pp. + 110 pp., 4 pls., 2 maps.
- Ho, H.-C., Smith, D. G., McCosker, J. E., Hibino, Y. Loh, K.-H., Tighe, K. A. and Shao, K.-T. 2015. Annotated checklist of eels (orders Anguilliformes and Saccopharyngiformes) from Taiwan. Zootaxa, 4060 (1): 140–189.
- 外園博人. 1993. ハタの夏バテ温度は? うしお, 257: 1–2. 本間義治. 1959. 新潟県魚類目録補訂 (VI). 魚類学雑誌, 7 (5): 139–144.
- Horinouchi, M., Sano, M., Taniuchi, T., and Shimizu, M. 1996. Stomach contents of the tetraodontid fish, *Takifugu pardalis*, in *Zostera* beds at Aburatsubo, central Japan. Ichthyological Research, 43: 455–458.
- 堀田秀之・小達 繁. 1966. 東北海区南部におけるボラ稚仔の分布. 魚類学雑誌, 14 (1): 67–73.
- Hussey, N. E., Cocks, D. T., Dudley, S. F. J., McCarthy, I. D. and Wintner, S. P. 2009. The condition conundrum: application of multiple condition indices to the dusky shark *Carcharhinus obscurus*. Marine Ecology Progress Series, 380: 199–212.
- 一丸俊雄・中国明信. 1999. 九州北西岸におけるツクシトビウオの成熟と産卵. 日本水産学会誌, 65 (4): 680–688.
- 飯田益生・鈴木邦弘. 2009. 浜名湖で新たに記録された魚たち. はまな, 526: 15.
- 池田博美・中坊徹次. 2015. 南日本太平洋沿岸の魚類. 東海大学出版部, 秦野. 597 pp.
- 今井貞彦. 1959. 日本近海産トビウオ類生活史の研究 I. 鹿児島大学水産学部紀要, 7: 1–85.
- Imamura, H. 1996. Phylogeny of the family Platyccephalidae and related taxa (Pisces: Scorpaeniformes). Species Diversity, 1 (2): 123–233.
- Imamura, H. 2010. A new species of the flathead genus *Inegocia* (Teleostei: Platyccephalidae) from East Asia. Bulletin of the National Museum of Nature and Science, Series A (Zoology), Supplement, 4: 21–29.
- Imamura, H. and Yoshino, T. 2009. Authorship and validity of two flatheads, *Platyccephalus japonicus* and *Platyccephalus crocodiles* (Teleostei: Platyccephalidae). Ichthyological Research, 30 (1): 293–300.
- 稲生 陽・橋 建吾. 2016. 「本家は我が県」スマ対決 和歌山「上荷は先」、愛媛「重さは倍」高級養殖魚, 大阪・梅田で同じ日販売. 毎日新聞. 2016年1月16日.
- Inoue, T. and Nakabo, T. 2006. The *Saurida undosquamis* group (Aulopiformes: Synodontidae), with description on a new species from southern Japan. Ichthyological Research, 53 (4): 379–397.
- 伊佐正樹・石川晃寛・加藤正洋・町田吉彦. 2007. カスミフグの北限記録. 四国自然史科学研究, 4: 51–53.
- 石田 修・田中邦三・佐藤秀一・庄司泰雅. 1977. ヒラメの資源生態調査 II. 千葉県水産試験場研究報告, 36: 23–31.

- Itoi, S., Kozaki, A., Komori, K., Tsunashima, T., Noguchi, S., Kawane, M. and Sugita, H. 2015. Toxic *Takifugu pardalis* eggs found in *Takifugu niphobleus* gut: Implications for TTX accumulation in the pufferfish. *Toxicon*, 108: 141–146.
- 伊東 宏. 2009. 駿河湾湾奥におけるシラス地曳網で採集された稚仔魚の食性. *水産海洋研究*, 73 (3): 181–189.
- 伊東正英. 2007. イサキ (色彩変異). 鹿児島大学総合研究博物館 News letter, 16: 13–14.
- 伊東正英・小枝圭太・本村浩之. 2016. 九州初記録のウミテング科魚類ヤリテング *Pegasus volitans*. *Nature of Kagoshima*, 42: 113–117.
- 伊藤猛夫. 1963. 河川におけるナガエバ *Caranx sexfasciatus* Quoy et Gaimard (アジ科) の生息について. *水産増殖*, 11 (4): 229–242.
- 伊藤智幸・由木雄一・辻 祥子. 1999. 日本周辺海域におけるコンナガ *Thunnus tonggol* の産卵の可能性と成長. 遠洋水産研究所研究報告, 36: 47–53.
- 岩井 保・中村 泉・松原喜代松. 1965. マグロ類の分類学的研究. 京都大学みさき臨海研究所特別報告, 2: 1–51.
- 岩崎行伸. 1999. 駿河湾沿岸域のイトヨリダイの魚体組成と産卵期. 東海大学海洋研究所研究報告, 20: 187–195.
- 岩坪洗樹. 2017. ハチビキ科. P. 162. 岩坪洗樹・本村浩之 (編) 火山を望む甕海 鹿児島湾の魚類. 鹿児島水圏生物博物館, 鹿児島・鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島.
- 岩坪洗樹・出羽慎一・崎向幸和・伊東正英・古田和彦・本村浩之. 2011. 鹿児島県から得られたハナダイ亜科2種コウリンハナダイ *Pseudanthias parvirostris* とサクラダイ *Sacura margaritacea* の記録. *Nature of Kagoshima*, 37: 17–22.
- 岩坪洗樹・伊東正英・中尾和成・目黒昌利・松沼瑞樹・本村浩之. 2009. 南九州から得られたカイユウセンニンフグ *Lagocephalus suzuensis* (フグ目フグ科). *生物地理学会会報*, 64: 21–27.
- 岩坪洗樹・加藤 紳・本村浩之 (編). 2016. 南九州顕娃の海水魚. シーホースウェイズ, 南九州. 78 pp.
- 岩坪洗樹・木村清志・本村浩之. 2016. 東シナ海と鹿児島県枕崎市沖から得られた日本初記録のアジ科魚類 *Decapterus smithvanizi* サクラアジ (新称). *Nature of Kagoshima*, 42: 179–182.
- 岩坪洗樹・本村浩之 (編). 2017. 火山を望む甕海 鹿児島湾の魚類. 鹿児島水圏生物博物館, 鹿児島・鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島. 302 pp., 618 figs.
- 岩坪洗樹・大富 潤. 2015. 鹿児島湾初記録ならびに西限記録のアカメ *Lates japonicus*. *日本生物地理学会会報*, 70: 239–243.
- Iwatsuki, Y. Akasaki, M. and Taniguchi, N. 2007. Review of the species of the genus *Dentex* (Perciformes: Sparidae) in the western Pacific Defined as the *D. hepselesomes* complex with the description of a new species, *Dentex abei* and a Redescription of *Evynnis tumifrons*. *Bulletin of the National Museum of Nature and Science, Series A (Zoology)*, Supplement, 1: 29–49.
- Iwatsuki, Y. and Kimura, S. 1996. First record of the carangid fish, *Alepes djedaba* (Forsskål) from Japanese waters. *Ichthyological Research*, 43 (2): 182–185.
- Iwatsuki, Y., Kimura, S., Kishimoto, H. and Yoshino, T. 1996. Validity of the gerreid fish, *Gerres macracanthus* Bleeker, 1854, with designation of a lectotype, and designation of a neotype for *G. filamentosus* Cuvier, 1829. *Ichthyological Research*, 43 (4): 417–429.
- Iwatsuki, Y. and T. Nakabo. 2005. Redescription of *Haplogenyus nigripinnis* (Schlegel in Temminck and Schlegel, 1843), a senior synonym of *H. nitens* Richardson, 1844, and a new species from Japan. *Copeia*, 2005 (4): 854–867.
- Iwatsuki, Y., Yoshino, T., Golani, D. and Kanda, T. 1995. The validity of the haemulid fish *Pomadasys quadrilineatus* Shen and Lin, 1984 with the designation of the neotype of *Pomadasys stridens* (Forsskål, 1775). *Japanese Journal of Ichthyology*, 41 (4): 455–461.
- Johnson, J. W. and Wilmer, J. W. 2015. *Plectorhinchus caeruleonothus*, a new species of sweetlips (Perciformes: Haemulidae) from northern Australia and the resurrection of *P. unicolor* (Macleay, 1883), species previously confused with *P. schotaf* (Forsskål, 1775). *Zootaxa*, 3985: 491–522.
- Jordan, D. S. and Snyder, J. O. 1901. A review of the apodal fishes or eels of Japan, with descriptions of nineteen new species. *Proceedings of the United States National Museum*, 23 (1239): 837–890.
- Jordan, D. S. and Snyder, J. O. 1907. Notes on fishes of Hawaii, with descriptions of new species. *Bulletin of the Bureau of Fisheries*, 26: 205–218, pls. 1–2.
- Jordan, D. S., Tanaka, S. and Snyder, J. O. 1913. A catalog of fishes of Japan. *Journal of the College of Science. Imperial University, Tokyo*, 33 (1): 1–497.
- 鍋木 紘一. 2016. 種子島の釣魚図鑑. たまたか舎, 西之表. 157 pp.
- 門村和志. 2001. 「オニオコゼ」について. *漁連だより*, 73: 1–2.
- 門脇慧史・山口陽介・長田信人. 2015. 佐世保市黒島の定置網に入網した魚類. *長崎県生物学会誌*, 76: 57–61.
- 海洋生物環境研究所. 2008. 魚のことわざ その34 イサキ. *かいせいけん海の豆知識*, 36: 1–2.
- 賀数大吾・佐久本孟寿・立原一憲・今井秀行. 2015. 西太平洋域で発見されたタカサゴとニセタカサゴの雑種. *日本生物地理学会会報*, 70: 55–63.
- 角田俊平. 1970. 底流網によるキスの生態とその資源に関する研究. *広島大学水畜産学部紀要*, 9: 1–55.
- 鎌田崇史・坂井陽一・橋本博明・具島健二. 2002. 瀬戸内海燧灘におけるセトダイ *Haplogenyus mucronatus* の生殖について. *生物圏科学*, 41: 13–21.
- 亀井正法・高間 浩. 1981. 相模湾で採集したイシダイとイシガキダイの天然交雑種について. *神奈川県水産試験場研究報告*, 3: 15–17, pl. 1.
- 蒲原稔治. 1937. 土佐産魚類の9稀種. *動物学雑誌*, 49 (12): 424–429.
- Kamohara, T. 1952. Additions to the fish fauna of Prov. Tosa, Japan. *Reports of the Kochi University Natural Science*, 2: 1–10.
- Kamohara, T. and T. Yamakawa. 1967. On some fishes from the waters of Okinawa and Yaeyama. *Reports of the Usa Marine Biological Station*, 14 (1): 1–17.
- Kanayama, T. and Amaoka, K. 1980. First record of the scorpaenid fish *Brachyptrois serrulatus* from Japan, with a key to Japanese genera of the Pteroinae. *Japanese Journal of Ichthyology*, 28 (2): 181–183.
- Kanazawa, R. H. 1958. A revision of the eels of the genus *Conger* with descriptions of four new species. *Proceedings of the United States National Museum*, 108 (3400): 219–267, pls. 1–4.
- 加納碩雄・銭重 均・佐藤之紀・丸山純一・野口玉雄・橋本周久. 1985. 東京湾産シヨウサイフグの毒性. *食品衛生学雑誌*, 26: 489–495.
- 粕谷和寿. 2007. キスの飼育レポート. *水試の何でも魚ツチング*, 53: 1.
- 片山知史・秋山誠二・下村友季子・黒木洋明. 2015. 東京湾におけるクロアナゴとダイアナゴの成長様式と性比. *日本水産学会誌*, 81 (4): 688–693.
- 加藤昌一. 2011. ネイチャーウォッチングガイドブック スズメダイ ～ひと目で特徴がわかる図解付き～. 誠文堂新光社, 東京. 239 pp.

引用文献

- 加藤昌一. 2016. ネイチャーウォッチングガイドブック ベラ&ブダイ 日本で見られる192種+幼魚、成魚、雌雄、婚姻色のバリエーション. 誠文堂新光社, 東京. 319 pp.
- 加藤憲司・川辺勝俊・岡村陽一・木村ジョンソン. 2008. 小笠原諸島海域におけるトビウオ科魚類の生態と漁業. 東京都水産海洋研究報告, 2: 1-27.
- 河野光久・阿部 寧・田中伸和・手島和之. 1995. 目視観察に基づく日本海におけるトビウオ類の分布と移動. 水産海洋研究, 59 (2): 123-129.
- 河野光久・石田祐司・繁永裕司. 2010. 山口県日本海沿岸域におけるメダイの分布. 山口県水産研究センター研究報告, 8: 23-26.
- 川崎崇史. 2009. イシダイ?イシガキダイ?交雑の珍魚を捕獲. 山口・田布施沖. 中国新聞. 2009年11月5日.
- 萱野泰久. 2010. 近年増加傾向にある魚類—セトダイとヒゲソリダイ—. 岡山県農林水産総合センター水産研究所だより, 371: 2.
- 萱野泰久. 2011. 播磨灘北西部海域で漁獲されるサツパ及びコノシロの外部形態と体成分の季節変化. 岡山水産研究報告, 26: 1-5.
- 京葉銀行. 2005. ちば魚〜きんぐ No. 23 マゴチ. 京葉銀行, 千葉. 3 pp.
- 紀伊民報. 2008. 水族館に行こう! 京都大学白浜水族館メジナ類. 紀伊民報. 2008年2月5日.
- 喜界島町役場. 2017. 伝統の島魚 ウフミ. 広報きかい, 604: 4-6.
- 木村基文・森井康宏・久野俊行・西田英明・吉村 浩・秋重祐章・千田哲資. 1998. 西部太平洋熱帯水域の漂流物に伴う魚類. 長崎大学水産学部研究報告, 79: 9-20.
- 木村清志. 1981. 熊野灘におけるイサキの食性. 日本水産学会誌, 47 (12): 1551-1558.
- 木村清志. 1997. カンパチ *Seriola dumerilii*. Pp. 316-317. 岡村 収・尼岡邦夫(編). 山溪カラー名鑑 日本の海水魚. 山と溪谷社, 東京.
- 木村清志・伯耆匠二・山田彦彦・本村浩之. 2008. 鹿児島県で採集された日本初記録のヒラギ科魚類ホソウケグチヒラギ(新称) *Secutor indicus*. 魚類学雑誌, 55 (2): 111-114.
- Kimura, S., Katahira, K. and Kuriwa, K. 2013. The red-fin *Decapterus* group (Perciformes: Carangidae) with the description of a new species, *Decapterus smithvanizi*. Ichthyological Research, 60: 363-379.
- 木村祐貴. 2017. えらぶのさかな オヤビツチャ. Pp. 24-25. 木村祐貴・日比野友亮・三木涼平・峯苦 健・小枝圭太(編). 緑の火山島 口永良部島の魚類. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島.
- 木村祐貴・日比野友亮・三木涼平・峯苦 健・小枝圭太. 2017. 緑の火山島 口永良部島の魚類. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島市. 200 pp.
- 近畿大学大学新聞. 2000. 水産研究所 プリヒラを商標登録研究所の財産に. 近畿大学大学新聞. 2000年8月1日.
- 岸田周三. 1974. 東シナ海産ムロアジ属魚類の漁業生物学的研究—II—まき網漁獲物から見た魚種別分布と漁獲量. 西海区水産研究所研究報告, 45: 1-14.
- 北 奈美. 2007. ミナミギンガメアジ. 鹿児島大学総合研究博物館 News letter, 16: 13.
- 北九州市立水環境館. 2015. フグの仲間3種類. 水環境館だより, 62: 1.
- 清藤秀理. 2014. 最新の標識でカツオの行動が見えてきました—カツオは冷たい水が嫌い—. FRANEWS, 40: 18-19.
- Knapp, L. W. 1996. Review of the genus *Cociella* Whitley (Teleostei; Platycephalidae) with the description of three new species. Proceedings of the Biological Society of Washington, 109 (1): 17-33.
- 小林知吉. 2004. コシナガ *Thunnus tonggol* とクロマグロ *Thunnus thynnus* の幼魚期における形態的差異. 山口県水産研究センター研究報告, 2: 15-18.
- 小林知吉・岩本哲二. 1984. コシウダイの初期生活史. 魚類学雑誌, 30 (4): 412-418.
- 小林安雅. 1995. 海中記. 福音館書店, 東京. 190 pp.
- 児玉 修・大河俊之・杉本昌彦・稲葉太郎・山下慶太郎・猪原 亮. 2017. 高知県海域における漁況と主要魚種の資源生態. 高知県水産試験場, 須崎. 141 pp.
- 小枝圭太. 2017a. フェダイ科. Pp. 163-167. 岩坪洗樹・本村浩之(編). 火山を望む甕海 鹿児島湾の魚類. 鹿児島水圏生物博物館, 鹿児島・鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島.
- 小枝圭太. 2017b. クロサギ科. Pp. 169-170. 岩坪洗樹・本村浩之(編). 火山を望む甕海 鹿児島湾の魚類. 鹿児島水圏生物博物館, 鹿児島・鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島.
- 小枝圭太. 2017c. 小笠原諸島のハタンボ科魚類相. 日本生物地理学会会報, 71: 137-149.
- 小枝圭太. 2017d. 闇夜に生きる魚たち、夜の海はちょっと凄い. Pp. 46-47. 木村祐貴・日比野友亮・三木涼平・峯苦 健・小枝圭太(編). 緑の火山島 口永良部島の魚類. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島.
- Koeda, K., Fujii, T., Koeda, S. and Motomura, H. 2016a. Fishes of Yoro-jima and Uke-jima islands in the Amami Islands: 89 new specimen-based records. Memoirs of Faculty of Fisheries Kagoshima University, 65: 1-20.
- Koeda K., Fukagawa, T., Ishihara, T. and Tachihara, K. 2013. Reproductive biology of nocturnal reef fish *Pempheris adusta* (Pempheridae) in Okinawa Island, Japan. Proceedings of 2nd Asia Pacific Coral Reef Symposium, Galaxea, 15: 221-228.
- 小枝圭太・畑 晴陵・本村浩之. 2015. 鹿児島県内之浦湾から得られたユキフリソデウオ *Zu cristatus*. Nature of Kagoshima, 41: 31-35.
- Koeda, K., Hibino, Y., Yoshida, T., Kimura, Y., Miki, R., Kunishima, T., Sasaki, D., Furukawa, T., Sakurai, M., Eguchi, K., Suzuki, H., Inaba, T., Uejo, T., Tanaka, S., Fujisawa, M., Wada, H. and Uchiyama, T. 2016b. Annotated checklist of fishes of Yonaguni-jima island, the westernmost island in Japan. The Kagoshima University Museum, Kagoshima. v + 120 pp.
- Koeda, K., Ishihara, T., Fukagawa, T. and Tachihara, K. 2016d. Life cycle differences between two species of genus *Pempheris* based on age determination. Ichthyological Research, 63: 519-528.
- Koeda, K., Ishihara, T. and Tachihara, K. 2012. The Reproductive biology of *Pempheris schwenkii* (Pempheridae) on Okinawa Island, southwestern Japan. Zoological Studies, 51 (7): 1086-1093.
- Koeda, K., Maekawa, T., Wada, H. and Motomura, H. 2016c. Records of the Orange Goatfish, *Mulloidichthys pflugeri* (Teleostei: Mullidae), from Amami-oshima and Yonaguni-jima islands in the Ryukyu Archipelago, southern Japan. South Pacific Studies, 37 (1): 1-8.
- 小枝圭太・本村浩之. 2015. 鹿児島県本土と薩南諸島3島から得られたリュウキュウハタンボ *Pempheris adusta* の記録と生物学的知見. Nature of Kagoshima, 41: 163-167.
- 小枝圭太・本村浩之. 2017. 鹿児島大学総合研究博物館に所蔵されている胃内容物魚類標本. Nature of Kagoshima, 43: 257-269.
- Koeda, K. and Motomura, H. 2017. A new species of *Pempheris* (Perciformes: Pempheridae) endemic to the Ogasawara Islands, Japan. Ichthyological Research. DOI: 10.1007/s10228-017-0586-3
- 小枝圭太・興 克樹・本村浩之. 2016. 奄美大島から得られたマンボウ科の稀種ヤリマンボウ *Masturus lanceolatus*. Nature of Kagoshima, 42: 339-342.

- 小枝圭太・山田守彦・本村浩之. 2017. 内之浦湾から得られた九州沿岸初記録のセンネンダイ. *Nature of Kagoshima*, 43: 137-140.
- 小枝圭太・吉野哲夫・立原一憲. 2012. 沖縄島から採集されたツマグロハタンポ *Pempheris japonica* の初記録および南限記録とその稚魚の成長過程. *日本生物地理学会会報*, 67: 67-73.
- 小枝圭太・吉野哲夫・立原一憲. 2013. リュウキュウハタンポの識別的特徴と用いるべき学名. *魚類学雑誌*, 60 (2): 123-128.
- 小島純一. 1985. コバンアジおよびマルコバンの稚魚期の形態と南日本沿岸域における出現. *海洋生物環境研究所研究報告*, (85102): 1-32.
- 児島俊平. 1971. ホソビの回遊と産卵生態に関する研究 - IV, 産卵場における卵の分布状況. *水産学会誌*, 37: 284-288.
- 近藤 忍. 2008. パヤオ周辺の音波散乱層の分布特性 (パヤオ周辺でのマグロ類の飼料環境調査). *沖縄県水産海洋研究センター事業報告書*, 69: 31-41.
- 厚生省. 1953. 「毒かます」について. *衛環発*, 20: 21.
- 久保 満. 2004. 漁場環境調査. P. 19. 鹿児島県水産試験場(編). 平成15年度鹿児島県水産試験場事業報告書. 鹿児島県水産試験場, 鹿児島.
- 久保田 信. 2008. タツノオトシゴ類 (ヨウジウオ目, タツノオトシゴ亜科) とヒドロ虫類の共生の日本初記録. *Kuroshio Biosphere*, 4: 25-28, pls. 1-2.
- 久保田 信・田名瀬英明・中坊徹次. 2012. 和歌山県田辺湾にホシフグが大量漂着 (2例). *漂着物学会誌*, 10: 41-42.
- 久保田 正・佐藤 武. 2014a. 駿河湾の深海魚 (9) キュウリエソ (その1). *自然史しずおか*, 43: 9.
- 久保田 正・佐藤 武. 2014b. 駿河湾の深海魚 (9) キュウリエソ (その2). *自然史しずおか*, 44: 9.
- 工藤孝浩. 1998. 相模湾のパヤオ (表層式浮魚礁) において潜水観察された魚類群集. *神奈川県水産研究所研究報告*, 3: 1-18.
- 工藤孝浩. 2011. 横浜, 川崎および中の瀬海域から初記録の魚類 - V. *神奈川自然誌資料*, 32: 127-133.
- Kuriwa, K., Arihara, H., Chiba, S. N., Kato, S., Senou, H. and Matsuura, K. 2014. Checklist of marine fishes of the Zunan Islands, located between the Izu and Ogasawara (Bonin) islands, Japan, with zoogeographical comments. *Checklist*, 10 (6): 1479-1501.
- 黒田一紀・孔立波・川崎将義・藤田清. 2002. 漁獲量資料から見た日本近海産コノシロの長期変動. *水産海洋研究*, 66 (4): 239-246.
- 桑原昭彦・鈴木重喜. 1982. ヒラメ仔魚の鉛直分布と食性. *日本水産学会誌*, 48 (10): 1375-1381.
- 桑谷幸正・古旗喜太夫・船田秀之助. 1956. コノシロの生態学的研究 - 1, 産卵期と人工受精による卵発生について. *水産増殖*, 4 (3): 31-37.
- 京都府農林水産技術センター海洋センター. 2008. 季報第93号. 京都府海洋センター, 宮津. 17 pp.
- 京都府農林水産技術センター海洋センター. 2012. 季報第104号. 京都府農林水産技術センター海洋センター, 宮津. 14 pp.
- Last, P. R. and Moteki, M. 2001. Bramidae. Pp. 2824-2835 in Carpenter, K. E. and Niem, V. H., eds. *FAO species identification guide for fishery purposes. The living marine resources of the western central Pacific, volume 5: Bony fishes part 3 (Menidae to Pomacentridae)*. FAO, Rome.
- 馬淵浩司・林公義・Fraser, T. H. 2015. テンジクダイ科の新分類体系にもとづく亜科・族・属の標準と名の提唱. *魚類学雑誌*, 62 (1): 29-49.
- Mabuchi, K., Okuda, N. and Nishida, M. 2006. Molecular phylogeny and stripe pattern evolution in the cardinalfish. *Molecular Phylogenetics and Evolution*, 38: 90-99.
- 前田洋志・小埜田 明・土屋光太郎. 2006. 表中層トロールにより沖ノ島島および伊豆・小笠原諸島周辺海域から採集された魚類および無脊椎動物. *東京都水産海洋研究報告*, 1: 31-49.
- Major, P. F. 1973. Scale feeding behavior of the leatherjacket, *Scomberoides lysan* and two species of the genus *Oligoplites* (Pisces: Carangidae). *Copeia*, 1973 (1): 151-154.
- 牧野清人・山田真之・安井里奈. 2003. 平成14年度魚類養殖実態調査. Pp. 39-45. 平成14年度水産海洋技術センター事業報告書. 沖縄県水産改良普及センター, 糸満.
- 丸山敬悟. 2008. シリーズ: 瀬戸内海の魚たち第4回 キジハタ. おさかな瓦版, 24: 1.
- 益田 一・荒賀忠一・吉野哲夫. 1975. 魚類図鑑 南日本の沿岸魚. 東海大学出版会, 東京. 378 pp.
- 益田 一・尼岡邦夫・荒賀忠一・上野輝彌・吉野哲夫 (編). 1984. *日本産魚類大図鑑*. 東海大学出版会, 東京. xx + 451 pp., 370 pls.
- 増田育司・酒匂貴文・松下 剛・白石哲郎・切通淳一郎・神村祐司・小澤貴和. 2003. 鹿児島湾産アカカマスの年齢, 成長及び年級群組成. *日本水産学会誌*, 69 (5): 709-716.
- Masuda, Y., Shinohara, N., Takahashi, Y., Tabeta, O. and Matsuura, K. 1991. Occurrence of natural hybrid between pufferfishes, *Takifugu xanthopterus* and *T. vermicularis*, in Ariake Bay, Kyushu, Japan. *Nippon Suisan Gakkaishi*, 57 (7): 1247-1255.
- 松原喜代松. 1955. 魚類の形態と検索. I-III. 石崎書店, 東京. xi + v + 1605 pp., 135 pls.
- 松井誠一・福元勝志・塚原 博. 1987a. 沿岸域に出現するフグ類の生態学的研究. I. 筑前沿岸部におけるフグの出現時間と成熟について. *九州大学大学院農学研究院学芸雑誌*, 41 (3-4): 97-104.
- 松井誠一・福元勝志・塚原 博. 1987b. 沿岸域に出現するフグ類の生態学的研究 II. ショウサイフグの年齢と成長. *九州大学大学院農学研究院学芸雑誌*, 41 (3-4): 105-110.
- 松宮義晴・高橋勝宏. 1983. 平戸島志々伎湾におけるイサキの食性. *西海区水産研究所研究報告*, 59: 23-32.
- 松沼瑞樹・福井美乃・山田守彦・本村浩之. 2016. 大隅半島東岸と鹿児島湾から得られたコチ科セレベスコチ *Thysanophrys celebica*. *Nature of Kagoshima*, 42: 123-128.
- 松沼瑞樹・原崎 森・目黒昌利・荻原豪太・本村浩之. 2009. イサキ科魚類2種クロコショウダイとスジミゾイサキの鹿児島県における記録およびクロコショウダイとコショウダイ幼魚期の形態比較. *日本生物地理学会会報*, 64: 57-67.
- 松沼瑞樹・山田守彦・本村浩之. 2017. 鹿児島県内之浦湾から得られたトラギス科ホムトラギス *Parapercis randalli* の分布北限記録および成長にともなう形態変化. *日本生物地理学会会報*, 71: 15-24.
- 松尾 怜・木村清志. 2017. 口永良部島から得られたトウゴロウイワシ科魚類オオスジイソイワシ *Hypoatherina barnesi*. *Nature of Kagoshima*, 43: 77-80.
- 松岡正信. 2008. 日本産マイワシの初期発育と産卵生態に関する研究. *水産総合研究センター研究報告*, 22: 87-183.
- 松岡正信・宮地邦明・加藤 修. 2002. 薩南海域におけるマイワシとカタクチイワシの産卵水深に関する観察例. *水産総合研究センター研究報告*, 2: 15-23.
- 松島 健. 2016. 新見でカマスサワラ属の上顎化石. 岡山理科大の石垣教授ら鑑定. *山陽新聞*. 2016年6月23日.
- 松浦啓一. 1984. フグ科. Pp. 348-351. 益田 一・尼岡邦夫・荒賀忠一・上野輝彌・吉野哲夫 (編). *日本産魚類大図鑑*. 東海大学出版会, 東京.

引用文献

- 松浦啓一. 1996. ナミダフグの学名. 魚類学雑誌, 43 (1): 41-42.
- 松浦啓一. 1997a. ホシフグ *Arothron firmamentum*. Pp. 706-707. 岡村 収・尼岡邦夫 (編). 山溪カラー名鑑 日本の海水魚. 山と溪谷社, 東京.
- 松浦啓一. 1997b. クロサバフグ *Lagocephalus gloveri*. P. 713. 岡村 収・尼岡邦夫 (編). 山溪カラー名鑑 日本の海水魚. 山と溪谷社, 東京.
- 松浦啓一. 1997c. シロサバフグ *Lagocephalus wheeleri*. P. 716. 岡村 収・尼岡邦夫 (編). 山溪カラー名鑑 日本の海水魚. 山と溪谷社, 東京.
- Matsuura, K. 2010. *Lagocephalus wheeleri* Abe, Tabeta & Kitahama, 1984, a junior synonym of *Tetraodon spadiceus* Richardson, 1845 (Actinopterygii, Tetraodontiformes, Tetraodontidae). Memoirs of the Natural Museum of Natural Sciences, Tokyo, 46: 39-46.
- Matsuura, K. 2015. A new pufferfish of the genus *Torquigaster* that builds "mystery circles" on sandy bottoms in the Ryukyu Islands, Japan (Actinopterygii: Tetraodontiformes: Tetraodontidae). Ichthyological Research, 62: 207-212.
- Matsuura, K. 2016. A new pufferfish, *Arothron multilineatus* (Actenopterygii: Tetraodontiformes: Tetraodontidae), from the Indo-West Pacific. Ichthyological Research, 63 (4): 480-486.
- 松浦啓一. 2016. 日本産フグ類図鑑. 東海大学出版部, 平塚市. 127 pp.
- Matsuura, K. 2017. Taxonomic and nomenclatural comments on two puffers of the genus *Takifugu* with description of a new species, *Takifugu flavipterus*, from Japan (Actinopterygii, Tetraodontiformes, Tetraodontidae). Bulletin of National Museum of Nature and Science, Series A, 43 (1): 71-80.
- Matsuura, K., Sakai, K. and Yoshino, T. 1993. Records of two diodontid fishes, *Cylichthys orbicularis* and *C. spilostylus*, from Japan. Japanese Journal of Ichthyology, 40 (3): 372-376.
- Matsuura, K. and Satoh, T. P. 2016. Redescription of *Lagocephalus cheesemani* (Clarke 1897), a senior synonym of *Lagocephalus gloveri* Abe and Tabeta 1983, based on morphological and genetic comparisons (Actinopterygii: Tetraodontiformes: Tetraodontidae). Ichthyological Research, 64 (1): 104-110.
- McCosker, J. E., Ide, S. and H. Endo, H. 2012. Three new species of ophichthid eels (Anguilliformes: Ophichthidae) from Japan. Bulletin of the National Museum of Nature and Science (Series A) Supplement, 6: 1-16.
- Mead, G. W. 1972. Bramidae. Dana Report, 81: 1-166, pls. 1-9.
- Melville, R. 1983. Opinion 1272. *Sciaena nibe* Jordan & Thompson, 1911 (Pisces): specific name *nibe* conserved under the plenary powers. Bulletin of Zoological Nomenclature, 41: 26-27.
- 三木涼平. 2017. 大隅諸島を代表する魚. P.42. 木村祐貴・日比野友亮・三木涼平・峯吉 健・小枝圭太 (編). 緑の火山島 口永良部島の魚類. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島.
- みなと新聞. 2015. 「カタボシイワシ」さつま揚げに. みなと新聞. 2015年11月25日.
- 三谷文夫. 1958. 胃の内容物から見たブリの食性-I. 日本水産学会誌, 24 (3): 176-181.
- 三浦信男. 2012. 美ら海市場図鑑 知念市場の魚たち. ウェブ企画, 与那原. 140 pp.
- 宮木廉夫・道津喜衛. 1988. 1983年秋の長崎県小値賀島西沖のクロサバフグすくい網漁について. 長崎大学水産学部研究報告, 63: 5-9.
- Miyaki, K., Tabeta, O. and Kayano, H. 1995. Karyotypes in six species of pufferfishes genus *Takifugu* (Tetraodontidae, Tetraodontiformes). Fisheries Science, 61 (4): 594-598.
- 宮本 圭・岡 慎一郎. 2014. ホソイトヒキサギ *Gerres macracanthus* (スズキ目: クロサギ科) の沖縄島からの記録. Fauna Ryukyuana, 17: 1-6.
- 宮崎里帆・宮崎真美子・梁 佳・曹 俊傑・平坂勝也・橋勝康・谷山茂人. 2015. ワニエソかまぼこの火戻り現象に及ぼす緑豆トリブシンインヒター添加の効果. 日本食品化学学会誌, 22 (3): 175-180.
- 水田浩二. 2001. キビナゴの生態について. 漁連だより, 76: 9-10.
- Mohri, M., Sasaki, T., Ohgaki, R., Kamano, T., Enoshima, T., Gotoh, H. and Satoh, S. 2014. Biodiversity as observed from catch size differences between longtail tuna and other commercial fish species caught with set net off Futaoi Island (western Sea of Japan). Fisheries Engineering, 50 (3): 213-218.
- 森下悟至・本村浩之. 2018. フサカサゴ科マツバラカサゴ属魚類 *Neomerinthe erostris* ヤブサメカサゴ (新称) の日本の初記録. タクサ.
- 森脇晋平・堀 玲子・吉田太輔. 2012. 沿岸漁業の複合経営に関する研究-IV 島根半島沿岸海域におけるアカアマガダイはえ縄漁業の実態. 島根県水産技術センター研究報告, 4: 23-32.
- Morohashi, Y. and Sasaki, K. 2003. Intensive cannibalism and feeding on bregmatocerotids in *Champsodon snyderi* (Champsodontidae): evidence for pelagic predation. Ichthyological Research, 50: 387-390.
- 師田彰子・藤田 清. 1995. ハワイ近海におけるコバンザメ類の寄主およびヒシコバンの繁殖生態. 魚類学雑誌, 42 (2): 203-207.
- 本村浩之. 2009. 魚類標本の作製と管理マニュアル. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島. 70 pp.
- 本村浩之・出羽慎一・古田和彦・松浦啓一 (編). 鹿児島県三島村一硫黄島と竹島の魚類. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島・国立科学博物館, つくば. 390 pp., 883 figs.
- Motomura, H., Habano, A., Arita, Y., Matsuoka, M., Furuta, K., Koeda, K., Yoshida, T., Hibino, Y., Jeong, B., Tashiro, S., Hata, H., Fukui, Y., Eguchi, K., Inaba, T., Uejo, T., Yoshiura, A., Ando, Y., Haraguchi, Y., Senou, H. and Kuriwa, K. 2016. The ichthyofauna of the Uji Islands, East China Sea: 148 new records of fishes with notes on biogeographical implications. Memoirs of Faculty of Fisheries Kagoshima University, 64: 10-34.
- Motomura, H., Iwatsuki, Y. and Yoshino, T. 2001b. A new species, *Polydactylus siamensis*, from Thailand and redescription of *P. plebeius* (Broussonet, 1782) with designation of a neotype (Perciformes: Polynemidae). Ichthyological Research, 48 (2): 117-126.
- Motomura, H., Kimura, S. and Iwatsuki, Y. 2001a. Distributional range extension of a clupeoid fish, *Sardinella melanura* (Cuvier, 1829), in southern Japan (Teleostei: Clupeiformes). Biogeography, 3: 83-87.
- Motomura, H. and Matsuura, K. (eds.) 2013. Fishes of Yakushima Island - A world heritage island in the Osumi group, Kagoshima Prefecture, southern Japan. National Museum of Nature and Science, Tokyo. vii + 264 pp., 704 figs.
- 本村浩之・松浦啓一 (編). 2014. 奄美群島最南端の島 - 与論島の魚類. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島・国立科学博物館, つくば. 648 pp., 1808 figs.
- 本村浩之・佐土哲也・木村清志. 2002. ツバメコノシロ *Polydactylus plebeius* の摂餌行動. 魚類学雑誌, 49: 156-157.
- Motomura, H., Yamashita, M., Itou, M., Haraguchi, Y. and Iwatsuki, Y. 2012. First records of the Two-tone Goatfish, *Upeneus guttatus*, from Japan, and comparisons with *U. japonicus* (Perciformes: Mullidae). Species Diversity, 17 (1): 7-14.

- 本村浩之・吉野哲夫・高村直人. 2004. 日本産フサカサゴ科オニカサゴ属魚類 (Scorpaenidae: *Scorpaenopsis*) の分類学的検討. 魚類学雑誌, 51 (2): 89–115.
- 本永文彦. 1991. 沖縄島における定置網漁業調査. Pp. 94–102. 沖縄県水産試験場(編). 平成元年度沖縄県水産試験場事業報告書. 沖縄県水産試験場, 那覇.
- Moyer, J. T. and Sano, M. 1985. First record of the lizardfish *Synodus jaculum* from Japan. Japanese Journal of Ichthyology, 32 (1): 90–92.
- 村瀬敦直・宮崎佑介・瀬根 宏. 2012. 屋久島産標本に基づくヒラスズキ *Lateolabrax latus* の再記載と河川における生息状況. 魚類学雑誌, 59 (1): 11–20.
- 村田 修. 1998. 海水養殖魚の品種改良に関する研究. 近畿大学水産研究所報告, 6: 1–101.
- Musikasinthorn, P. 2013. *Tylosurus acus melanotus* (Bleeker, 1850), P. 64 in Yoshida, T., Motomura, H., Musikasinthorn, P. and Matsuura, K., eds. Fishes of northern Gulf of Thailand. National Museum of Nature and Science, Tsukuba, Research Institute for Humanity and Nature, Kyoto and the Kagoshima University Museum, Kagoshima.
- Myers, R. F. 1989. Micronesian reef fishes. A practical guide to the identification of the coral reef fishes of the tropical central and Western Pacific. 2nd edition, Coral Graphics, Territory of Guam. vi + 299 pp., 144 pls.
- Nader, M., Indary, S., and Boustany, L. 2012. The puffer fish *Lagocephalus sceleratus* (Gmelin, 1789) in the Eastern Mediterranean. EastMed Technical Documents 10. 39 pp. FAO – EastMed Project, Athens.
- 永井宏史. 2009. 海洋危険生物に由来する蛋白質毒素の性状と機能. 蛋白質 核酸 酵素, 54 (5): 621–627.
- 長崎県総合水産試験場漁業資源部栽培漁業科. 2007. クエ(地方名アラ)の年齢と成長について. 漁連だより, 151: 1–2.
- 長澤和也・上野大輔. 2016. 日本産魚類に日本産魚類に寄生するカクレムシ科(新称) Philichthyidae カイアン類の目録(1924–2016年). 生物圏科学, 55: 71–84.
- 名護海上保安署. 2014. ダツによる死傷事例. 名護海上保安署通信, 9: 1.
- 中坊徹次. 2001. カユウセンニンフグ. P. 278. 中坊徹次・町田吉彦・山岡耕作・西田清徳(編). 以布利 黒潮の魚. 海遊館, 大阪.
- 中坊徹次(編). 2013. 日本産魚類検索 全種の同定 第三版. 東海大学出版会, 秦野. 2428 pp.
- 中坊徹次・平嶋義宏. 2015. 日本産魚類全種の学名 語源と解説. 東海大学出版部, 秦野. xv + 372 pp.
- 中坊徹次・甲斐嘉晃. 2013a. サイウオ科, Pp. 491–492, 1870–1872. 中坊徹次(編). 日本産魚類検索 全種の同定 第三版. 東海大学出版会, 秦野.
- 中坊徹次・甲斐嘉晃. 2013b. オニオコゼ科, Pp. 710–712, 1948. 中坊徹次(編). 日本産魚類検索 全種の同定 第三版. 東海大学出版会, 秦野.
- 中坊徹次・甲斐嘉晃. 2013c. コチ科, Pp. 734–740, 1953–1955. 中坊徹次(編). 日本産魚類検索 全種の同定 第三版. 東海大学出版会, 秦野.
- Nakamura, H. 1941. On the habits of the istiophorid fishes, particularly the spawning of the black marlin, *Makaira mazara*. Zoological Magazine, 53 (1): 17–21.
- Nakamura, H. 1942. On the ecology of the istiophorid fishes of Taiwan waters. Proceedings of the Science Fisheries Association, 9 (1): 45–51.
- Nakamura, I. 1983. Systematics of the billfishes (Xiphiidae and Istiophoridae). Publications of the Seto Marine Biological Laboratory, 28 (5/6): 255–396.
- 中村 泉. 1997a. ゴマサバ. P. 657. 岡村 収・尼岡邦夫(編). 山溪カラー名鑑 日本の海水魚. 山と溪谷社, 東京.
- 中村 泉. 1997b. クロマグロ. P. 660. 岡村 収・尼岡邦夫(編). 山溪カラー名鑑 日本の海水魚. 山と溪谷社, 東京.
- Nakamura, I. 2001. Istiophoridae. Pp. 3759–3764 in Carpenter, K. E. and Niem, V. H., eds. FAO species identification guide for fishery purposes. The living marine resources of the western central Pacific, vol. 6, no. 4. FAO, Rome.
- 中村潤平・小枝圭太・畑 晴陵・本村浩之. 2017. 鹿児島県本土初記録のニセゴイシウツボ. Nature of Kagoshima, 43: 17–21.
- 中津成美. 2017. 近代水産研「クエタマ」養殖成功 クエの4倍速で成長. 毎日新聞. 2017年4月2日.
- 仲谷一宏. 2016. サメー海の王者たち一改訂版. ブックマン社, 東京. 248 pp.
- 並田正和. 1977. 長島水産実験所周辺の魚類相. 鹿児島大学水産学部修士論文, 鹿児島県. 250 pp., 12 pls.
- 日本経済新聞. 2010b. 未利用の魚, すり身加工. マルハニチロなど開発. 日本経済新聞. 2010年5月12日.
- 日本経済新聞. 2010a. オコゼに刺され男性死亡. 日本経済新聞. 2010年8月6日.
- 西田高志・乾 隆帝・鬼倉徳雄・及川 信. 2008. 北部九州岩礁域における磯魚群集と環境構造の関連性. 応用生体工学, 11 (1): 51–62.
- 西松洋一郎. 2017. はりまの海水魚. 姫路市立水族館. 姫路. 58 pp.
- 西村三郎. 1959. 1955年春季能登半島近海におけるキウリエソの産卵ならびに卵・仔魚の生態. 日本海区水産研究所研究年報, 5: 61–75.
- 西日本新聞. 1992. 人食いザメ!? 捕らえられた 瀬戸内のホオジロザメと同種 定置網にかかる 鹿児島・内之浦町沖. 西日本新聞. 1992年5月15日.
- 西日本新聞. 2016. 食の力 だし素材 あごだしブーム 戸惑う地元 平戸ブランド化の戦略も. 西日本新聞. 2016年9月21日.
- Nishishimamoto, S. 1963. Anchovies from the Ryukyu Islands. Bulletin of Arts and Science Division, University of Ryukyus. Mathematics and Natural Sciences, 6: 54–63.
- 野口玉雄. 2004. マリントキシン(魚介毒)によるこれまでは異なる食中毒. 冷凍食品技術研究, 62: 1–10.
- 落合 明・煤田 晋. 1969. 高知県沿岸におけるボラの産卵生態について. 魚類学雑誌, 16 (2): 50–54.
- 小谷健二・今村 央. 2009. 北海道渡島半島沿岸から記録された2種の魚類. メゴチとヒゲセジロハゼ. 北海道大学水産化学研究彙報, 59 (2): 43–46.
- 大江文雄・西本博行・奥村好次・東 好昭. 1981. 瑞浪層群産「カマスサワラ」属魚類化石. 瑞浪市化石博物館研究報告, 8: 25–46, pls. 6–10.
- 小川佳久・片山真基・井上弘之・田平雄二・福島築廣・伊藤 靖. 2012. 貝殻漁礁におけるオニオコゼの蝟集事例. Pp. 19–22. 日本水産工学会(編). 日本水産工学会学術講演論文集. 日本水産工学会
- 荻原豪太. 2007. オグロイワシ. 鹿児島大学総合研究博物館 News letter, 16: 9.
- 荻原豪太・吉田朋弘・本村浩之. 2009. 鹿児島湾から得られたイズビメイエ *Dasyatis izuensis* (エイ目: アカエイ科). Nature of Kagoshima, 35: 63–66.
- 大橋祐太・本村浩之. 2011. 大隅諸島以北の鹿児島県におけるカレイ目魚類相. Nature of Kagoshima, 37: 71–118.
- Oka, S. and Miyamoto, K. 2015. Reproductive biology and growth of bluestripe herring *Herklotsichthys quadrimaculatus* (Rüppell, 1837) in the northernmost waters. Journal of Applied Ichthyology, 31: 709–713.
- 岡 有作. 2011. 特集 駿河湾産トビウオ類稚魚図鑑. 海のはくぶつかん, 41 (2): 4–6.
- 岡田弥一郎・松原喜代松. 1938. 日本産魚類検索. 三省堂, 東京. xi + 584 pp.
- Okada, Yo K. 1966. Sex reversal in *Inegocia mederdervoortii* with special reference to repetition of hermaphroditic state. Proceedings of Japan Academy, 42 (5): 497–502.

引用文献

- 岡村 収. 1997. メクラアナゴ *Dysomma anguillare*. P. 80. 岡村 収・尼岡邦夫(編). 山溪カラー名鑑 日本の海水魚. 山と溪谷社, 東京.
- 岡村 収・尼岡邦夫(編). 1997. 山溪カラー名鑑 日本の海水魚. 山と溪谷社, 東京. 784 pp.
- 奥原 誠. 2004. パシフィックカジキについて. うしお, 303: 1-2.
- 大森純子. 2007. カタボシイワシ. 鹿児島大学総合研究博物館 Newsletter, 16: 8.
- 小山内泉帆. 2017. 口永良部島, ふるさとの味. Pp. 39-41. 木村祐貴・日比野友亮・三木涼平・峯 健・小枝圭太(編). 緑の火山島 口永良部島の魚類. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島.
- 大下誠二. 2009. 九州北西岸におけるカタチイワシの生物特性に関する研究. 日本海ブロック試験研究集録, 44: 51-60.
- Oshimo, S., Shiraiishi, T., Tanaka, H., Yasuda, T., Yoda, M., Ishida, H. and Tomiyasu, S. 2014. Growth and reproductive characters of the roughear scad *Decapterus tabl* in the East China Sea. JARQ, 48: 245-252.
- Oshimo, S., Yoda, M., Itasaka, N., Morinaga, N. and Ichimaru, T. 2006. Age, growth and reproductive characteristics of round scad *Decapterus maruadsi* in the waters off west Kyushu, the East China Sea. Fisheries Science, 72: 855-859.
- 大城直雅・照屋奈津子・古謝あゆ子・玉那覇康二. 2003. 沖縄県における化学物質及び自然毒による食中毒及び苦情事例 平成 14 年度. 沖縄県衛生環境研究所報, 37: 95-97.
- Osterhage, D., Pogonoski, J. J., Appleyard, S. A. and White, W. T. 2016. Integrated taxonomy reveals hidden diversity in northern Australian fishes: A new species of seamothe (genus *Pegasus*). PLoS ONE, 11 (3): e0149415.
- 太田 裕・下條 武・福田将数・松本隆之. 2002. パヤオ周辺でのキハダ, メバチの遊泳行動生理. Pp. 41-51. 沖縄県水産試験場(編). 平成 13 年度沖縄県水産試験場事業報告書. 沖縄県水産試験場, 那覇.
- 太田健吾. 2006. シリーズ: 瀬戸内海のさかなたち第 6 回. オニオコゼ. おさかな瓦版, 26: 1.
- 小澤貴和・角 輝秀・増田育司・松浦修平. 1989. 甌列島産キビナゴの個体群構造. 日本水産学会誌, 55 (6): 985-988.
- Paxton, J. R. and Hoese, D. F. 1985. The Japanese sea bass, *Lateorabrax japonicus* (Pisces, Percichthyidae), an apparent marine introduction in to eastern Australia. Japanese Journal of Ichthyology, 31 (4): 369-372.
- Pots, G. W. 1980. The predatory behavior of *Caranx melampygus* in the channel environment of Aldabra Atoll. Journal of Zoology Society, London, 192: 323-350.
- Randall, J. E. 1985. On the validity of the tetraodontid fish *Arothron manilensis* (Procé). Japanese Journal of Ichthyology, 32 (3): 347-354.
- Randall, J. E. 2004. Revision of the goatfish genus *Parupeneus* (Perciformes: Mullidae), with descriptions of two new species. Indo-Pacific Fishes, 36: 1-64.
- Randall, J. E. 2005. Reef and shore fishes of the South Pacific: New Caledonia to Tahiti and the Pitcairn Islands. xii + 707 pp. University of Hawai'i Press, Honolulu.
- Randall, J. E., Allen, G. R. and Steene, R. C. 1990. Fishes of the Great Barrier Reef and Coral Sea. University of Hawaii Press, Honolulu, Hawaii. 506 pp.
- Randall, J. E. and DiBattista, J. 2012. *Etrumeus makiawa*, a new species of round herring (Clupeidae: Dussumierinae) from the Hawaiian Islands. Pacific Science, 66 (1): 97-110.
- Reardon, M., Márquez, F., Trejo, T. and Clarke, S. C. 2009. *Alopias pelagicus*. In IUCN 2011 ed. IUCN Red List of Threatened Species. Electric Version 2017. www.iucnredlist.org
- Reinboth, R. 1967. Protogynie bei *Chelidoperca hirundinacea* (Cuv. et Val.) (Serranidae). Ein Diskussionsbeitrag zur Stammesgeschichte amphisexueller Fische. Annotationes Zoologicae Japonensis, 40 (4): 181-186.
- Ribot-Carballal, M. C., Galván-Magaña, F. and Quiñónez-Velázquez, C. 2005. Age and growth of the shortfin mako shark, *Isurus oxyrinchus*, from the western coast of Baja California Sur, Mexico. Fisheries Research, 76: 14-21.
- Russell, B. C. 1986. Review of the western Indian Ocean species of *Nemipterus* Swainson 1839, with description of a new species. Senckenbergiana Biologica, 67: 19-35.
- Russell, B. C. 1990. FAO species catalogue. Vol. 12. Nemipterid fishes of the world (thread fin breams, whiptail breams, monocle breams, dwarf monocle breams and coral breams). Family nemipteridae. An annotated and illustrated catalogue of the nemipterid species known to date. FAO Fisheries Synopsis, 12: i-v + 1-149, pls. I-VIII.
- Russell, B. C. 1993. A review of the threadfin breams of the genus *Nemipterus* (Nemipteridae) from Japan and Taiwan, with description of a new species. Japanese Journal of Ichthyology, 39: 295-310.
- Russell, B. C. and Cressey, R. F. 1979. Three new species of Indo-west Pacific lizardfish (Synodontidae). Proceedings of the Biological Society of Washington, 92 (1): 166-175.
- 三郎丸 隆・塚原 博. 1984. 福岡北部沿岸におけるメジナの生活史. 九州大学農学部学藝雑誌, 39 (2): 35-48.
- 坂井恵一. 1991. 日本のイズズミ属魚類は 4 種. 伊豆海洋公園通信, 2 (8): 2-5.
- 坂井恵一. 2004. 日本のイズズミ属魚類. のと海洋ふれあいセンターだより 能登の海中林, 20: 2-5.
- Sakai, K. and Nakabo, T. 2004. Two new species of *Kyphosus* (Kyphosidae) and a taxonomic review of *Kyphosus bigibbus* Lacepède from the Indo-Pacific. Ichthyological Research, 51 (1): 20-32.
- Sakai, K. and Nakabo, T. 2006. Taxonomic reviews of two Indo-Pacific sea chubs, *Kyphosus cinerascens* (Forsskal, 1775) and *Kyphosus sydneyanus* (Günther, 1886). Ichthyological Research, 53 (4): 337-356.
- 阪地英男・久野正博・梶 達也・青野怜史・福田博文. 2010. 太平洋における成長段階別の回遊様式の把握. 水産総合研究センター研究報告, 30: 36-73.
- 榎 純一郎. 2010. 沿岸・近海漁業資源調査—II. P. 74. 鹿児島県水産技術センター(編). 平成 21 年度鹿児島県水産技術センター事業報告書. 鹿児島県水産技術センター, 指宿.
- 坂巻陽平. 2010. 本県初タイワンヒイラギ. 高知新聞. 2010 年 10 月 16 日.
- 櫻井 真. 2007. 美味しい魚の不思議な生態. 鹿児島大学総合研究博物館 News letter, 17: 12.
- 櫻井 真・広瀬 純・四宮明彦. 2003. ハオコゼの求愛・産卵行動. 魚類学雑誌, 50 (2): 165-168.
- 真田康広・藤田正夫・石田 実. 1994. 太平洋南部におけるウルメイワシの耳石日周鱗に基づく年齢と成長. 南西外海の資源・海洋研究, 10: 55.
- 佐藤友康. 2001. エソ科. Pp. 152-153. 中坊徹次・町田吉彦・山岡耕作・西田清徳(編). 以布利 黒潮の魚. 海遊館, 大阪.
- 佐藤友康・町田吉彦・山本藍子. 2007. 浦ノ内湾の潮間帯の砂泥中から得られたミナモトウミヘビの若魚(ウナギ目ウミヘビ科). 四国自然史科学研究, 4: 41-44.

- 澤井悦郎・山田守彦. 2017. 鹿児島県産ヤリマンボウ *Masturus lanceolatus* 若魚の外部形態. *Nature of Kagoshima*, 43: 249–252.
- Sawai, E., Yamanoue, Y., Nyegaard, M. and Sakai, Y. 2017. Redescription of the bump-head sunfish *Mola alexandrini* (Ranzani 1839), senior synonym of *Mola ramsayi* (Giglioli 1883), with designation of a neotype for *Mola mola* (Linnaeus 1758) (Tetraodontiformes: Molidae). *Ichthyological Research*. DOI: 10.1007/s10228-017-0603-6
- 清家康尊. 2017. 完全養殖「スマ」初出荷 愛南. *愛媛新聞*, 2017年5月10日.
- 瀬能 宏. 1988. ボラ *Mugil cephalus*. Pp. 458–461. 川那部浩哉・水野信彦・細谷和海 (編). *山溪カラー名鑑 日本の淡水魚*. 山と溪谷社, 東京.
- Senou, H. 2001. Sphyraenidae. Pp. 3685–3697 in Carpenter, K. E. and Niem, V. H., eds. *FAO species identification guide for fishery purposes. The living marine resources of the western central Pacific*, vol. 6, no. 4. FAO, Rome.
- 瀬能 宏. 2013a. サギフエ科. Pp. 610, 1907–1908. 中坊徹次 (編). *日本産魚類検索 全種の同定*, 第三版. 東海大学出版会, 秦野.
- 瀬能 宏. 2013b. アジ科. Pp. 878–899, 1991–1995. 中坊徹次 (編). *日本産魚類検索 全種の同定*, 第三版. 東海大学出版会, 秦野.
- 瀬能 宏. 2014. オニカマス *Sphyraena barracuda* (Edwards, 1771). P. 577. 本村浩之・松浦啓一 (編). *奄美群島最南端の島 与論島の魚類*. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島・国立科学博物館, つくば.
- 瀬戸山公義. 2000. 第6節 とびうお漁業. Pp. 96–113. 鹿児島県 (編). *鹿児島県水産技術のあゆみ*. 鹿児島県, 鹿児島.
- 洪野拓郎・重田利拓・阿部 寧・藤田 轟・橋本博明・具島健二. 1996. 口永良部島におけるトラギス科・エソ科魚類の食性. *生物生産学*研究, 35 (2): 105–111.
- 重田利拓. 2007. 瀬戸内海の魚類にみられる異変 — 熱帯・段階性魚類の出現と人的被害. *瀬戸内通信*, 6: 7–8.
- 重田利拓・小畑泰弘・星野浩一・岡本裕之・正岡哲治・清水則雄. 2012. 瀬戸内海で採集されたアルビノのクサフグ *Takifugu niphobles* (フグ科). *広島大学総合博物館研究報告*, 4: 13–21.
- 島田和彦. 2013. イサキ科. Pp. 940–945, 2008–2011. 中坊徹次 (編). *日本産魚類検索 全種の同定* 第三版. 東海大学出版会, 秦野.
- 島本信夫・渡辺 淳. 1994. 瀬戸内海東部海域におけるマダイの食性とその季節変化. *日本水産学会誌*, 60 (1): 65–71.
- 霜村胤日人. 2013. 浜名湖で新たに記録された魚たち. *はまな*, 544: 6.
- Shimose, T. and Tachihara, K. 2005. Age, growth and maturation of the blackspot snapper *Lutjanus gulviflammus* around Okinawa Island, Japan. *Fisheries Science*, 71: 48–55.
- 篠原士郎. 1966. クロアジモドキ (*Stromateus niger* Bloch) の分類学的位置について. *琉球大学文理学部紀要理学篇*, 10, 46–49.
- 塩屋照雄・原田 学. 1975. イシダイ・イシガキダイに関する調査. Pp. 37–57. 東京都水産試験場技術管理部 (編). *昭和49年度太平洋中区栽培漁業漁場資源生態調査 (マダイ・イシダイ・イシガキダイ)*. 東京都水産試験場, 東京.
- Shiraishi, T., Tanaka, H., Oshimo, S., Ishida, H. and Morinaga, N. 2010. Age, growth and reproduction of two species of scad, *Decapterus macrosoma* and *D. macarellus* in the waters off southern Kyushu. *JARQ*, 44 (2): 197–206.
- 白石哲郎・由上龍嗣・田中寛繁・依田真里・大下誠二. 2010. 東シナ海におけるアジ科魚類の生物特性に関する最新知見. *西海ブロック漁海況研報*, 18: 33–48.
- 宍道弘敏. 2014. 鹿児島県海域におけるブリ類の魚種別漁獲量. *鹿児島水銀センター研究報告*, 5: 1–6.
- Shpigel, M. and Fishelson, L. 1989. Habitat partitioning between species of the genus *Cephalopholis* (Pisces, Serranidae) across the fringing reef of the Gulf of Aqaba (Red Sea). *Marine Ecology Progress Series*, 58: 17–22.
- Smith, D. G. 1989. Family Congridae. Pp. 460–567 in Böhlke, E. B., ed. *Fishes of the western north Atlantic*, part nine. Volume one. *Memoirs of the Sears Foundation of Marine Research*. Allen Press, Kansas.
- Smith-Vaniz, W. F. 1999. Carangidae jacks and scads (also trevallies, queenfishes, runners, amberjacks, pilotfishes, pampanos, etc.). Pp. 2659–2756 in Carpenter, K. E. and Niem, V. H., eds. *FAO species identification guide for fishery purposes. The living marine resources of the western central Pacific*. Vol. 5. *Bony fishes part 2 (Mugilidae to Carangidae)*. FAO, Rome.
- Smith-Vaniz, W. F. and Jelks, H. L. 2006. Australian trevallies of the genus *Pseudocaranx* (Teleostei: Carangidae), with description of a new species from Western Australia. *Memoirs of Museum Victoria*, 63 (1): 97–106.
- Snyder, J. O. 1912. Japanese shore fishes collected by the United States Bureau of fisheries steamer “Albatross” expedition of 1906. *Proceedings of U. S. National Museum*, 42 (1909): 399–450, pls. 51–61.
- Snyder, J. O. 1904. A catalogue of the shore fishes collected by the steamer “Albatross” about the Hawaiian Islands in 1902. *Bulletin of the U. S. Fish Commission*, 22: 513–538, pls., 1–13.
- Strasburg, D. W. 1964. Further notes on the identification and biology of echeineid fishes. *Pacific Science*, 18: 51–57.
- Sudekum, A. E., Parrish, J. D., Radtke, R. L. and Ralston, S. 1991. Life history and ecology of large jacks in undisturbed, shallow, oceanic communities. *Fisheries Bulletin*, 89: 493–513.
- 末広澄夫. 1960. オキヒイラギの発光細菌に関する研究 I: 発光の持続性について. *九州大学農学部学藝雑誌*, 18 (1): 103–108.
- 末吉摩耶子・幸塚久典・甲斐宗一郎. 2009. 長崎県長崎半島沿岸で捕獲したイシダイとイシガキダイの天然交雑種. *長崎県生物学会誌*, 65: 57–60.
- 水産庁. 2007. 魚介類の名称のガイドラインについて. 水産庁, 東京. 16 pp.
- 水産総合研究センター西海区水産研究所. 2004. 東シナ海・日本海のいわし類の現在. 水産総合研究センター西海区水産研究所, 長崎. 16 pp.
- Suzuki, K. 1962. Anatomical and taxonomical studies on the carangid fishes of Japan. *Report of Faculty of Fisheries, Prefectural University of Mie*, 4 (2): 43–232.
- 鈴木克美. 2003. ハーフのイシガキイシダイ. *海のはくぶつかん*, 33 (3): 4–5.
- 鈴木克美・小林弘治・日置勝三・坂本隆志. 1974. 駿河湾におけるサクラダイ *Sacura margaritacea* の生態. *魚類学雑誌*, 21 (1): 21–33.
- Suzuki, S., Kawashima, T. and Nakabo, T. 2009. Taxonomic review of East Asian *Pleuronichthys* (Pleuronectiformes: Pleuronectidae), with description of a new species. *Ichthyological Research*, 56: 276–291.
- 鈴木寿之・瀬能 宏・花崎勝司. 1995. 日本における分布が確認されたウチウミマダラエソ (新称) について. *伊豆海洋公園通信*, 6 (9): 2–3.

引用文献

- Tabassum, S., Yousof, F., Elahi, N., Rahman, Md. M., and Hossain, Md. Y. 2014. Diets of halfbeak *Hemiramphus lutkei* (Valenciennes, 1847) from Karachi coast, Pakistan. *Journal of Coastal Life Medicine*, 2 (2): 85–88.
- 田畑道広. 2000. 錦江湾のなかもたち 11. サカナウミヒドラ. さくらじまの海, 4 (3): 5.
- 高須賀明典・梨田一也・入路光雄・亘 真吾. 2016. 平成 27 (2015) 年度ウルメイワシ太平洋系群の資源評価. Pp. 731–751. 国立研究開発法人水産総合研究センター研究推進部 (編). 平成 27 年度我が国周辺水域の漁業資源評価 (魚種別系群別資源評価・TAC 種) 第 1 分冊. 国立研究開発法人水産総合研究センター研究推進部, 横浜.
- 高谷智裕・荒川 修・鈴木重則・望岡典隆. 2016. ミニシンプジウム記録 フグ食の安全確保—日本沿岸フグ類の分類と毒性の見直し 2. 交雑フグの毒性. *日本水産学会誌*, 82 (2): 167.
- 竹内啓明・朝井俊亘・内山りゅう・細谷和海. 2011. 近畿大学農学部所蔵の内山りゅう魚類標本コレクション. *近畿大学農学部紀要*, 44: 63–87.
- 田北 徹. 1966. 有明海産サツパの産卵, 卵発生および仔魚について. *長崎大学水産学部研究報告*, 21: 171–179.
- Tan, H.-H. 2009. Observations on the black pomfret, *Parastromateus niger* (Teleostei: Perciformes: Carangidae). *Nature in Singapore*, 2: 167–169.
- 田中秀樹. 1990. キジハタの性成熟と性転換. *養殖研究所研究報告*, 17: 1–15.
- 田中玲子・小澤貴和. 2000. 2000 年 1 月の西太平洋熱帯・亜熱帯域における仔魚の分布. *鹿児島大学水産学部紀要*, 52: 33–42.
- 谷 巖. 1945. 日本産フグの中毒学的研究. 帝國図書, 東京. 103 pp.
- 田代郷国・本村浩之. 2015. 鹿児島県初記録のヒメジ科魚類ミナベヒメジ *Parupeneus biaculeatus* およびホウライヒメジ *Parupeneus ciliatus* との形態学的比較. *Nature of Kagoshima*, 41: 133–137.
- 田代郷国・高山真由美・本村浩之. 2014. サクヤヒメジ *Upeneus itoui* (ヒメジ科) の種子島からの初記録を含む東アジアにおける分布状況と種子島から得られたヒメジ属の未同定個体. *Nature of Kagoshima*, 40: 69–74.
- 立石章治. 2009. 熊本海域のハマトビウオについて. *うしお*, 321: 1–2.
- 立石章治. 2010a. 200 カイリ水域内漁業資源総合調査—II (トビウオ資源動向調査). Pp. 33–40. 鹿児島県水産技術開発センター (編). 平成 21 年度鹿児島県水産技術開発センター事業報告書. 鹿児島県水産技術開発センター, 指宿.
- 立石章治. 2010b. 屋久島の“中トビ”3種の見分け方. *うしお*, 325: 1–2.
- 時村春春. 2007. シリーズ: 東シナ海のさかなたち 第 1 回 キダイ〜昔も今も以西の主役〜. おさかな瓦版, 15: 1.
- 徳留陽一郎. 1976. 底魚あれこれ (2) エソ類 オオメハタ. *うしお*, 189: 4–5.
- 徳留陽一郎. 1979. 漁場開発調査 III. P. 8. 鹿児島県水産試験場 (編). 昭和 53 年度鹿児島県水産試験場事業報告書. 鹿児島県水産試験場, 鹿児島.
- 徳留陽一郎・竹下克一. 1977. 漁場開発調査 IV. P. 9. 鹿児島県水産試験場 (編). 昭和 51 年度鹿児島県水産試験場事業報告書. 鹿児島県水産試験場, 鹿児島.
- 徳留陽一郎・竹下克一. 1978. 漁場開発調査 III. P. 8. 鹿児島県水産試験場 (編). 昭和 52 年度鹿児島県水産試験場事業報告書. 鹿児島県水産試験場, 鹿児島.
- 富岡健太・大前信輔・阿部文彦・山岡耕作. 2011. 汀線付近転石域に出現するマダイ稚魚のなわばりと摂食生態. *黒潮圏科学*, 4 (2): 159–167.
- 富山晋一. 2013. お正月特別展示 海にすむ「巳」. 海のはくぶつかん, 43 (1): 4–5.
- Trewavas, E. 1977. The sciaenid fishes (croakers or drums) of the Indo-West-Pacific. *Transactions of the Zoological Society of London*, 33 (4): 253–541.
- Trewavas, E. 1979. *Sciaena nibe* Jordan and Thompson, 1911 (Pisces). Proposed conservation of the specific name *nibe* by use of the plenary powers. *Bulletin of Zoological Nomenclature*, 36 (3): 155–157.
- 辻 俊宏・坂井恵一・木本昭紀・奥野充一. 2010. 能登半島周辺海域で新たに確認された魚類. 石川県水産総合センター研究報告, 5: 35–39.
- 塚原 博・塩川 司. 1957. 天草におけるトビウオ類の研究: 第 2 報バシヨウトビウオ *Parexocoetus mento* (Cuvier et Valenciennes) の生態・生活史. 九州大学農学部学芸雑誌, 16 (2): 275–286.
- 津野健太郎・柳川晋一. 2010a. 宿毛湾産のキビナゴについて その 1. しまきり, 1: 1–2.
- 津野健太郎・柳川晋一. 2010b. 宿毛湾産のキビナゴについて その 2. しまきり, 1: 3–4.
- 内田和良・濱野 明・武田靖明・巽 重夫. 1992. 日本海南海域におけるキュウリエソの分布と日周鉛直移動. *The Journal of Shimonoseki University of Fisheries*, 40 (4): 163–172.
- 打越聡子. 2008. なぎさの小さなサカナ便り 12 性転換する「高級魚」・マゴチ. なぎさ通信, 27: 2.
- Ueda, A. Suzuki, M., Homma, T., Nagai, H., Nagashima, Y. and Shiomi, K. 2006. Purification, properties and cDNA cloning of neoverrucotoxin (neoVTX), a hemolytic lethal factor from the stonefish *Synanceia verrucosa* venom. *Biochim Biophys Acta*, 1760 (11): 1713–1722.
- 上田幸男. 2015. 好まざるクロサバフグの紀伊水道への来襲. 徳島水研だより, 96: 8–10.
- 上田幸男・守岡佐保. 2007. 南方系魚類リュウキュウヨロイアジとタイワンアキノコイワシの来遊. 徳島水研だより, 60: 1–3.
- 上城拓也・小枝圭太・本村浩之. 2016. 鹿児島県初記録のニベ科魚類クログチ. *Nature of Kagoshima*, 42: 265–268.
- Uematsu, K., Otake, T., Kurokura, H., Tsukamoto, K., Oya, M. and Go, A. 1990. Anguilliformes leptocephali from the Tosa Bay and the waters off Shikoku Island. *Journal of the Faculty of Applied Biological Science, Hiroshima University*, 29 (1): 11–18.
- 上野幸徳・山口光明. 1998. 海洋深層水によるメダイの飼育について. 高知県海洋深層水研究所報, 3: 11–17.
- Uiblein, F., Hoang, T. A. and Gledhill, D. 2017. Redescription and new records of Jansen's goatfish, *Parupeneus janseni* (Mullidae), from the Western Pacific and Eastern Indian Ocean. *Zootaxa*, 4344 (3): 541–559.
- von Westernhagen, H. 1974. Observations on the natural spawning of *Alectis indicus* (Rüppell) and *Caranx ignobilis* (Forsk.) (Carangidae). *Journal of Fish Biology*, 6: 513–516.
- Walters, V. and Fiersteine, H. L. 1964. Measurements of swimming speeds of yellowfin tuna and wahoo. *Nature*, 202: 208–209.
- Whitehead, P. J. P. 1985. FAO species catalogue. Vol. 7. Clupeoid fishes of the world (suborder Clupeoidei). An annotated and illustrated catalogue of the herrings, sardines, pilchards, sprats, anchovies and wolf-herrings. Part 1 – Chirocentridae, Clupeidae and Pristigasteridae. FAO Fisheries Synopsis, 7 (pt. 1): 1–303.
- Whitehead, P. J. P., Nelson, G. J. and Wongratana, T. 1988. FAO species catalogue Vol. 7. Clupeoid fishes of the world (Suborder Clupeoidei). An annotated and illustrated catalogue of the herrings, sardines, pilchards, sprats, shads, anchovies and wolf-herrings. Part 2 Engraulidae. FAO Fisheries Synopsis, No. 125, 7 (pt. 2): i–viii + 305–579.

- Whitfield, A. K. and Blaber, S. J. M. 1978. Scale-eating habits of the marine teleost *Terapon jarbua* (Forskål). *Journal of Fish Biology*, 12 (1): 61–70.
- Wibowo, K., Toda, M. and Motomura, H. 2017. Validity of *Abudefduf caudobimaculatus* Okada and Ikeda 1939 and synonymies of *Abudefduf vaigiensis* (Quoy and Gaimard 1825) (Perciformes: Pomacentridae). *Ichthyological Research*. DOI: 10.1007/s10228-017-0594-3
- Williams, V. R. and Clarke, T. A. 1983. Reproduction, growth, and other aspects of the biology of the gold spot herring, *Herklotsichthys quadrimaculatus* (Clupeidae), a recent introduction to Hawaii. *Fishery Bulletin*, 81 (3): 587–597.
- Wongratana, T., Munroe, T. A. and Nizinski, M. S. 1999. Engraulidae, anchovies. Pp. 1698–1753, in Carpenter, K. E. and Niem, V. H., eds. *FAO species identification guide for fishery purposes. The living marine resources of the western central Pacific. Vol. 3. Batoid fishes, chimaeras and bony fishes part 1 (Elopidae to Linophrynidae)*. FAO, Rome.
- 山田梅芳. 1986. セトダイ. Pp. 224–225. 岡村 収 (編). 東シナ海・黄海のさかな. 水産庁晴海区水産研究所, 長崎.
- 山田梅芳. 1997a. マエソ *Saurida* sp. P. 111. 岡村 収・尼岡邦夫 (編). *山溪カラー名鑑 日本の海水魚*. 山と溪谷社, 東京.
- 山田梅芳. 1997b. ワニエソ *Saurida wanieso*. P. 115. 岡村 収・尼岡邦夫 (編). *山溪カラー名鑑 日本の海水魚*. 山と溪谷社, 東京.
- 山田和彦・工藤孝浩. 2011. 三崎魚市場に水揚げされた魚類—XVI. 神奈川自然誌資料, 32: 123–126.
- 山田秀秋・佐藤啓一・長洞幸夫・熊谷厚志・山下 洋. 1998. 東北太平洋沿岸域におけるヒラメの摂餌生態. *日本水産学会誌*, 64 (2): 249–258.
- 山田梅芳・高柳 進. 1997. カタバシイワシ *Sardinella lemuru* Bleeker. 西海区水産研究所ニュース, 88: 1.
- 山田梅芳・時村宗治・堀川博史・中坊徹次. 2007. 東シナ海・黄海の魚類誌. 東海大学出版会, 秦野. 1262 pp.
- 山田梅芳・柳下直己. 2013a. エソ科. Pp. 412–420, 1846–1847. 中坊徹次 (編). *日本産魚類検索 全種の同定, 第三版*. 東海大学出版会, 秦野.
- 山田梅芳・柳下直己. 2013b. フグ科. Pp. 1728–1742, 2239–2241. 中坊徹次 (編). *日本産魚類検索 全種の同定, 第三版*. 東海大学出版会, 秦野.
- Yamakawa, T. 1979. Studies of the fish fauna around the Nansei Islands, Japan. 1. Check list of fishes collected by Toshiji Kamohara and Takeshi Yamakawa from 1954 to 1971. *Reports of the Usa Marine Biology Institute, Supplement*, 1: 1–47.
- Yamaoka, K., Han, H.-S. and Taniguchi, N. 1992. Genetic dimorphism in *Pseudocaranx dentex* from Tosa Bay, Japan. *Nippon Suisan Gakkaishi*, 58 (1): 39–44.
- Yamashita, M., Golani, D. and Motomura, H. 2011. A new species of *Upeneus* (Perciformes: Mullidae) from southern Japan. *Zootaxa*, 3107: 47–58.
- 山下真弘・吉田朋弘・本村浩之. 2012. 鹿児島県産軟骨魚類標本目録. *Nature of Kagoshima*, 38: 119–138.
- 山内健生. 2014. ウオノエは「魚の餌」? . ひとはく通信, 87: 2.
- 山内健生. 2016. 日本産魚類に寄生するウオノエ科等脚類. *Cancer*, 25: 113–119.
- 安田十也・依田真里. 2016. 平成 27 (2015) 年度ムロアジ類 (東シナ海) の資源評価. Pp. 1184–1199. 国立研究開発法人水産総合研究センター研究推進部 (編). 平成 27 年度我が国周辺水域の漁業資源評価 (魚種別系群別資源評価・TAC 種) 第 1 分冊. 国立研究開発法人水産総合研究センター研究推進部, 横浜.
- 谷津明彦. 1997. シマガツオ科 Bramidae. P. 328. 岡村 収・尼岡邦夫 (編). *山溪カラー名鑑 日本の海水魚*. 山と溪谷社, 東京.
- 横川浩治. 2002. 東アジアのスズキ属. Pp. 114–126. 田中克・木下 泉 (編). *スズキと生物多様性*. 恒星社厚生館, 東京.
- Yokogawa, K., Endo, H. and Sakaji, H. 2008b. *Cynoglossus ochiaii*, a new tongue sole from Japan (Pleuronectiformes: Cynoglossidae). *Bulletin of the National Museum of Natural Science, Series A, Zoology (Supplement)*, 2: 115–127.
- Yokogawa, K., Sakaji, H., Endo, H. and Yamaguchi, A. 2008a. Genetic divergence between two forms of a tongue sole *Cynoglossus interruptus*. *Ichthyological Research*, 55 (1): 78–81.
- Yokogawa, K., Ogihara, G. and Watanabe, K. 2014. Identity of the lectotype of the East Asian flatfish *Pleuronichthys cornutus* (Temminck and Schlegel 1846) and reinstatement of *Pleuronichthys lighti* Wu 1929. *Ichthyological Research*, 61: 385–392.
- 横川浩治・浦山公治. 2000. 瀬戸内海から得られたナシフグとコモンフグの天然雑種. *魚類学雑誌*, 47 (1): 67–73.
- 読売新聞. 2010. イシガイシダイ知ってる? . 読売新聞. 2010 年 11 月 17 日.
- 米田道夫・依田真理. 2006. キダイの生殖生態. *水産総合研究センター研究報告*, 4: 125–129.
- 米田泰亮. 2013. 浜からのたより 共同生活者は殺し屋. 姫路市立水族館だより 山のうえの魚たち, 60: 8.
- 吉田俊一・林 凱夫・辻野耕實. 1978. 大阪湾におけるコノシロの漁業生物学的研究. *大阪水試研究*, 5: 85–98.
- 吉田俊一・坪田憲夫・辻野實. 1997. 大阪湾産シログチの漁業生物学的研究. *大阪府立水産試験場研究報告*, 10: 51–58.
- 吉田朋弘・山田守彦・前川隆則・本村浩之. 2016. 標本に基づく鹿児島県初記録のイナズマヒカリイシモチ *Siphamia argentea* (スズキ目: テンジクダイ科). *Nature of Kagoshima*, 42: 169–172.
- 吉田朋弘・本村浩之. 2015. 鹿児島県から得られた日本初記録のテンジクダイ科魚類コゴウテンジクダイ (新称) *Ostorhinchus fleurieu*. *タクサ*, 39: 17–24.
- 吉田朋弘・本村浩之. 2016. 鹿児島県におけるマダラテンジクダイ *Apogonichthys umbratilis* の分布状況. *Nature of Kagoshima*, 42: 163–167.
- 吉田朋弘・高山真由美・本村浩之. 2017. トカラ列島中之島から得られた琉球列島初記録のハタ科サクラダイ. *Nature of Kagoshima*, 43: 111–116.
- 吉野雄輔. 2008. *山溪ハンディ図鑑 13 図鑑日本の海水魚*. 山と溪谷社, 東京. 543 pp.
- Yoshino, T. and Kishimoto, H. 2008. *Plotosus japonicus*, a new eel tail catfish (Siluriformes: Plotosidae) from Japan. *Bulletin of the National Museum of Nature and Science (Series A) Supplement*, 2: 1–11.
- 由木雄一. 1982. 日本海南西海域におけるキュウリエソの産卵と成熟. *日本水産学会誌*, 48 (6): 749–753.
- 財団法人鹿児島市水族館公社. 2008. 鹿児島水族館が確認した一鹿児島島の定置網の魚たち. 260 pp. 財団法人鹿児島市水族館公社, 鹿児島.
- Zama, A. 1976. A sea chub, *Kyphosus biggibus*, found in the southern waters of Japan. *Japanese Journal of Ichthyology*, 23 (2): 100–104.

標準和名索引

ア

アイゴ	407
アオザメ	18
アオチビキ	272
アオハタ	191
アオブダイ	391
アオヤガラ	120
アカアジ	242
アカエイ	39
アカエソ	93
アカカマス	421
アカシユモクザメ	33
アカネキントキ	199
アカネヒメジ	332
アカハタ	192
アカヒメジ	324
アカマツカサ	110
アカメ	182
アカヤガラ	121
アザハタ	187
アサバホラアナゴ	58
アジアカシヨウダイ	300
アブオコゼ	164
アミアイゴ	408
アミウツボ	54
アミメウツボ	55
アミメウマヅラハギ	462
アミメハギ	464
アヤトビウオ	135
アヤメエビス	113
アヤメカサゴ	144
アラメガレイ	441
アリアケアカエイ	42
アリアケトビウオ	136
アンコウ	102

イ

イイジマダルマガレイ	446
イケカツオ	251
イサキ	296
イシガキダイ	370
イシガキフグ	491
イシダイ	369
イスズミ	373
イズヒメエイ	40
イソカサゴ	156
イソギンポ	399
イソマグロ	429
イタチウオ	101
イタチザメ	32
イッセンタカサゴ	288

イトアナゴ	71
イトオコゼ	161
イトタマガシラ	307
イトヒキアジ	232
イトフエフキ	317
イトマキエイ	49
イトヨリダイ	305
イナズマヒカリイシモチ	219
イネゴチ	172
イバラタツ	123
イブリカマス	419
イボダイ	379
イラ	387
イワハダカ	94
インドアイノコイワシ	84
インドアカタチ	359
インドオキアジ	261

ウ

ウスバハギ	458
ウチウミマダラエソ	90
ウチワザメ	37
ウツカリカサゴ	146
ウツボ	53
ウナギギンポ	401
ウマヅラアジ	233
ウマヅラハギ	466
ウミスズメ	468
ウミヒゴイ	325
ウメイロ	282
ウルメイワシ	72

エ

エイラブカ	23
エリアカシヨウダイ	301

オ

オアカムロ	245
オオウミウマ	123
オオカマス	421
オオグチイシチビキ	271
オオシタビラメ	453
オオシロアナゴ	64
オオスジイシモチ	211
オオスジハタ	193
オオセ	14
オオニベ	320
オオメカマス	418
オオメナツトビ	137
オオモンハタ	190
オキアジ	260

オキエソ	93
オキゲンコ	454
オキゴンベ	356
オキザヨリ	141
オキセミホウボウ	180
オキナヒメジ	331
オキヒイラギ	262
オグロイワシ	76
オグロエソ	92
オジサン	331
オシヤレコシヨウダイ	299
オナガウツボ	56
オニアジ	247
オニオコゼ	159
オニカナガシラ	169
オニカマス	418
オニゴチ	174
オニダルマオコゼ	162
オニヒラアジ	239
オヤビツチャ	360

カ

カイユウセンニンフグ	483
カイワリ	246
カエルアンコウ	104
カゴカキダイ	374
カゴシマオコゼ	165
カサゴ	145
カスザメ	36
カスミアジ	239
カスミサクラダイ	197
カスミフグ	474
カスリハタ	196
カタクチイワシ	83
カタグロアゴナシ	385
カタボシイワシ	75
カツオ	429
カナガシラ	170
カナド	167
カナフグ	481
カマスサワラ	426
カマス属の一種	422
カマストガリザメ	27
カミナリベラ	388
カラスエイ	43
カワハギ	465
カンパチ	253

キ

キアンコウ	103
キジハタ	189

キスジヒメジ	335
キダイ	310
キタマクラ	479
キチヌ	308
キハダ	434
キビナゴ	79
キビレミシマ	397
キュウセンフエダイ	279
キュウリエソ	87
キリンミノ	150
ギンアナゴ	67
ギンイソイワシ	126
ギンカガミ	230
ギンガメアジ	240
キンセンフエダイ	276
キンチャクダイ	352
キントキダイ	201
キンメモドキ	339
ギンユゴイ	368

ク

クエ	194
クサフグ	484
クサヤモロ	242
クマササハナムロ	287
クラカケトラギス	394
クラゲウオ	380
グルクマ	430
クルマダイ	203
クロアジモドキ	249
クロアナゴ	66
クロイシモチ	205
クロウシノシタ	455
クログチ	320
クロコショウダイ	300
クロコバン	225
クロサギ	290
クロサバフグ	480
クロダイ	309
クロヒラアジ	236
クロヘリメジロザメ	25
クロホシイシモチ	216
クロボシヒラアジ	234
クロホシフエダイ	280
クロマグロ	435
クロメジナ	376

ケ

ケショウフグ	476
ゲンロクダイ	351

コ

コイチ	321
コウベダルマガレイ	443
コウライトラギス	394
コクチフサカサゴ	155
コシナガ	436
コショウダイ	298
コスジイシモチ	212
ゴテンアナゴ	65
コトヒキ	365
コノシロ	74
コバンアジ	256
コバンザメ	223
コバンヒイラギ	264
コバンヒメジ	330
ゴマサバ	431
ゴマフエダイ	273
ゴマモンガラ	456
コモンフグ	485
コロダイ	293
コンゴウテンジクダイ	213
コンゴウフグ	467
ゴンズイ	86

サ

サイウオ属の一種	100
サイウオ属の一種	100
サギフエ	122
サクヤヒメジ	333
サクラアジ	245
サクラダイ	197
サクラテンジクダイ	207
ササウシノシタ	450
サザナミダイ	315
サザナミフグ	474
サザナミヤッコ	354
ササムロ	283
サツパ	77
サツマカサゴ	156
サヨリ	130
サワラ	433
サンマ	142

シ

シイラ	228
シッポウフグ	490
シビレエイ	38
シマアジ	250
シマイサキ	364
シマウシノシタ	452
シマウミスズメ	469

シマセトダイ	294
シマハナヒラウオ	382
シマヒメヤマネカミ	149
シマフグ	489
シャチブリ属の一種	88
シャムイトヨリ	304
ショウサイフグ	488
シラコダイ	346
シロアマダイ	221
シロエイ	41
シロカジキ	416
シロガネアイノコイワシ	80
シロギス	323
シログチ	322
シロサバフグ	482
シロザメ	24
シロシュモクザメ	34
ジンベエザメ	15

ス

スカシテンジクダイ	218
スギ	227
ズグエイ	45
スジオテンジクダイ	214
スジコバン	224
スジスズメダイ	363
スジハナヒラウオ	381
スジブダイ	392
スジミゾイサキ	303
スジモヨウフグ	475
スズキ	183
スズハモ	68
スダレヤライイシモチ	208
スナエソ	92
スマ	428
スミツキアヒキテンジクダイ	220
スミツキザメ	31

セ

セトウシノシタ	451
セトダイ	294
セトミノカサゴ	151
セミホウボウ	181
セレベスゴチ	179
センニンフグ	481
センネンダイ	281

ソ

ソウシハギ	460
ソコホウボウ	171
ソトイワシ	51

標準和名索引

タ

ダイナンアナゴ	66
ダイナンウミヘビ	62
タイワンアイノコイワシ	82
タイワンカマス	420
タイワンガンゾウビラメ	439
タイワンザメ	22
タイワンヒイラギ	263
タカクラタツ	124
タカサゴ	285
タカサゴヒメジ	327
タカノハダイ	358
タカベ	367
タケウツボ	57
タチウオ	424
ダツ	140
タテジマキンチャクダイ	353
タマガシラ	306
タマガンゾウビラメ	440
ダルマオコゼ	158
ダルマガレイ	444

チ

チゴダラ	98
チダイ	311
チャイロマルハタ	192
チョウチョウウオ	344
チョウハン	345

ツ

ツキチョウチョウウオ	348
ツクシトビウオ	132
ツノウシノシタ	448
ツノダシ	409
ツバクロエイ	46
ツバメウオ	405
ツバメコノシロ	383
ツماغロイシモチ	210
ツماغロハタンポ	341
ツマリツノザメ	35
ツマリトビウオ	138
ツムブリ	246

テ

テッポウイシモチ	215
テリエビス	112
テングダイ	355
テングハギ	414
テングハギ属の一種	414
テンジクアカグツ	108
テンジクアジ	234

テンジクイサキ	371
テンジクダイ	209
テンジクタチ	425
テンジクダツ	140

ト

トウゴロイワシ	127
トゲカナガシラ	168
トダヅカ	29
トビウオ	131
トビエイ	50
トビササウシノシタ	449
トビハタ	198
トヤマサイウオ	99
トラギス	393
トラフグ	487
トラフザメ	16

ナ

ナガコバン	226
ナガサキトラザメ	21
ナガニザ	412
ナガユメタチモドキ	423
ナガレメイタガレイ	447
ナミノハナ	128
ナミマツカサ	111
ナルトビエイ	48
ナンヨウカイワリ	238
ナンヨウサヨリ	129

ニ

ニザダイ	415
ニジギンポ	400
ニセカンランハギ	410
ニセクロホシフエダイ	275
ニセゴイシウツボ	52
ニセタカサゴ	286
ニタリ	20

ヌ

ヌタウナギ	11
-------	----

ネ

ネコザメ	12
ネズミギス	85
ネズミゴチ	402
ネツタイヒイラギ	266
ネンブツダイ	217

ノ

ノコギリカサゴ	148
ノイスズミ	371

ハ

ハオコゼ	163
ハガツオ	430
ハクセイハギ	461
ハコフグ	470
ハシキンメ	115
ハシナガアナゴ	70
バショウカジキ	417
バショウトビウオ	138
ハタタテダイ	349
ハチ	143
ハチビキ	270
ハナアナゴ	64
ハナオコゼ	105
ハナキンチャクフグ	478
ハナザメ	26
ハナビラウオ	382
ハナミノカサゴ	153
ハマダツ	140
ハマトビウオ	134
ハマフエフキ	319
ハマフグ	472
ハモ	69
ハリセンボン	493
ハリダシエビス	114

ヒ

ヒイラギ	265
ヒガンフグ	486
ヒゲダイ	295
ヒゲハギ	463
ヒシコバン	225
ヒシヨロイアジ	235
ヒフキヨウジ	124
ヒブダイ	390
ヒメアカグツ	107
ヒメクサアジ	95
ヒメコダイ	188
ヒメコトヒキ	366
ヒメジ	334
ヒメスミクイウオ	185
ヒメソコカナガシラ	167
ヒメタカサゴ	284
ヒメヒイラギ	262
ヒメヤマノカミ	148
ヒュウガカサゴ	157
ヒラスズキ	183

ヒラソウダ	427
ヒラニザ	411
ヒラマサ	252
ヒラメ	437
ヒレナガカンパチ	255

フ

フウライチョウチョウウオ	347
フエダイ	281
フエフキダイ	318
ブダイ	389
ブチススキベラ	386
ブリ	254
ブリソデウオ	96
ブリモドキ	248

へ

へダイ	313
へらヤガラ	119
ベンガルフエダイ	274

ホ

ホウセキキントキ	200
ホウボウ	166
ホウライヒメジ	326
ホコサキ	28
ホシササノハベラ	388
ホシザメ	24
ホシザヨリ	129
ホシダルマガレイ	442
ホシフグ	473
ホソイトヒキサギ	291
ホソウケグチヒイラギ	267
ホソトビウオ	133
ホタテウミヘビ	60
ホタルジャコ	184
ホホジロザメ	17
ホムラトラギス	393
ボラ	125

マ

マアジ	258
マイワシ	78
マエソ	89
マゴチ	175
マサバ	432
マダイ	312
マダラエイ	44
マダラエソ	89
マダラテンジクダイ	206
マダラトビエイ	47

マチダウミヘビ	61
マツカサウオ	116
マツダイ	289
マツバゴチ	177
マツバスズメダイ	361
マトイシモチ	208
マトウダイ	117
マハタ	195
マルアジ	244
マルコバン	257
マルソウダ	427
マルバラシマガツオ	268
マルヒラアジ	236
マンボウ	496

ミ

ミエハタンポ	342
ミギマキ	357
ミシマオコゼ	398
ミズン	73
ミツボシクロスズメダイ	362
ミナベヒメジ	325
ミナミイケカツオ	251
ミナミイズミ	372
ミナミギンガメアジ	241
ミナミキントキ	202
ミナミハタンポ	343
ミナミヒメジ	338
ミナミホタテウミヘビ	63
ミノカサゴ	152
ミノカサゴ属の一種	154
ミヤコテングハギ	413

ム

ムスジコショウダイ	302
ムツ	222
ムレハタタテダイ	350
ムロアジ	244

メ

メアジ	252
メイタイシガキフグ	492
メイチダイ	316
メガネウオ	396
メガネハギ	457
メガレイ	438
メゴチ	178
メジナ	377
メジロザメ	30
メダイ	378
メバル属の一種	147

モ

モヨウタツウミヘビ	59
モヨウフグ	477
モロ	243

ヤ

ヤイトハタ	194
ヤクシマイワシ	126
ヤジブカ	30
ヤセオコゼ	160
ヤブサメカサゴ	150
ヤマトイトヒキサギ	292
ヤマトカマス	419
ヤミハタ	186
ヤリガレイ	445
ヤリテング	118
ヤリヌメリ	403
ヤリマンボウ	494

ユ

ユカタハタ	186
ユカタハゼ	404
ユキブリソデウオ	97

ヨ

ヨコスジイシモチ	204
ヨコスジフエダイ	277
ヨコヒメジ	336
ヨメゴチ	402
ヨメヒメジ	337

リ

リュウキュウハタンポ	340
リュウキュウヨロイアジ	237
リュウグウノヒメ	268

ロ

ロウニンアジ	238
ロクセンフエダイ	278
ロケットヒメジ	328

ワ

ワニエソ	91
ワニギス	395
ワニゴチ	173

学名索引

- A**
- Ablennes hians* 140
Abudefduf vaigiensis 360
Acanthocephala indica 359
Acanthocybium solandri 426
Acanthopagrus latus 308
Acanthopagrus schlegelii 309
Acanthurus dussumieri 410
Acanthurus mata 411
Acanthurus nigrofuscus 412
Acropoma japonicum 184
Aesopia cornuta 448
Aetobatus narinari 47
Aetobatus narutobiei 48
Albula koreana 51
Alectis ciliaris 232
Alectis indica 233
Alepes djedaba 234
Alopias pelagicus 20
Aluterus monoceros 458
Aluterus scriptus 460
Anampses caeruleopunctatus 386
Antennarius striatus 104
Aphareus rutilans 271
Apistus carinatus 143
Apogonichthyoides cathetogramma 204
Apogonichthyoides niger 205
Apogonichthyoides umbratilis 206
Aprion virescens 272
Argyrosomus japonicus 320
Ariosoma anago 64
Ariosoma majus 64
Ariosoma meeki 65
Arothron firmamentum 473
Arothron hispidus 474
Arothron immaculatus 474
Arothron manilensis 475
Arothron mappa 476
Arothron stellatus 477
Aseraggodes kobensis 449
Assurger anzac 423
Ateleopus sp. 88
Atherinomorus lacunosus 126
Atrobucca nibe 320
Aulostomus chinensis 119
Aulotrachichthys prosthemi 114
Auxis rochei rochei 427
Auxis thazard 427
- B**
- Balistoides viridescens* 456
Benthoosema pterotum 94
Bothus myriaster 442
Brachyterois serrulata 148
Brachysomophis cirrocheilos 59
Brama orcin 268
Branchiostegus albus 221
Bregmaceros nactabanus 99
Bregmaceros sp. 1 100
Bregmaceros sp. 2 100
Brotula multibarbata 101
- C**
- Caesio caerulea* 283
Calliurichthys japonicus 402
Calotomus japonicus 389
Cantherhines dumerilii 461
Cantherhines pardalis 462
Canthigaster axiologa 478
Canthigaster rivulata 479
Carangichthys oblongus 234
Carangoides chrysophrys 235
Carangoides coeruleopinnatus 236
Carangoides ferdau 236
Carangoides hedlandensis 237
Carangoides orthogrammus 238
Caranx ignobilis 238
Caranx melampygus 239
Caranx papuensis 239
Caranx sexfasciatus 240
Caranx tille 241
Carcharhinus brachyurus 25
Carcharhinus brevipinna 26
Carcharhinus limbatus 27
Carcharhinus macloti 28
Carcharhinus obscurus 29
Carcharhinus plumbeus 30
Carcharhinus tjujot 31
Carcharodon carcharias 17
Cephalopholis boenak 186
Cephalopholis miniata 186
Cephalopholis sonnerati 187
Cercamia eremia 207
Chaetodermis penicilligera 463
Chaetodon auripes 344
Chaetodon lunula 345
Chaetodon nippon 346
Chaetodon vagabundus 347
Chaetodon wiebeli 348
Chaetodontoplus septentrionalis 352
Champsodon snyderi 395
Chelidodipterus intermedius 208
Chelidonichthys spinosus 166
Chelidoperca hirundinacea 188
Chilomycterus reticulatus 491
Choerodon azurio 387
Chromis fumea 361
Cirrhichthys aureus 356
Cociella crocodilus 172
Cololabis saira 142
Conger erebennus 66
Conger jordani 66
Coryphaena hippurus 228
Crossorhombus kobensis 443
Cyclichthys orbicularis 492
Cynoglossus bilineatus 453
Cynoglossus ochiaii 454
Cypselurus agoo 131
Cypselurus doederleini 132
Cypselurus hiraii 133
Cypselurus pinnatibarbus 134
Cypselurus poecilopterus 135
Cypselurus starksi 136
Cypselurus unicolor 137
- D**
- Dactyloptena gilberti* 180
Dactyloptena orientalis 181
Dascyllus trimaculatus 362
Decapterus akaadsi 242
Decapterus macarellus 242
Decapterus macrosoma 243
Decapterus maruadsi 244
Decapterus muroadsi 244
Decapterus smithvanizi 245
Decapterus tabl 245
Dendrochirus bellus 148
Dendrochirus brachypterus 149
Dendrochirus zebra 150
Dentex hypselosomus 310
Desmodema polystictum 96
Deveximentum indicum 267
Diagramma pictum pictum 293
Diodon holocanthus 493
Dipterygonotus balteatus 284
Dysomma anguillare 58
- E**
- Echeneis naucrates* 223
Elagatis bipinnulata 246
Encrasicholina heteroloba 80
Encrasicholina punctifer 82
Engraulis japonica 83
Engyprosopon grandisquama 444
Epinephelus akaara 189
Epinephelus areolatus 190
Epinephelus awoara 191
Epinephelus coioides 192
Epinephelus fasciatus 192
Epinephelus latifasciatus 193
Epinephelus malabaricus 194
Epinephelus moara 194

<i>Epinephelus septemfasciatus</i>	195
<i>Epinephelus tukula</i>	196
<i>Eptatretus burgeri</i>	11
<i>Equulites popei</i>	262
<i>Equulites rivulatus</i>	262
<i>Erispex pottii</i>	164
<i>Erosa erosa</i>	158
<i>Erythrocles schlegelii</i>	270
<i>Etrumeus micropus</i>	72
<i>Eubleekeria splendens</i>	263
<i>Euthynnus affinis</i>	428
<i>Evistias acutirostris</i>	355
<i>Evynnis tumifrons</i>	311

F

<i>Fistularia commersonii</i>	120
<i>Fistularia petimba</i>	121

G

<i>Galeocerdo cuvier</i>	32
<i>Gazza minuta</i>	264
<i>Gephyroberyx japonicus</i>	115
<i>Gerres equulus</i>	290
<i>Gerres macracanthus</i>	291
<i>Gerres microphthalmus</i>	292
<i>Girella leonina</i>	376
<i>Girella punctata</i>	377
<i>Gnathophis heterognathos</i>	67
<i>Goniistius zebra</i>	357
<i>Goniistius zonatus</i>	358
<i>Gonorynchus abbreviatus</i>	85
<i>Gymnocranius grandoculis</i>	315
<i>Gymnocranius griseus</i>	316
<i>Gymnosarda unicolor</i>	429
<i>Gymnothorax isingteena</i>	52
<i>Gymnothorax kidako</i>	53
<i>Gymnothorax minor</i>	54
<i>Gymnothorax pseudothyrsoides</i>	55
<i>Gymnura japonica</i>	46

H

<i>Halaelurus buergeri</i>	21
<i>Halietaea fumosa</i>	107
<i>Halietaea indica</i>	108
<i>Hapalogenys analis</i>	294
<i>Hapalogenys kishinouyei</i>	295
<i>Hapalogenys sennin</i>	295
<i>Hazeus otakii</i>	404
<i>Hemiramphus far</i>	129
<i>Hemiramphus lutkei</i>	129
<i>Hemitriakis japonica</i>	23
<i>Hemitygon akajei</i>	39
<i>Hemitygon izuensis</i>	40
<i>Hemitygon laevigata</i>	41

<i>Hemitygon</i> sp.	42
<i>Heniochus acuminatus</i>	349
<i>Heniochus diphreutes</i>	350
<i>Herklotsichthys quadrimaculatus</i>	73
<i>Heterodontus japonicus</i>	12
<i>Heteromycteris japonica</i>	450
<i>Hippocampus histrix</i>	123
<i>Hippocampus kelloggi</i>	123
<i>Hippocampus trimaculatus</i>	124
<i>Histrio histrio</i>	105
<i>Hyperoglyphe japonica</i>	378
<i>Hypoatherina tsurugae</i>	126
<i>Hypoatherina valenciennei</i>	127
<i>Hyporhamphus sajori</i>	130

I

<i>Inegocia ochiaii</i>	173
<i>Inimicus japonicus</i>	159
<i>Iso flosmaris</i>	128
<i>Istiompax indica</i>	416
<i>Istiophorus platypterus</i>	417
<i>Isurus oxyrinchus</i>	18

J

<i>Jaydia carinata</i>	208
<i>Jaydia lineatus</i>	209
<i>Jaydia truncata</i>	210

K

<i>Kaiwarinus equula</i>	246
<i>Katsuwonus pelamis</i>	429
<i>Konosirus punctatus</i>	74
<i>Kuhlia mugil</i>	368
<i>Kyphosus bigibbus</i>	371
<i>Kyphosus cinerascens</i>	371
<i>Kyphosus pacificus</i>	372
<i>Kyphosus vaigiensis</i>	373

L

<i>Labracoglossa argentiventris</i>	367
<i>Lactoria cornuta</i>	467
<i>Lactoria diaphana</i>	468
<i>Lactoria fornasini</i>	469
<i>Laeops kitaharae</i>	445
<i>Lagocephalus cheesemanii</i>	480
<i>Lagocephalus inermis</i>	481
<i>Lagocephalus scleratus</i>	481
<i>Lagocephalus spadiceus</i>	482
<i>Lagocephalus suezensis</i>	483
<i>Lateolabrax japonicus</i>	183
<i>Lateolabrax latus</i>	183
<i>Lates japonicus</i>	182
<i>Lepidotrigla guentheri</i>	167
<i>Lepidotrigla hime</i>	167

<i>Lepidotrigla japonica</i>	168
<i>Lepidotrigla kishinouyei</i>	169
<i>Lepidotrigla microptera</i>	170
<i>Lethrinus genivittatus</i>	317
<i>Lethrinus haematopterus</i>	318
<i>Lethrinus nebulosus</i>	319
<i>Lobotes surinamensis</i>	289
<i>Lophiomus setigerus</i>	102
<i>Lophius litulon</i>	103
<i>Lutjanus argentimaculatus</i>	273
<i>Lutjanus bengalensis</i>	274
<i>Lutjanus fulviflamma</i>	275
<i>Lutjanus lutjanus</i>	276
<i>Lutjanus ophuysenii</i>	277
<i>Lutjanus quinquelineatus</i>	278
<i>Lutjanus rufolineatus</i>	279
<i>Lutjanus russellii</i>	280
<i>Lutjanus sebae</i>	281
<i>Lutjanus stellatus</i>	281

M

<i>Macroramphosus sagifue</i>	122
<i>Masturus lanceolatus</i>	494
<i>Maurolucus japonicus</i>	87
<i>Megalaspis cordyla</i>	247
<i>Mene maculata</i>	230
<i>Metavelifer multiradiatus</i>	95
<i>Microcanthus strigatus</i>	374
<i>Minous pusillus</i>	160
<i>Minous quincarinatus</i>	161
<i>Mobula mobular</i>	49
<i>Mola mola</i>	496
<i>Monocentrus japonica</i>	116
<i>Mugil cephalus cephalus</i>	125
<i>Mulloidichthys vanicolensis</i>	324
<i>Muraenesox bagio</i>	68
<i>Muraenesox cinereus</i>	69
<i>Mustelus griseus</i>	24
<i>Mustelus manazo</i>	24
<i>Myliobatis tobijei</i>	50
<i>Myripristis berndti</i>	110
<i>Myripristis kochiensis</i>	111

N

<i>Narke japonica</i>	38
<i>Naso lituratus</i>	413
<i>Naso</i> sp.	414
<i>Naso unicornis</i>	414
<i>Naucreus ductor</i>	248
<i>Nemipterus peronii</i>	304
<i>Nemipterus virgatus</i>	305
<i>Neomerinthe erostris</i>	150
<i>Nibea albiflora</i>	321
<i>Nuclequula nuchalis</i>	265

学名索引

- O**
- Onigocia spinosa* 174
Ophichthus altipennis 60
Ophichthus machidai 61
Ophisurus macrorhynchus 62
Oplegnathus fasciatus 369
Oplegnathus punctatus 370
Orectolobus japonicus 14
Ostorhinchus doederleini 211
Ostorhinchus endekataenia 212
Ostorhinchus fleurieu 213
Ostorhinchus holotaenia 214
Ostorhinchus kiensis 215
Ostorhinchus notatus 216
Ostorhinchus semilineatus 217
Ostracion immaculatus 470
Oxyconger leptognathus 70
- P**
- Pagrus major* 312
Parablennius yatabei 399
Paracaesio xanthura 282
Paracentropogon rubripinnis 163
Paralichthys olivaceus 437
Parapercis pulchella 393
Parapercis randalli 393
Parapercis sexfasciata 394
Paraplagusia japonica 455
Paraploactis kagoshimensis 165
Parapriacanthus ransonneti 339
Parapristipoma trilineatum 296
Parapterois heterura 151
Parasclopsis inermis 306
Parascomgrops philippinensis 185
Parastromateus niger 249
Parexocoetus brachypterus 138
Parexocoetus mento 138
Parupeneus biaculeatus 325
Parupeneus chrysopleuron 325
Parupeneus ciliatus 326
Parupeneus heptacanthus 327
Parupeneus janseni 328
Parupeneus indicus 330
Parupeneus multifasciatus 331
Parupeneus spilurus 331
Parupeneus indicus 330
Parupeneus janseni 328
Pegasus volitans 118
Pempheris adusta 340
Pempheris japonica 341
Pempheris nyctereutes 342
Pempheris schwenkii 343
Pennahia argentata 322
Pentapodus nagasakiensis 307
- Petrosciartes breviceps* 400
Photopectoralis bindus 266
Phtheirichthys lineatus 224
Physiculus japonicus 98
Pisodonophis cancrivorus 63
Platax teira 405
Platycephalus sp. 175
Platyrrhina tangi 37
Plectorhinchus cinctus 298
Plectorhinchus flavomaculatus 299
Plectorhinchus gibbosus 300
Plectorhinchus picus 300
Plectorhinchus unicolor 301
Plectorhinchus vittatus 302
Plectranthias japonicus 197
Pleuronichthys cornutus 447
Plotosus japonicus 86
Polydactylus plebeius 383
Polydactylus sextarius 385
Pomacanthus imperator 353
Pomacanthus semicirculatus 354
Pomadasyus quadrilineatus 303
Priacanthus blochii 199
Priacanthus hamrur 200
Priacanthus macracanthus 201
Priacanthus sagittarius 202
Prionurus scalprum 415
Pristigenys nipponia 203
Proscyllium habereri 22
Psenes arafurensis 380
Psenes cyanophrys 381
Psenes maculatus 382
Psenes pellucidus 382
Psenopsis anomala 379
Psettina iijimae 446
Pseudaesopia japonica 451
Pseudocaranx dentex 250
Pseudolabrus sieboldi 388
Pseudorhombus dupliciocellatus 438
Pseudorhombus levisquamis 439
Pseudorhombus pentophthalmus 440
Pterocaesio digramma 285
Pterocaesio marri 286
Pterocaesio tile 287
Pterocaesio trilineata 288
Pterois lunulata 152
Pterois sp. 154
Pterois volitans 153
Pteroplatytrygon violacea 43
Pterycombus petersii 268
Pterygotrigla hemisticta 171
- R**
- Rachycentron canadum* 227
Rastrelliger kanagurta 430
Remora brachyptera 225
Remora osteochir 225
Remora remora 226
Repomucenus curvicornis 402
Repomucenus huguenin 403
Rhabdamia gracilis 218
Rhabdosargus sarba 313
Rhincodon typus 15
Rhynchopelates oxyrhynchus 364
Roa modesta 351
Rogadius asper 177
Rudarius ercodes 464
- S**
- Sacura margaritacea* 197
Sarda orientalis 430
Sardinella lemuru 75
Sardinella melanura 76
Sardinella zunasi 77
Sardinops melanostictus 78
Sargocentron ittodai 112
Sargocentron rubrum 113
Saurenhelys cancrivora 71
Saurida gracilis 89
Saurida macrolepis 89
Saurida nebulosa 90
Saurida wanieso 91
Scarus ghobban 390
Scarus ovifrons 391
Scarus rivulatus 392
Scomber australasicus 431
Scomber japonicus 432
Scomberoides lysan 251
Scomberoides tol 251
Scomberomorus nipponius 433
Scombrops boops 222
Scorpaena miostoma 155
Scorpaenodes evides 156
Scorpaenopsis neglecta 156
Scorpaenopsis venosa 157
Sebastes sp. 147
Sebastiscus albofasciatus 144
Sebastiscus marmoratus 145
Sebastiscus tertius 146
Selar crumenophthalmus 252
Seriola aureovittata 252
Seriola dumerili 253
Seriola quinqueradiata 254
Seriola rivoliana 255
Siganus fuscescens 407
Siganus spinus 408
Sillago japonica 323
Siphamia tubulata 219

<i>Sphyraena barracuda</i>	418	<i>Trichiurus</i> sp.	425
<i>Sphyraena forsteri</i>	418	<i>Triso dermatopterus</i>	198
<i>Sphyraena iburiensis</i>	419	<i>Tylosurus acus melanotus</i>	140
<i>Sphyraena japonica</i>	419	<i>Tylosurus crocodilus crocodilus</i>	141
<i>Sphyraena obtusata</i>	420		
<i>Sphyraena pinguis</i>	421	U	
<i>Sphyraena putnamae</i>	421	<i>Upeneus guttatus</i>	332
<i>Sphyraena</i> sp.	422	<i>Upeneus itoui</i>	333
<i>Sphyrna lewini</i>	33	<i>Upeneus japonicus</i>	334
<i>Sphyrna zygaena</i>	34	<i>Upeneus moluccensis</i>	335
<i>Spratelloides gracilis</i>	79	<i>Upeneus subvittatus</i>	336
<i>Squalus brevirostris</i>	35	<i>Upeneus tragula</i>	337
<i>Squatina japonica</i>	36	<i>Upeneus vittatus</i>	338
<i>Stegostoma fasciatum</i>	16	<i>Uranoscopus bicinctus</i>	396
<i>Stephanolepis cirrhifer</i>	465	<i>Uranoscopus chinensis</i>	397
<i>Stethojulis interrupta terina</i>	388	<i>Uranoscopus japonicus</i>	398
<i>Stolephorus indicus</i>	84	<i>Uraspis helvola</i>	260
<i>Strongylura anastomella</i>	140	<i>Uraspis uraspis</i>	261
<i>Strophidon sathete</i>	56		
<i>Strophidon ui</i>	57	X	
<i>Sufflamen fraenatum</i>	457	<i>Xiphasia setifer</i>	401
<i>Suggrundus meerdervoortii</i>	178		
<i>Synanceia verrucosa</i>	162	Z	
<i>Synodus fuscus</i>	92	<i>Zanclus cornutus</i>	409
<i>Synodus jaculum</i>	92	<i>Zebrias zebrinus</i>	452
<i>Synodus ulae</i>	93	<i>Zeus faber</i>	117
		<i>Zu cristatus</i>	97
T			
<i>Taeniamia kagoshimanus</i>	220		
<i>Taeniurops meyeri</i>	44		
<i>Takifugu alboplumbeus</i>	484		
<i>Takifugu flavipterus</i>	485		
<i>Takifugu pardalis</i>	486		
<i>Takifugu rubripes</i>	487		
<i>Takifugu snyderi</i>	488		
<i>Takifugu xanthopterus</i>	489		
<i>Tarphops oligolepis</i>	441		
<i>Teixeirichthys jordani</i>	363		
<i>Telatrygon zugei</i>	45		
<i>Terapon jarbua</i>	365		
<i>Terapon theraps</i>	366		
<i>Tetrosomus reipublicae</i>	472		
<i>Thamnaconus modestus</i>	466		
<i>Thunnus albacares</i>	434		
<i>Thunnus orientalis</i>	435		
<i>Thunnus tonggol</i>	436		
<i>Thysanophrys celebica</i>	179		
<i>Torquigener brevipinnis</i>	490		
<i>Trachinocephalus trachinus</i>	93		
<i>Trachinotus baillonii</i>	256		
<i>Trachinotus blochii</i>	257		
<i>Trachurus japonicus</i>	258		
<i>Trachyrhamphus serratus</i>	124		
<i>Trichiurus japonicus</i>	424		

謝辞

内之浦漁港の柳川拓哉氏（有限会社 昌徳丸）には標本と写真を提供していただいたうえ、珍しさの判断にご助言を賜った。また、恵隆丸（個人）の皆さま、正栄丸（吐合水産）の皆さま、三代丸（個人）の皆さま、第三千鳥丸（自営定置）の皆さま、昌徳丸（有限会社 昌徳丸）の皆さま、潮路丸（株式会社 潮路）の皆さま、岸良の第3海福丸の皆さま、船間の第3漁福丸（深井水産）の皆さま、内之浦漁業協同組合長の柳川良則氏をはじめとする漁協の皆さま、江川 剛氏（有限会社 江川水産）、荒武一廣氏、荒武良子氏（ひろ水産）、白坂直道氏（潮騒荘）をはじめとする内之浦漁港の関係者の皆さまには標本の収集に多大なご協力をいただいた。

元北海道大学の尼岡邦夫氏にはカレイ目、仲谷一宏氏にはメジロザメ科、国立科学博物館の松浦啓一氏にはフグ目、神奈川県立生命の星・地球博物館の瀬能 宏氏にはハゼ亜目ほか、神戸高校の矢頭卓児氏にはホウボウ科、国立海洋生物博物館の H.-C. Ho 氏にはウナギ目、タラ目、およびアンコウ目、西海区水産研究所の下瀬 環氏にはマカジキ科、宮崎大学大学院の三木涼平氏にはフエフキダイ科とカマス科の同定に関する助言を賜った。元琉球大学大学院の櫻井もも子氏にはサメ類に関する助言を賜った。Monster Pro Shop の平坂 寛氏には食味に関する助言を賜った。

田中水産の田中 積氏をはじめとする鹿児島市中央卸売市場魚類市場の関係者の皆さま、いおワールドかごしま水族館館長の荻野洸太郎氏ならびに展示課の皆さま、ならびに鹿児島水圏生物博物館の岩坪洸樹氏には標本と写真の収集にご協力いただいた。鹿児島大学総合研究博物館の学生あるいは OB・OG である目黒昌利氏、吉田朋弘氏、田代郷国氏、ジョン ビョル氏、江口慶輔氏、金出侑佳氏、稲葉智樹氏、吉浦 藍氏、川間公達氏、森下悟至氏、中村潤平氏、およびボランティアの上城拓也氏、立川日奈子氏には標本の収集を手伝っていただいた。同博物館の学生あるいは OB・OG である福井美乃氏、シリカンヤ チュンタナウォン氏、安藤ゆきの氏、大澤洋太氏、クント ウィボウ氏、藤原恭司氏、萬代あゆみ氏、川路由人氏、ならびにボランティアの原口百合子氏、大西聡子氏、伊東正英氏、高山真由美氏、内村公大氏をはじめとする方々には標本の作製・登録作業などにご協力いただいた。国立海洋生物博物館ボランティアの小枝あゆみ氏および東京都豊島区の畑 貴史朗氏には標本写真の画像処理にご協力いただいた。これらの方々に感謝する。

本書の出版にあたり、JSPS 研究奨励費 (PD: 26-477; DC2: 29-6652)、JSPS 海外特別研究員制度 (29-304)、笹川科学研究助成金 (28-745)、JSPS 科研費 (19770067, 23580259, 24370041, 26241027, 26450265)、JSPS 研究拠点形成事業－B アジア・アフリカ学術基盤形成型、国立科学博物館「日本の生物多様性ホットスポットの構造に関する研究プロジェクト」、文部科学省特別経費「薩南諸島の生物多様性とその保全に関する教育研究拠点整備」、および鹿児島大学重点領域研究環境（生物多様性・島嶼プロジェクト）学長裁量経費の援助を受けた。

編者一同



編者・著者紹介

小枝圭太 Keita KOEDA

1986年、京都府生まれ。博士（理学）。学位取得後、鹿児島大学総合研究博物館でのJSPS特別研究員-PDを経て、現在はJSPS海外特別研究員として台湾の国立海洋生物博物館に赴任。専門は魚類学で、ハタネボ科魚類を中心に分類、生物地理、生活史、行動、魚類相などを研究。2015年に若手魚類研究者間のネットワーク構築と技術交流を目的として「よなぐにプロジェクト」を発起。翌2016年に『Annotated checklist of fishes of Yonaguni-jima island, the westernmost island in Japan』（日本最西端の島：与那国島の魚類リスト）を出版した。2017年12月には同じプロジェクトシリーズとして『緑の火山島 口永良部島の魚類』を出版した。



畑 晴陵 Harutaka HATA

1991年、ドイツ生まれ。鹿児島大学大学院連合農学研究科・博士課程2年、日本学術振興会特別研究員（DC2）。専門はカタクチイワシ科を中心としたニシン目魚類の分類学。ニシン目のほか、ハシナガアナゴからミナミメダイまで、様々な魚類に関する研究論文を執筆している。2017年12月までに出版した論文は110本以上。鉄道とアメリカ車にも精通する。これまでに『硫黄島と竹島の魚類』や『与論島の魚類』、『鹿児島湾の魚類』、『Market fishes of Panay Island』などの書籍に著者として参加。趣味は鉄道で、休日には1日中鉄道に乗り続けることも。鉄道だけでなくアメリカ車にも造詣が深く、すれ違うだけで車種（鉄道であれば車両）の同定が可能。



山田守彦 Morihiko YAMADA

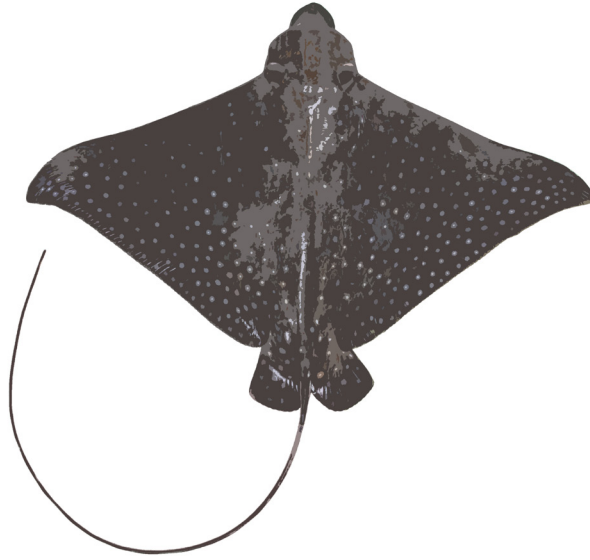
1973年、福岡県生まれ。鹿児島大学大学院水産学研究科修了後、沖縄座間味島のダイビングサービスでの丁稚奉公を経験し、1999年4月からかごしま水族館勤務。現在、展示課魚類展示係所属。鹿児島周辺の生きものを中心にいろいろな水の生きものの飼育を担当。ライフワークであるダイビングを活かし、実際に見てきた海の環境を紹介することを心がけている。かごしま水族館がおこなっている、県本土周辺の定置網漁船への定期的な乗船で、2003年から現在まで内之浦を担当している。2008年にかごしま水族館が出版した「～かごしま水族館が確認した～鹿児島島の定置網の魚たち」の編集を担当。現在、さらに10年分のデータを補足した改訂版を作成中。



本村浩之 Hiroyuki MOTOMURA

1973年、静岡県生まれ。博士（農学）。国立科学博物館、オーストラリア博物館を経て、現在、鹿児島大学総合研究博物館、教授（水産学研究科と大学院連合農学研究科を兼任）。日本魚類学会代議員、鹿児島県自然環境保全協会理事、国際自然保護連合種の保存専門委員。専門は魚類分類学で、フサカサゴ科を中心に熱帯性魚類の分類と生物地理を研究。最近では南日本や東南アジア諸国の魚類相解明を目指して日夜研究をおこなっている。主な編著・監修書に『Threadfins of the world (family Polynemidae)』、『Fishes of Yakushima Island』、『硫黄島・竹島の魚類』、『与論島の魚類』、『日本のペラ大図鑑』、『学研の図鑑 LIVE・魚』、『Market fishes of Panay』、『鹿児島湾の魚類』などがある。





黒潮あたる鹿児島 内之浦漁港に水揚げされる魚たち

発行日 2018年3月1日
編集者 小枝圭太・畑 晴陵・山田守彦・本村浩之
DTP 小枝圭太
発行所 鹿児島大学総合研究博物館
〒890-0065
鹿児島市郡元1-21-30
Tel: 099-285-8141; fax: 099-285-7267
<http://www.museum.kagoshima-u.ac.jp/>
印刷所 株式会社朝日印刷
〒890-0055
鹿児島市上荒田5-5-1
Tel: 099-251-2191; fax: 099-253-7331

©2018 The Kagoshima University Museum
Printed in Japan ISBN 978-4-905464-12-9

Citation:

小枝圭太・畑 晴陵・山田守彦・本村浩之（編）. 2018. 黒潮あたる
鹿児島海 内之浦漁港に水揚げされる魚たち. 鹿児島大学総合研
究博物館, 鹿児島市. 520 pp., 1059 figs.

Koeda, K., Hata, H., Yamada, M. and Motomura, H. (eds.) 2018. Field
guide to fishes landed at Uchinoura Fishing Port, Kagoshima, Japan.
The Kagoshima University Museum, Kagoshima. 520 pp., 1059 figs.







*Field guide to fishes landed at
uchinoura Fishing Port, Kagoshima, Japan*